

幻想詰将棋型録（新装版）

幻想詰将棋型録旧版の作成は1979年から1980年にかけてでした。出来栄えについては誤字脱字はもちろんのこと、勘違い、手数計算ミス、検討不足が散見されるものでした。

そのように不満の残る出来の旧版ですが、可愛い我が子であることに違いがなく、いつかはもっとまともなものに仕上げたい、と考え続けてきました。しかし実際に手をつけるには、40年ほどが必要だったのです。

こんな40年も前の文章が、現代の人たちに受け入れられるのかどうかには甚だ不安がありますが、それを案じて仕方がないことなのでしょう。

「自分のできることに全力を尽くす。」

謝辞

そもそも今回の新装版は、神無太郎氏の声掛けがなかったら、成立していませんでした。執筆中も手厚いサポートをしていただきました。実は氏からは10年前も20年前も「書きませんか。」と何度も声掛けを頂いていたのです。こんな私を見捨てずにいてくれた氏は、私にとって神様仏様です。本当にありがとう。

旧版で懸案だった超長編の分析では、神無七郎氏のweb上の論考ならびに私信に大いに助けられました。ここにお御礼申し上げます。

とは言え、本稿の文責は全て筆者にあるのは当然のことです。

旧版を読んだことのある人も、読んだことのない人もこの新装版を楽しんで読んでいただけることを願って、序に変えます。読んだ人は是非感想などをお寄せください。

幻想詰将棋型録新装版の基本方針

1. 作品選択は旧版のままとし、追加も削除もしない。作品番号も変更しない。現行ルールでは認められないすかし詰も含まれるが当時は問題にもされなかった。ご承知ください。
2. 旧版では、不完全作について作者以外（筆者を含む）の修正図に差し替えたものが数点あるが、すべて原図に戻した。
3. 解説文は誤字脱字その他明らかな間違いや舌足らずな表現を直すに止める。現代の目で見ると、疑問の部分も少なからずあるが執筆時の意図を考えて、書き直すことはしない。ただし、場合に応じて書き換えた部分もある。
4. 旧版で特に不本意だった超長編については、分量を増やし全面的に書き直した。
5. 超長編については、読みやすさを考えて手順の略記をする。しかし復元可能な略記に努める。誰でも全手順の復元ができ、再研究の土台として役に立つことを目標にした。
6. 旧版公開後現在までにたくさんの不完全作が判明した。旧版の記述をできるだけ生かしたいので、余詰早詰の解説を詳細に述べることは基本的に避けた。本文で言及していない不完全の内容については、付録を参照されたい。本文中「＊」で始まる行は新装版で付け加えたものである。

目次

まえがき

第1章 「ばか詰教室」以前

幻想詰将棋型録 1 1

第2章 「ばか詰教室」始まる

幻想詰将棋型録 2 10

幻想詰将棋型録 3 20

第3章 第一期黄金時代

幻想詰将棋型録 4 29

幻想詰将棋型録 5 38

幻想詰将棋型録 6 49

幻想詰将棋型録 7 61

第4章 「ばか詰教室」から「フェアリー詰将棋研究室」へ

幻想詰将棋型録 8 67

番外編 四銀図式+ α 83

序 83

《四銀図式の部》 84

《四金図式の部》 89

《参考作品の部》 91

付録A 関連記事 97

付録B 検討結果 100

幻想詰将棋型録 1

まえがき

この書き物はフェアリー詰将棋の歴史と作品紹介を意図としています。ばか詰の出現が、詰バラ67号だからほぼ18年前、「ばか詰教室」(今の「フェアリー詰将棋研究室」の前身)が始まったのは190号【71-11】だからこれは8年前。300年を超える歴史を持つ詰将棋の考証は現在ではかなり難しい面があるのではないのでしょうか。その点こちらはまだ十分調べることができる。

と言うことで、とりあえず190号以降の詰バラに発表されたフェアリー作品の総まくりを敢行してみました。[発表場所が限られているからこれが可能!] その数およそ630局。面白い作もかなりありますので独断的に選択解説してお目にかけようと言うわけ。

190号以前に関しては資料が足りませんが、判明した限りの範囲で第1章として書き加えました。どなたかに詳しく書き直して欲しい。

私の主眼は記録を残すことにあるので、必ずしも名作ばかりを紹介するわけではなく、また不完全作もたくさん取り上げるつもりです。修正図の発表されているものは原図の代わりに修正図を出すこともある。各図とも作者、発表場所、解答を原則として全てつけます。図はスペースの関係で部分図で書くことが多くなりそうです。

筆者の力不足で資料の不備誤解など多いかと怖れていますが、気のついた方は是非当方に連絡してください。ご協力お願いします。

凡例

1. 詰バラについては号数と発行時を併記する。
ex. 67号【61-8】は、通巻67号＝1961年8月号の意。
2. 作品には通し番号をつける【#1、#52 etc.】
3. ばか詰が最も多いので、特に断らない限りばか詰です。他のルールのは作は、作品ごとに※などで注意する。

第1章「ばか詰教室」以前

§1 発生

「ばか詰教室」が花沢正純氏の担当によって詰バラ誌上に登場したのは通巻190号【71-11】でした。これが公式な認知の日です。しかし、ばか詰そのものの起源は古くカピタンの記述によればそれより10年前通巻67号【61-8】で S・おぎの氏が提唱されたのが最初とのことです。

ばか詰以外でも、安南詰などは歴史が古いらしいのですが、残念なことに筆者はそれらの原資料を持っていないので、この頃のことは孫引きなどでお茶を濁すことにします。どなたか適当な人に詳しく書いてほしい。

当時のばか詰を紹介する前に67号に載ったルールから(詰バラ190号からの孫引き)

- ①玉方は残り駒全部(但し王を除く)を使用できる。
- ②王手王手で詰めなければならぬ。
- ③最短手数で詰めたものを正解とする(手数が中心)
- ④従って玉方は最悪の応手をするようになる。
- ⑤その他は一般詰将棋と同じ。

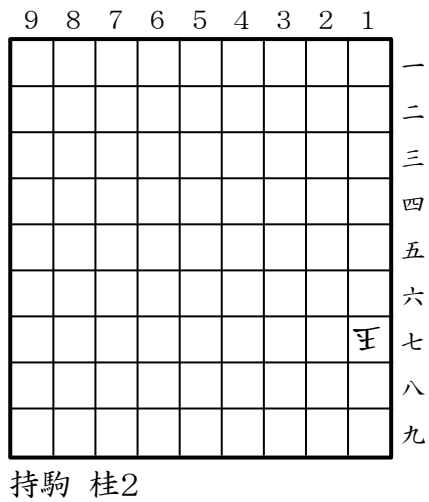
・①②は⑤に含まれるだろうし、③④はちょっとはっきりしない点があります。ルールについての異論は「ばか詰教室」が始まってからも続きます。

#1 S・おぎの 67号【61-8】

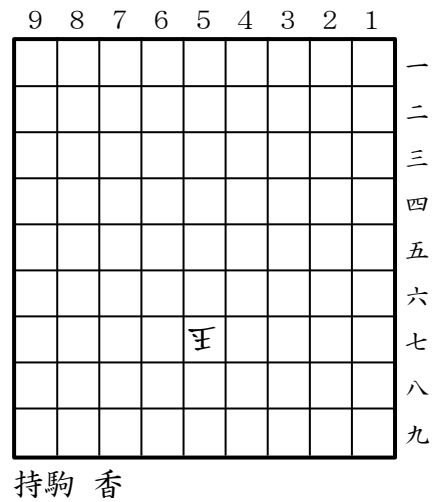
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						王			二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩2

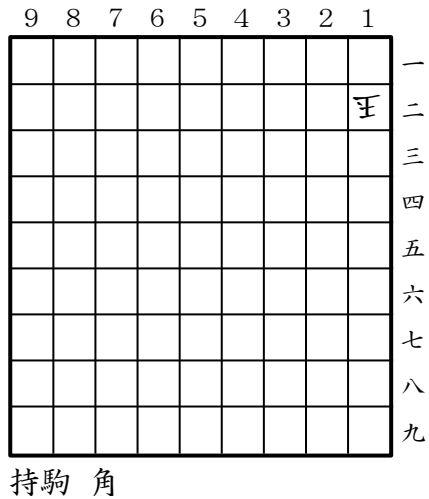
#2 S・おぎの 67号 【61-8】



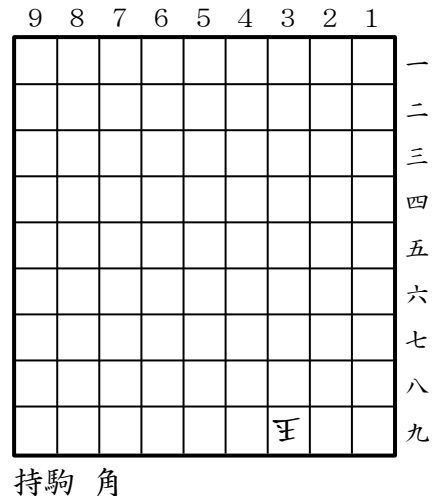
#5 S・おぎの 67号 【61-8】



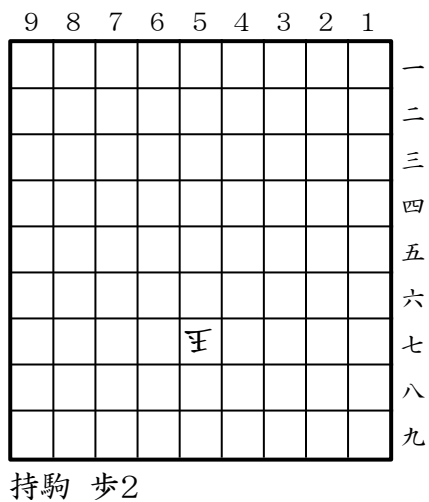
#3 S・おぎの 67号 【61-8】



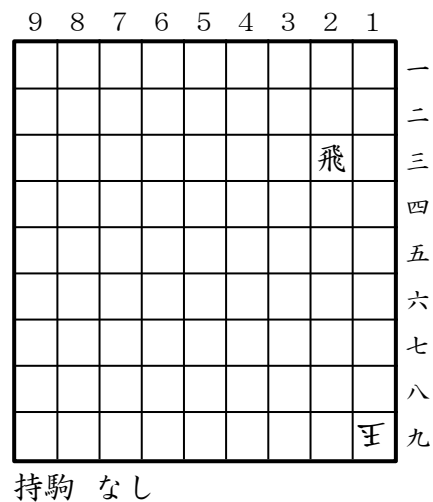
#6 凡骨生 72号 【62-1】



#4 S・おぎの 67号 【61-8】



#7 久塚郷行 75号 【62-4】



#8 板橋あさゑ 85号 【63-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王
							歩	歩	歩

持駒 なし

解：

#1

作意：33歩 22玉 32歩成 13玉 14歩 12玉 13歩成 11玉 22と迄9手詰。

早詰：33歩 23玉 24歩 22玉 23歩成 31玉 32と迄7手。

・裸玉が2歩で詰むところに可笑しみを感じたわけなのでしょう。早詰にも非限定あり。

#2

作意：29桂 16玉 28桂 25玉 37桂 24玉 36桂 13玉 25桂 A22玉33桂成 12玉 24桂 21玉 32桂成 11玉 22圭迄17手詰。

Aで12玉 24桂 22玉 33桂成 31玉 32圭迄 15手の早詰。(中出慶一氏が169号！で指摘)

・早詰順にも非限定があり、現代の眼で見ると作品とは言えない。しかしばか詰の雰囲気は確かにある。

#3

作意：34角 23銀 同角成 21玉 22銀迄5手詰。

・これは1961年ということを割り引いても、非限定が多すぎる。

#4

58歩 56玉 57歩 55玉 56歩 54玉 55歩 53玉 54歩 42玉 43歩 52玉 53歩成 41玉 42と迄15手詰。

#5

作意：59香 A58飛 同香 B同玉 38飛 48飛 同飛 59玉 49飛迄9手詰。

・Bで48 (68) 玉もあるし、何よりAで角合以下同手数の余詰が成立する。

#6

93角 57飛 同角成 49玉 39飛迄5手詰。

・限定打限定合が爽快な有名作。配置をみると、全手順限定は意図していると思われる。#1～#5からは明らかに前進している。

#7

13飛生 18飛 同飛生 29玉 19飛迄5手詰。

・これも全手順限定。飛生2回も織り込んで当時としては最先端。

#8

12歩生 21玉 11歩成 31玉 21と 同玉 32歩成 11玉 22と迄9手詰。

・初手絶対だが、この局面で12歩が邪魔駒となっている。ここから12歩の原形消去が現れるとはすごい！最終手が2通りあるのが惜しい。

以上の作を見て気づくのは、

1. 裸玉が多いこと。
2. 手順の限定にあまり関心がない(らしい) こと。

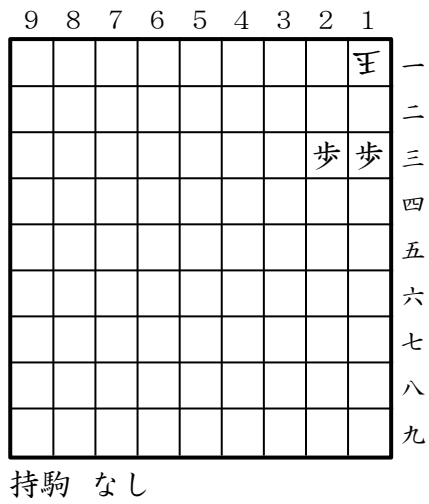
要するに、仕掛けの乏しさが感じられる。この後ばかり詰はなかば忘れ去られてしまう。

余談だが、ばか詰誕生の詰パラ67号には奇しくも鵬看田中輝和氏の双玉煙詰第1号「宇宙」が発表されている。この翌年には山田修司氏が劇的なカムバックを果たすなど当時は詰棋の黄金時代だったのだ。#1～#8などでは、魅力の点でとても太刀打ちできなかったろうと思われる。時期未だ至らず。

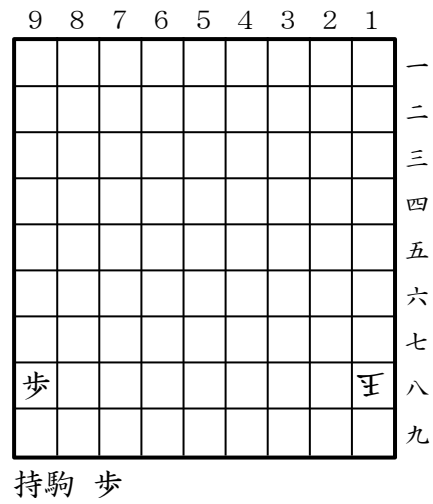
§2 胎動

ほぼ7年の空白の後ばかり詰を紹介し大発展の火付け役を果たしたのは、中出慶一氏である。氏は169号【70-2】に「落ち穂ひろい」と題した文を書き、その中で新作ばかり詰を6題発表した。作品としては初期のに似て裸玉を歩で追いかける式のものが多く、これが異端派(?) 作家たちの注目を集めたことは疑いない。

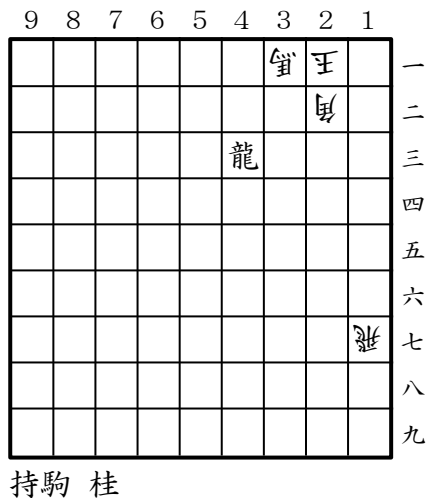
#9 中出慶一 169号【70-2】



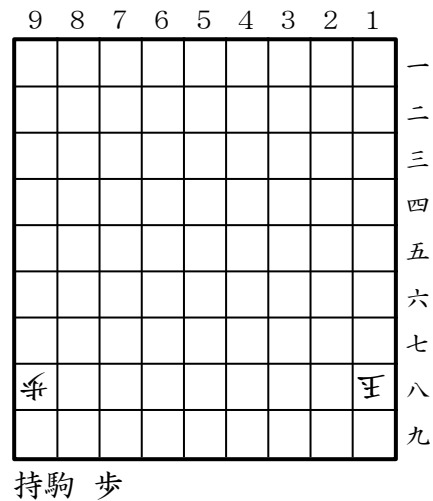
#12 中出慶一 169号【70-2】



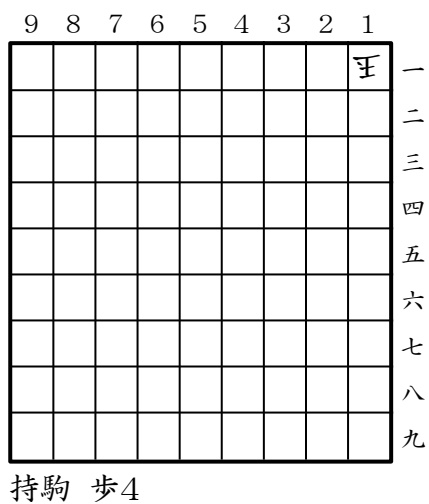
#10 中出慶一 169号【70-2】



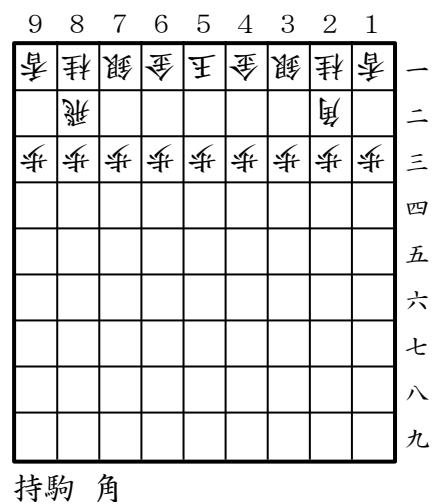
#13 中出慶一 169号【70-2】



#11 中出慶一 169号【70-2】都詰指定



#14 中出慶一 169号【70-2】



以上6題とも169号【70-2】中出慶一作。
いずれも作意発表はなく手数のみ記されている。

手数は順に、19手、9手、51手、49手、59手、13手。

実はこの6作はすべて早詰作で、その指摘が173号【70-6】に出ている。指摘したのは、花沢正純、松井克彦の両氏。以下の手順はそれによる。

解：

#9

12歩生 21玉 11歩成 31玉 21と 41玉 31と 42玉 41と 32玉 42と 21玉 32と 11玉 22と迄15手詰。

#10

作意：33桂 11玉 21桂成 同馬 13龍 12桂合 同龍 同飛生 23桂迄9手詰。

早詰：32龍 11玉 31龍 12玉 21角 11玉 23桂迄7手。
・本局のみ後にサロンで作意発表。作意は手筋のオンパレードで実に巧妙。桂吊しの第1号。

#11 (最後55で詰上げる、都詰の条件作)

12歩 21玉 11歩成 22玉 12と 32玉 22と 43玉 44歩 53玉 54歩 42玉 53歩成 33玉 43歩成 34玉 44と 24玉 23と 25玉 24と 26玉 25と 27玉 26と 37玉 27と 47玉 37と 57玉 47と 66玉 57と 65玉 66歩 55玉 54と引迄37手詰。

・とにかく巧妙な手順である。脱帽！この種の条件作はあまり作られていない。狙い目？

#12

19歩 ... 13玉 14歩 23玉 13歩成 33玉 23と ... 83玉 73と 84玉 74と 85玉 75と 96玉 97歩 95玉 96歩 94玉 95歩 93玉 94歩 83玉 93歩成 73玉 74と 72玉 73と 81玉 82と迄45手詰。

#13

19歩 ... 13玉 14歩 23玉 13歩成 33玉 23と ... 93玉 83と 94玉 93と 95玉 ... 96と 87玉 97と 88玉 98と 77玉 88と 86玉 87と ... 83玉 84と 82玉 83歩 92玉 93と 81玉 82と迄55手詰。

#14

42角 62玉 53角成 72玉 71馬 同玉 72銀 62玉 61銀成 72玉 62金迄11手歩余。

・この初形は後に何度か現れた。

ここで時間を少し逆転させる。門脇芳雄氏の功績について述べたい。

氏は数年前から詰パラ誌上にチェスプロブレムなどの紹介を通して、詰将棋の世界でも従来の殻を破った現代的な作を作ろうと呼びかけていた。

「芸術バズルを求めて」150号【68-7】

「前衛作品を作ろう」155号【68-12】

「チェスエンドゲームの魅力」156号【69-1】

「チェスあれこれ」162号【69-7】

そしてついに、166号【69-11】に6ページにわたって、「チェスの幻想プロブレム」を発表。フェアリーチェスの各分野を例題付きで解説している。内訳はヘルプメイト2題、セルフメイト2題の他変則盤、変則駒そしてマキシプロブレムまで限られた紙数ながらその概観と魅力をよく表している文章で、今読んでも古びていない。この論文も前衛作家たちにはかなりの刺激を与えたとと思われる。

後に氏は花沢氏より「ばか詰教室」＝「フェアリー詰将棋研究室」の担当を引き継ぎ前衛賞を創設するなどフェアリー界のために活躍した。(これからもお願いします。)

フェアリーチェスについてはとにかく日本語の文献が非常に少ない(チェス自体人気がないのだから無理ないが)。書店で買える本としては白水社のクセジュ「チェスの本」くらいか？詰パラでは門脇氏が上記論文の他、221号【74-6】から239号【75-12】にかけて11回「チェスパズルの世界」を連載している。

また、若島正氏がカピタン5号より「Welcome to Fairy-Land」と題して連載を始めたが、その1回だけで中止。若島さん続きを期待しています。

§3 圧力上昇

さて、中出氏の投じた石に対して、早速反響があった。それも爆弾のような。173号【70-6】の「バカ詰一束」である。内容は花沢、松井両氏の「落ち穂ひろい」に対する早詰指摘(前述)と新題の発表。花沢正純氏の5~7手の妙手型短編4題と、加藤徹氏のなんと驚く171手詰！

花沢氏のは余詰で結局2題生き残っている(#15、#16)。作風は本格的なばか詰と言えるもので、駒の広がりなどは気にせず狙いの筋の実現を図る。§1、§2の作との違いは明らかである。また出題にあたっては、手数制限を付記すべしと主張している。

#17は手順を見てありふれていると思う人がいるかもしれないが、発表時期をよく考えてほしい。5年後に19447手の最長不倒を成し遂げた作者のデビューとしては当然かもしれないが、ばか詰の将来の発展を約束する作と言える。なお本図は発表図に56桂加えた修正図で、発表した作意順も誤記で後に163手詰と訂正された。指摘は森茂氏。

#15 花沢正純 173号 【70-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
	飛				馬				二
		飛			馬				三
角		馬		桂	馬				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

#16 花沢正純 173号 【70-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					銀	金	王		一
								歩	二
					馬		と	馬	三
									四
				馬					五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛2

#17 加藤徹 173号 【70-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						馬			一
						王			二
	と	歩							三
歩									四
と									五
	桂	桂	歩	桂	角	歩	桂		六
と	歩	金	銀	金	歩	金	歩		七
		香		歩		香	銀		八
香					王		金	香	九

持駒 なし

解：

#15

71飛生 52玉 72飛生 61玉 62飛成迄5手詰。

・手筋の飛生で玉を呼びこんで、両王手で決める。

最終62桂成迄も成立は作者うっかりしたか。

#16

32銀 同馬 91飛 同角 11飛迄5手詰。

・遠打の第1号。カムフラージュがうまい。

*余詰：32と 同銀 23飛 22合 11飛迄。

#17

39金 59玉 49金 69玉 59金 79玉 69金 A89玉
79金 99玉 98と 同玉 88金 99玉 98金 89玉 99金
79玉 ... 69金 48玉 39銀 49玉 59金 同玉 48銀
68玉 ... 79銀 99玉 88銀 98玉 99銀 89玉 98銀
88玉 89銀 79玉 ... 右辺で19香を取らせて ...
68銀 88玉 79銀 97玉 96と 98玉 97と 99玉 98と
89玉 99と 79玉 ... 39と 18玉 28と 19玉 18と
29玉 19と 39玉 ... 79と 97玉 88と 96玉 97と
85玉 96と 75玉 64角 同角 85と 同玉 84と 95玉
85と 96玉 95と 97玉 ... 39と 17玉 28と 16玉
17と 15玉 16と 24玉 25と 13玉 24と 12玉 23と
11玉 22と迄163手詰。

・4往復の知恵の輪である。19香を取らせる時は追いかける駒が銀でないと折り返せない。また64角と捨てた後折り返す時は96銀型では王手が続かないため金で追いかけてこないとダメというしかけ。切り替えの鍵が簡明なのに驚かされる。99香(97と)消去～右辺に戻って銀に切り替えて一往復して19香を消去～左辺で銀をと金に切り替えてから一往復してから64角と捨てる～84とで最後の片道を追って右上隅で詰める、というストーリー。

花沢正純—素晴らしい作ですネ。二百手越えのバカ詰もできそう？

*残念ながら101手(二往復)の早詰が発見された。
早詰：Aより88玉！ 98と 89玉 88と 99玉 98と 89玉 88と 同玉 79金 97玉 96と 98玉 97と 同玉 88金 96玉 97金 85玉 96金 75玉 64角 同角 85金 同玉 84と... 59玉 69と 48玉 39銀 49玉 59と 同玉 48銀 68玉 59銀 ... 39玉 48銀 28玉 39銀 19玉 ... 23銀成 11玉 22全迄101手詰。最初の片道で角を消去(一工夫が必要)～84とで追いかけて、右下に戻って銀に切り替える～一往復してから19香を取らせてそのまま右辺から右上隅に追って詰める。

門脇芳桂—6月号発表の加藤徹氏作171手詰の出現には驚いた。更に11月号の215手詰も素晴らしい。この人がペンネームでなく新人なら(真正正銘の新人—主幹)おそろべき人で、久方ぶりの大型

新人の登場ではないかと思う。

・この文章は181号【71-2】の「新詰将棋」一馬鹿詰のすすめ、と題した門脇氏の小文中のものである。終わりの方に次の文章がある。

...7手詰なら相当の難解作ができる筈だし、名作ができると思う。解答を募集すれば高校級の難しさがあるろう。馬鹿詰の創作を募集し、解答を競うのも愉快ではないか。詰将棋学校特別狂?室でも開講してはどうであろうか。...

この年(1971年)の11月号で「ばか詰教室」が開校されるまで、#17以降10題ほどの作品が発表されている。その余詰指摘(余詰の定義ははっきりしていなかったが)などでサロンは中々賑やかです。中には意外な人の名前も見えて楽しい。その内6題を紹介する。

#18 加藤徹 176号【70-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						飛			一
							王		二
							飛		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

#19 加藤徹 176号【70-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
歩	歩								四
王	金								五
									六
角		金							七
飛									八
									九

持駒 香

#20 加藤徹 183号【71-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
歩	金		龍			銀	銀		六
	香	香	香	桂	桂	桂	桂	歩	七
	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	王	八
香								王	九

持駒 金2 銀

#21 加藤徹 183号【71-4】 原図=178号【70-11】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	銀								一
香	香	全							二
歩	王	歩	歩	歩					三
						ス	桂	と	四
と	歩				金				五
歩		香			桂	桂	桂	金	六
	ス		王			銀	金	金	七
ス		香		歩	歩	歩	歩		八
	王								九

持駒 歩2

#22 門脇芳桂 181号【71-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	王	一
						銀		王	二
			角		歩				三
							銀	王	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛金

#23 門脇芳桂 181号【71-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				歩			銀		三
						歩	玉		四
					玉		歩		五
						玉		金	六
							玉		七
									八
			銀					香	九

持駒 角 銀

手数は順に、7手、7手、83手、263手、7手、7手。

解：

#18

作意：13飛生 21玉 23飛生 22金合 同飛生 11玉 12金迄7手詰。

余詰：13飛成 21玉 24龍 23香合 同龍 11玉 12香迄。(妻木貴雄氏指摘)

・合駒は色々あり。今ではこの手順の方が新鮮？不成とそっぽは表裏の関係になることが多い。

#19

86金 同角生 97香 96桂合 同香 同飛生 87桂迄7手詰。

#20

29金 同玉 19金 39玉 29金 ... 79金 99玉 89金 同と直 88銀 98玉 99銀 97玉 98銀 88玉 89銀 97玉 98銀 88玉 89歩 同と 同銀 79玉 88銀 78玉 79歩 同と ... この繰り返しでと金をはがす ... 39銀 29玉 38銀 28玉 29歩 同全 同銀 39玉 28銀 48玉 39銀 59玉 48銀 68玉 59銀 79玉 68銀 88玉 79銀 98玉 89銀 97玉 88銀右迄83手詰。

・愉快的な銀鋸はがし趣向。

#21

84歩 93玉 83歩成 同玉 94と 同玉 95歩 93玉 94歩 83玉 93歩成 84玉 83と 94玉 84と 95玉 85と 同玉 86歩 84玉 85歩 83玉 84歩 93玉 83歩成 94玉 93と 84玉 94と 85玉 95と 86玉 96と 同玉 97歩 ... この繰り返しで87と、98と、89全をはがす。89全を取るところから ... 89と 同玉 98銀 88玉 97銀 87玉 ... 94銀 84玉 83銀成 85玉 84全 86玉 ... 88全 79玉 89全 69玉 ... 39全

19玉 18金 同玉 17金 19玉 18金 同玉 17金 19玉 18金 同玉 29全 17玉 18全 16玉 17全 25玉 16全！ 同玉 15と 17玉 16と 18玉 ... 79と 98玉 88と 99玉 98と 89玉 99と 79玉 ... と反転して ... 17と 25玉 35金 15玉 25金 同玉 16と 35玉 25と 45玉 35と 55玉 45と 64玉 54と 65玉 64と 55玉 54と 45玉 44と 35玉 34と 25玉 35と 15玉 25と 16玉 15と 17玉 ... 69と 88玉 79と 87玉 88と 86玉 87と 85玉 86と 84玉 85歩 94玉 95と 83玉 84と迄263手詰。

・加藤氏の長編第2弾。左辺のと金崩しが新手。特に14とを加えて、48手伸ばしたのはうまい。178号のサロンで発表した215手詰が原因だが、早詰があり後に183号【71-4】で修正図が発表された。本図はその修正図。

＊序盤のと金崩しに破調の早詰が隠れていた。98とをはがすところから、97と 88玉 98と 同銀！ 89歩 87玉 ... 97と 88玉 98と 79玉 88銀 89玉 99と迄107手詰。

#22

作意：13飛 22玉 12飛成 同銀 31角生 21玉 22金迄7手詰。

余詰：23金 同銀 42飛 32銀上 同飛生 21玉 31角成迄。

・巧妙な手筋作だが。

#23

作意：26金 同と 18角 25玉 14銀 同玉 36角迄7手詰。

余詰：26金 同玉 17銀 15玉 37角 26合 同銀迄。

・作意が巧妙すぎた？この種の両玉手ものの元祖。

それにしてもばか詰の検討は難しい。不完全作はこれからも取り上げるつもりです。作者としては昔の不完全作を持ち出されるのは不満でしょうが、筆者としては新手筋のルーツを探るためで他意はありません。お許しください。

以上で第1章を終えるつもりだったが、ここに一つ鬼子がいました。自殺詰です。

自殺詰のルール

1. 先手の玉を後手に詰めさせるのが目的。
2. 後手は先手の方針に極力抵抗する。
3. 先手の着手は玉手の連続。ただし後手玉を詰めてはいけない。

すなわち先手の方針は後手玉を逃さぬようにしか詰めないような綱渡りとなります。これはフ

エアリーチェスのセルフメイトの翻案です。セルフメイトは13世紀に既に存在しているそうです。わが自殺詰の第1号は？

#24 自殺詰 加藤徹 188号 【71-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			馬						五
			龍	飛					六
王	歩								七
									八
王			馬						九

持駒 銀2 桂

#24

88銀 同歩生 98銀 同角生 89桂 同角生 96龍 同飛 87馬 同玉迄10手詰。

これが、自殺詰の第1号局です。面白いと思いませんか？自殺詰はフェアリー詰将棋の中でも人気のないジャンルで、発表作はかなり少ない。作図解図とも難しいのが原因と思う。他の詰棋が易しいのかと言われると困るが。変化に乏しく紛れが多いのが一般的な傾向。この分野は花沢正純氏が第一人者で、煙、7連合、6000手オーバーの超長編など高度な作を発表している。

追加

A 玉以外のを詰める詰将棋

ad1 駒詰 蟹江悦蔵 旧パラ 【52-3】

91飛を詰める。飛車が玉将の代わりというわけで王手の連続で詰めなければならない。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛			歩						一
			角						二
									三
		歩	飛						四
歩									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀

解：73角成 192飛 62飛成 同歩 83銀 93飛 82馬 迄7手詰。

182合は同馬以下、93飛は82銀以下。

・3手目に飛車を捨てるのが英断。ただし、最終手で82銀生もある。

B 安南詰将棋

安南詰のルール

任意の駒はすぐ下に味方の駒があるとき、本来の性能を失いその下にある駒の性能に変化する。ここでいう上下は双方共味方の陣地に近い方を下と決める。

ad2 安南詰 津金貞男 新パラ 【54-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	歩	王	一
									二
						歩		飛	三
						銀			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角 金 歩

解：33角 イ同香 22飛成 同玉 23歩 14玉 25金迄7手詰。

イで同桂は13飛成で簡単に詰む。ただし13飛成の代わりに22金と打っても王手になってない。だからといって、21金 12玉 22飛成で詰みと思うと同歩！で逃れる。まことに油断がならない。またイで12玉とかわす手は22金で詰む（22歩などでは23玉と根元を抜かれる）。この変化のために持駒の金が必要。最後34銀は香なので25金を取れない。本当に愉快。

・この分野では小西寛（小石広志）氏が独走しているようです。フェアリー味では天竺詰と互角と思うが作るには特異な感覚がいるみたい。

幻想詰将棋型録 2

第2章「ばか詰教室」始まる

「ばか詰教室」第1回は190号【71-11】に見開き2ページをもらってスタートしました。ここで67号のS・おぎの氏のばか詰提唱の文を転載しています。ルール説明と例題を5題（#1～#5として前述）、それと新題の募集で第1回は終わり。

第2回（191号）の例題は、#6～#8の3題。そして懸賞問題第1号（#25）が出ています。

192号では規約の問題が論じられている。「玉で王手したり王手を放置したりするのは有効か無効か？」将棋には王手は防がねばならないという明確なルールがないらしく困る。ほぼ1年後に現行のようにこれらは禁手ということで決着がついた。

ここに収められる図は特に断りのない限り現行ルールに従ったものです。

次の193号にばか詰における妙手の性格について哲学的(?)な考察があるのでちょっと長いですが引用してみます。ばか詰を評する時参考になると思います。

——引用——

普通詰棋では攻め方は攻撃力を強くしようとし、玉方は防御力を強化するのが自然な指し手です。従って一見それに反した攻め方不成、玉方不成等の着手が妙手として扱われるわけです。ところがバカ詰では攻方はそのまま同じですが、玉方は防御力を弱める指し手を選ぶことになるので、それに矛盾して見える着手が妙手として扱われるべきでしょう。こんな点から、森茂氏の「バカ詰においては玉方不成は妙手ではなく成の方が妙手だと思っています。」という忠告が生まれてくるわけです。

ところでこれまでのバカ詰からも察せられるように、攻方の不成も意外と簡単に表現できます。金成憲雄氏の「バカ詰における不成は普通詰棋のそれに較べあまり妙手感はないと思います。…」という感じもここから出ているのでしょう。

一応前述の一般的な考え方に従ってさらにいくつかの玉方の妙手を拾ってみると、玉方の駒（特に大駒）を取るのが好手、また攻方に取られる合駒は小駒、攻方に取られない合駒は大駒が妙手、等が挙げられましょう。（中略）

攻方不成、飛角遠打等を見ると短手数で表現できるような手筋については普通詰棋よりバカ詰の方が表現能力が豊かなように思います。（後略）

——引用——

要するに普通詰棋の感覚でばかり詰を批評してはいけないということです。当たり前のことですが、案外わかってない人が多いみたい。

上文を続けると、取られる中合は平凡手、移動合より打合が妙手となります。ただ詰棋の感覚が染み付いているパラ党としては移動合、不成、中合などに妙手性を感じたくなるのは事実で、その辺りの理屈と感覚のズレは微妙な問題。

蛇足ながら攻方不成が妙手になり得ない理由を愚考してみました。引用文に「...、バカ詰では攻方はそのまま同じですが...」とありますがこれが違うと思う。つまり後手方が協力してくれることを100%信頼できるわけだから一見不利な着手が何のサスペンスも生じないわけ (アタリマエカ!?)

#25 花沢正純 191号 【71-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
								桂	四
				馬					五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 金

#26 花沢正純 192号 【72-1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				銀					五
									六
								王	七
				馬					八
					龍	龍			九

持駒 香

#27 井上賢一 192号 【72-1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		香	香		王	香			一
					馬				二
			香			香	龍		三
									四
			馬						五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 桂

#28 花沢正純 193号 【72-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
					銀	王		龍	六
							香		七
							龍		八
									九

持駒 なし

#29 花沢正純 193号 【72-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				王	香				四
									五
			角						六
									七
									八
									九

持駒 飛

#30 金成憲雄 193号 【72-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
飛			歩	王		金			二
			飛		歩				三
				歩					四
							馬		五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

#31 花沢正純 193号 【72-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
							飛		二
		銀				飛			三
				歩		金	馬		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金

#32 自殺詰 原敏彦 195号 【72-4】

原図=192号 【72-1】 サロン

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						科	と		四
								皇	五
				金			王		六
					馬				七
						ス	銀	王	八
									九

持駒 金3 桂

#33 25桂を詰める 原敏彦 192号 【72-1】 サロン

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							科	皇	四
							科		五
					角	ス			六
								飛	七
								皇	八
				馬			爵		九

持駒 桂2

#32は自殺詰、#33は25桂を詰める詰将棋。他の7局は全部ばか詰です。手数は順に、3手、9手、ノーヒント、5手、5手、ノーヒント、7手、10手、7手。

解：

#25

91飛 同角 22金迄3手詰。

西山輝夫一久しぶりにウーンと唸りました。

・懸賞第1号。#16の枝葉を取った作。

#26

19香 18龍 同香 同玉 38飛 28龍 同飛 19玉 29飛迄9手詰。

・難しい味あり。

#27

32龍 51玉 54飛 53角 43桂迄5手詰。

・解答45通中正解が26とのこと。この号の懸賞問題は他にも1題あり、2題とも正解したのは8名。その中には金成憲雄、山本民雄等意外な方の名前が見えて楽しい。この作者、発表数は少ないが筆者の好きな作家の一人。

#28

39龍 38銀生 37銀 27玉 28龍迄5手詰。

・そっぽ行きの第1号。作者らしいスマートな表現。

#29

41飛 42金合 同飛成 43銀引 45金迄5手詰。

・曲詰「ノ」の字。

#30

53歩生 43玉！ 52歩生 42玉 53飛成 41玉 51歩成迄7手詰。

・正解が50分の21。筋ワル生氏のばか詰はこれを含め2局だけ。

#34 中出慶一 194号【72-3】

#31

62銀生 52玉 53銀生 63玉 64銀生 54玉 55金迄7手詰。

・ばか詰的ばか詰。

#32

27金 同角生 18銀 同角生 29桂 同角生 27金
イ同桂成 28金 同圭迄10手詰。

*不詰：イで同玉とされると17金は同玉、18金は同角生でダメ。

#33

作意：15飛 同歩 17桂 イ同桂生 A29桂 同桂成
38馬迄7手詰。

イ同桂成は、29桂迄！

余詰：Aで39馬 28合 29桂迄。後手48銀を加えてはどうか。

原敏彦氏は#32、#33と同時に角を詰める問題および変則盤使用問題を発表している。前者は余詰、後者は1筋と9筋をつないだ円筒盤を用いた5手詰ということだが、図が省略されている！残念。

変則盤使用問題は以降詰パラには登場していません。玉以外の駒を詰める問題は元から少なかったのが、天竺詰が出現したため(?)消え去った。

ばか詰の中で最短手数探しというタイプの出題形式のものがあります。「この出題なら最短手順が何通りあろうと気にしないわけです。元々のバカ詰の発想はこれかもしれませんね。」と花沢氏も書いています。創作性が少し薄い感じですが、パズルとしてみれば解答競争となって面白いものもあるようです。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
						王		角	九

持駒 なし

#35 花沢正純 195号【72-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			金					王	一
							龍		二
						銀	角		三
						龍		角	四
								ス	五
									六
									七
									八
									九

持駒 金 桂 歩

#36 花沢正純 195号【72-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					駒	王	金	王	一
					馬				二
								銀	三
									四
					金				五
									六
									七
									八
									九

持駒 金 歩

#37 中出慶一 194号【72-3】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王
						歩			
									歩

持駒 なし

#38 大和敏雄 195号【72-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						飛			
				金					
							歩	料	
				ス		ス			
飛	角					王			

持駒 なし

#37が前述の最短手数問題。これは解答者40名中正解(最短解)がただの一人だった難問。挑戦してみてください。手数は順に、17手、7手、5手、ノーヒント、ノーヒント。

解:

#34

28角 48玉 37角 57玉 46角 66玉 55角 75玉 64角
184玉 73角成 85玉 63馬 74飛合 同馬 95玉
96飛迄17手詰。

*非限定: イで74玉でも良いのが惜しい。

#35

12歩 同角 23桂 21玉 11桂成 イ同龍 32金迄7手詰。

・23桂から11桂成が例の有名手筋。

*余詰: イで31玉 41金迄。また初手より21金 12玉 22金 同玉 23角成 31玉 41飛迄7手など。

#36

32金 同玉 33歩 23玉 24金迄5手詰。

・金先金歩!! 形もよく名作だ。

#37

最短手数は25手でした。正解は池田俊氏のみ。

12歩生 21玉 31歩成 22玉 21と 32玉 31と 42玉
41と 32玉 42と 21玉 11歩成 22玉 12と 123玉
13と 24玉 14と 33玉 43と 22玉 23と 31玉 32と
迄25手詰。

*残念ながら同手数の詰みが他にもあった。イで
33玉 43と 34玉 44と 23玉 13と 32玉 33と 21玉
22と迄25手。

#38

34角 38玉 89角 49玉 67角迄5手詰。

佐藤善起—これは面白い。ばか詰ならではの新手筋。

中出慶一—今月の2題(#38、#39)をみると普通詰棋とは独立してばか詰が立派にバズルの一ジャンルを形成し得るように思われる。

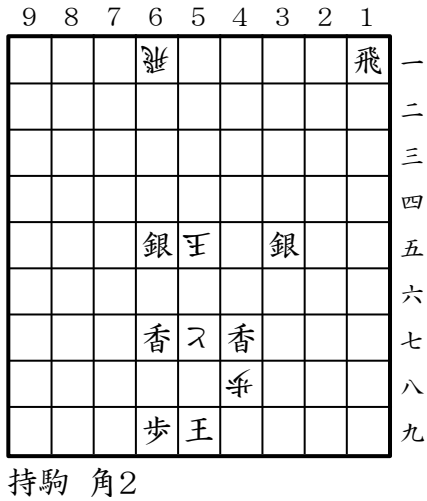
・これも名作といってよいでしょう。愉快的後味とスマートな表現は素晴らしい。

#39 金成憲雄 195号【72-4】

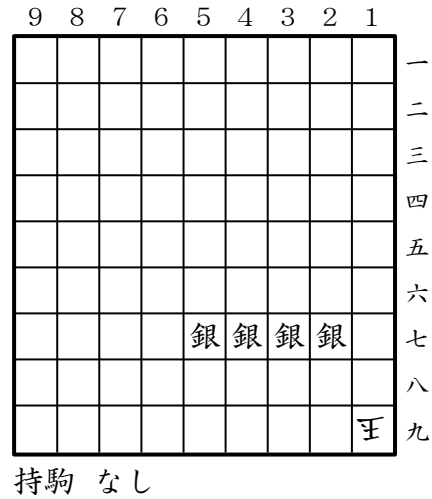
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	料	
								歩	金
						金			
				飛					

持駒 なし

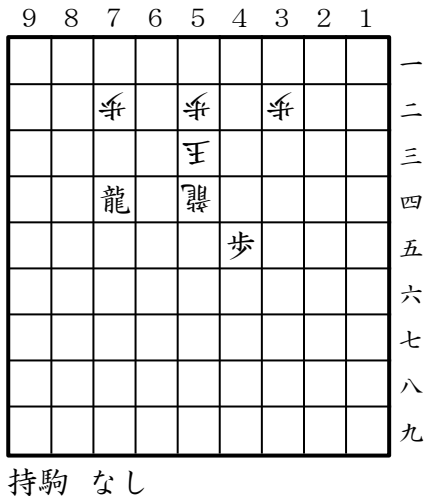
#40 ばか自殺詰 原敏彦 195号 【72-4】 サロン



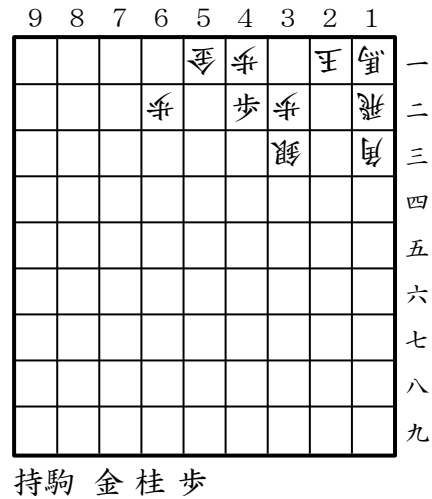
#43 中出慶一 196号 【72-5】



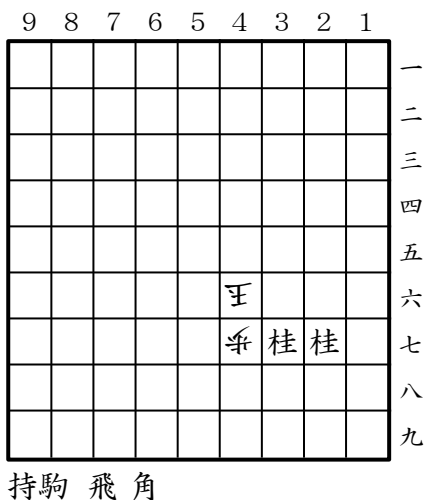
#41 花沢正純 196号 【72-5】



#44 花沢正純 196号 【72-5】



#42 中村裕行 196号 【72-5】



#40がばか自殺詰で他は全てばか詰です。ばか自殺詰とは、先後協力して先手玉を詰めさせるばか詰です。先手は連続王手でその他禁手などは普通作に同じ。これが第1号局のはずですが、不思議なことにルール説明が全然ないのです。ばか自殺詰という名称で分かったのでしょうか。

手数は順に、ノーヒント、6手、5手、ノーヒント、ノーヒント、9手。

解：

#39

41飛生 31飛 22歩生 32玉 31飛生 22玉 21飛迄7手詰。

担当者一本局もばか詰ならではの詰め方だが、前題(#38)ほどの意外性はない。しかし9手でやつけた方もあり、ばか詰もバカにならない。

中村裕行一曲詰とはおどろき。

仲西哲男一形がきれいな割に紛れが煩雑で非常に

難解で傑作。

#45 久米良昭 197号 【72-6】

#40

51飛 同飛 11角 同飛 19角 同飛迄6手詰。

・ばか自殺詰の第1号です。

*余詰:56銀 同玉 16飛 67玉 58角 同と迄。(出口
信男氏指摘)

#41

73龍 63龍 64龍 43玉 44龍迄5手詰。

#42

13角 55玉 53飛 44玉 35角成迄5手詰。

・誘い手が多くムツカシイ。

#43

28銀 29玉 38銀右 18玉 27銀直 28玉 29銀 37玉
38銀左迄9手詰。

・11手の解が多かったそうです。ややこしいパズル
といったところ。この種一色図式は中出氏の十八
番だったが、最近強力なライバルが現れた。筆者は
普通作の裸玉に相当するジャンルと考えている。

#44

作意:31金 22玉 21金 同馬 23歩 11玉 22歩成
同角 23桂迄9手詰。

余詰:22歩 31玉 41歩成 同玉 42歩 52玉 64桂
61玉 72金迄。

・例の詰上りだが、道中が凝っている。

この196号に同人作家「紅玉」の小西逸生氏の唯
一のばか詰が載っています。図は略しますが、53玉
型の裸玉で持駒歩2枚というもの。

この頃の「ばか詰教室」のページの終りの方に毎
号次のような文があります。

◇お知らせ 1月25日現在、作品の在庫は長編が一
つ、他が二つです。194号 【72-3】

◇バカ詰の投稿作はほとんどが難解作で、そのた
めか大抵穴あきで現在の在庫は長一つ短一つ、
...。台所苦しい。軽い作も頼む。195号 【72-4】

◇3月に入った頃急に好作の投稿が増えた。(中略)
3月末の在庫は今月分を除き長編2個他が11個。
196号 【72-5】

これまでのところこのカタログに収録した作は
発表数の大体50%です。このペースで行くと全部
で300局を超えるかも。途中で面倒になって収録率
をダウン (5%程度に) したら本当の名作選が出来
上がる？

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
								皇	五
						科	歩		六
								王	七
									八
							香		九

持駒 金2 歩

#46 阿部昭男 197号 【72-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					金			科	一
					飛				二
						歩	歩	王	三
									四
						歩		飛	五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

#47 加藤徹 197号 【72-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王		ス	ス	ス	ス	ス	皇	王	一
			ス	ス	ス	ス	皇	王	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
	桂							皇	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

手数は順に、5手、7手、153手。

解:

#45

27金 同歩成 18歩 同と 27金迄5手詰。

・成らせ問題の第1号局です。銀桂香の場合は性能が変化するわけですから一概には言えません。飛角歩に関しては意味づけは効かせるための成に限られます。

#46

24角 22玉 13角生 21玉 32歩成 12玉 22角成迄7手詰。

・初手と3手目のコンビネーションがポイント。

#47

92桂成 同玉 84桂 82玉 72桂成 91玉 81圭 92玉 91圭 82玉 81圭 72玉 71圭 82玉 81圭 92玉 91圭 82玉 92圭 71玉 「72歩 同と上 82圭 61玉 72圭 同と 62歩 71玉 61歩成 81玉 71と 82玉 72と 91玉 81と 92玉 91と 82玉 92と 71玉 82と 61玉」 以下、「」の要領を1サイクルとしてと金を2枚ずつはがす。2枚杏をはがし、22香を打つところから (ここまで、20+22x5=130手)、22香 同圭寄 32杏 12玉 22杏 同圭 24桂 21玉 12桂成 31玉 22圭 41玉 31圭 42玉 41圭 32玉 イ42圭 22玉 34桂 21玉 32圭 11玉 22圭迄153手詰。

仲西哲男-7手詰のばか詰より易しいのだが (中略)

143手もかかるのだから驚く (手数の数え間違い)

楽しみながら解いた。

・解答42のうち正解17名。終結部で転んだ方が多かったそうです。

*非限定: イで31圭 22玉 34桂 11玉 21圭 12玉 22桂成迄など同手数の詰め方が何通りかある。

成らせ問題について

最短解を得るために玉方の駒がならねばならない時そのテーマをならせ問題という。

A型: 効かせるための成

B型: 効かせないための成

A型は打歩詰めを誘う不成、B型は吉田健氏得意の効かせるための不成にそれぞれ対応していると考えられる。ばか詰らしいのはA型の方。

#48 連続王手でなくともよいばか詰
宇野敏満 198号 【72-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								角	一
						香			二
									三
				銀	王				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

#49 花沢正純 198号 【72-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				香					三
									四
				ス			香	香	五
					銀	王			六
				飛				ス	七
						歩			八
							ス		九

持駒 飛 金

#50 西尾行広 198号 【72-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						歩	歩		三
					香				四
				香			香	角	五
				香	王			香	六
									七
							桂		八
							ス		九

持駒 角

#51 中村裕行 198号【72-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				飛					三
				角					四
				王					五
				角					六
				飛					七
									八
									九

持駒 なし

#52 中村裕行 198号【72-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王	銀				五
		馬							六
		銀			金				七
									八
				歩					九

持駒 なし

#53 大橋雅道 199号【72-8】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					角		銀		一
					飛			王	二
									三
									四
					馬			ス	五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂2

手数は順に、3手、5手、ノーヒント、3手、ノーヒント、ノーヒント。

解：

#48

連続王手でなくともよいばか詰。

22飛 44玉 24飛成迄3手詰。

・このルールは将棋にはなじまないという意見もありますが、5手詰程度なら盲点を突いた面白いものができるかもしれません。

*余詰：53銀生 43玉 44角成迄。

#49

37歩 同飛成 16飛 26龍 37金迄5手詰。

・成らせ問題。57飛の効きをどう無効化するか。

*余詰：37飛 26玉 16金 同と 35銀迄。(出口信男氏指摘)

#50

作意：37角 同桂生 13角 24角合 同角成 45玉 36角迄7手詰。

余詰：13角 24飛合 同角行 35銀行 同角 45玉 44飛迄。

・本作は余詰作でしたが、15角が邪魔駒という構想。15角がなければ、後手の持駒ということなので、初手から13角が成立する。この意味づけはばか詰に特有のもので新手でした。この構想はどちらかと言えば長編向と言えます。

#51

23角成 44玉 33飛成迄3手詰。

・初手2/32の確率？！

#52

56金 同馬 66銀 46玉 55銀 57玉 58馬迄7手詰。

・詰上り1の字。#51と表裏ワンセット。

#53

23角生 22玉 34桂 11玉 12角成 同飛 23桂迄7手詰。

・45角の利きをどう遮るかの問題。初手の角生は22玉とよろけさせて34桂を打つため。その後用済みの23角を捨てるというストーリー。

199号に又々爆弾。深井一伸氏の1000手オーバーの自殺詰です。図面のみで作意発表はないが、この図には余詰があったらしく203号【72-12】のサロンに修正図が発表された。この時も作意発表はなし。最近筆者が深井氏に問い合わせたところ、この図にも余詰があったそうです。指摘は花沢正純氏。

ここで紹介する図はその時送ってこられた再修正図です。(97圭と87圭が交換されているだけの違い) 本作を味わった人は少なかったのではないかと

と思われますので、筆者の迷解を載せます。手数は1102手。

その前に自殺詰のルールを復習しておきましょう。

先手は後手玉に連続王手をかけ、その応手を利用して先手玉を詰めさせるのが目的。後手は先手の方針に極力抵抗する。つまり双方とも相手の玉を詰めないように頑張るという倒錯(?)ルール。

#54 自殺詰 深井一伸 199号【72-8】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					金				一
									二
銀			驃				銀		三
			角						四
香	王		皇					金	五
							角		六
	圭	龍	桂						七
銀	手	皇		皇	王				八
金			王	飛	桂				九

持駒 歩18

解：

#54

・初手75龍や86圭は詰んでしまうので、逃げ道を与える86龍が自然ですがその前に87圭を消去しておくのがちょっとした伏線。

96圭 同玉 97龍 85玉 86龍 74玉 75龍 83玉 84龍 72玉 A82龍 61玉 71龍 52玉 51龍 43玉 42龍 54玉 53龍 45玉 B55龍 36玉 46龍 27玉 37龍 18玉 17龍 29玉 19龍 38玉 28龍 47玉 37龍 56玉 C57龍 45玉 46龍 54玉 55龍 43玉 44龍 52玉 42龍 61玉 D51龍 72玉 71龍 83玉 82龍 74玉 73龍 85玉 75龍 96玉

紛れ：A73龍は、81玉と居直られる。

B44龍は、56玉とされ46龍 67玉 76龍 同玉で先手の玉に王手がかかるが、持ち駒があるため合駒が可能で失敗。これが解決のヒントです。

C46龍は67玉の一手でBと同じ。

D62歩 72玉 61歩成 83玉、のように歩を消去しようとするのは、83玉のところを81玉とされて失敗。

・先手が持ち駒ゼロならば、C手順で合駒なしで自殺できることに気づけば、あとは持駒の歩をどうやって捨てるかが問題。龍追い長手数の基本パターンを思い出します。すなわち歩を打ち捨てて両王手。

97銀 同玉 77龍 96玉

変化：87玉は、78龍 同圭迄。

・これで解決。一步消費するのに一回転(往復) 56手かかる構想でした。最後の歩を97歩 同玉と捨てたところから、

77龍 96玉 97龍 85玉 86龍 74玉 75龍 83玉 84龍 72玉 82龍 61玉 71龍 52玉 51龍 43玉 42龍 54玉 53龍 45玉 55龍 36玉 46龍 27玉 37龍 18玉 17龍 29玉 19龍 38玉 28龍 47玉 37龍 56玉 46龍 67玉 76龍 同玉迄。

手数は、97玉の位置で計算して、

$$56 \times 19 + 38 = 1102 \text{ 手}$$

古典的な回転型の龍追いです。ただし、普通詰棋と異なり玉方に変化の余地を許さないように攻め方の駒が過剰に配置されている。非常にシンプルな構想、素晴らしいアイデアですが、一言。龍追いを一步消費しなくても済む完全無限軌道にして、どこで一步を消すのかの謎解きを加えたらどうだったかと思います。

#50のところでもちょっと触れましたが、ばか詰では後手方の持駒不足に関連して先手の駒が邪魔駒になることがあります。この自殺詰のルールでは先手が持駒を持っていること自体が邪魔になり得ます。

*早詰：76龍 95玉 62角成 94玉 84銀成 95玉 93全 73香 86角 84玉 73龍 85玉 96圭 同玉 97銀 85玉 63馬 74桂 83龍 76玉 74龍 67玉 65龍 66桂 79桂 同圭迄。詳しくは巻末の出口信男氏の指摘手順並びにOnsite Fairy Mateをご参照ください。

幻想詰将棋型録 3

#58 堀口・中村裕行合作 201号【72-10】

#55 石川雅夫 200号【72-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								飛	二
						歩	王		三
							角		四
			馬			銀	歩		五
									六
									七
									八
							香		九

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				飛		歩	王	歩	一
						王		歩	二
							歩		三
			馬						四
									五
									六
						角			七
									八
						飛	香		九

持駒 なし

#59 中村裕行 202号【72-11】

#56 大橋雅道 200号【72-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			歩	王	歩				一
		歩		歩	歩				二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		飛	王						一
									二
					銀				三
		歩	馬						四
					歩				五
		桂	歩	王					六
					桂				七
	ス						馬		八
									九

持駒 歩

#60 鮎川哲朗 200号【72-9】

#57 宇野敏満 202号【72-11】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
					金	金		王	九

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	歩	歩	香	歩	歩	歩	馬	歩	一
	金		王						二
	桂	桂	歩	歩	歩	桂			三
金	ス	香				角	歩		四
		桂	金				香		五
ス			歩			王			六
ス	歩	ス							七
ス	ス		歩	歩					八
									九

持駒 歩5

手数は順に、5手、9手、17手、5手、ノーヒント、785手！

#56は余詰作。

解：

#55

14銀 同龍 13角生 12玉 22角迄5手詰。

・25銀を持駒にできればよいのだが。

#56

作意：43桂 42玉 54桂 43玉 42桂成 同玉 54桂 51玉 43桂迄9手詰。

余詰：63桂 42玉 34桂 31玉 23桂 21玉 11桂成 31玉 23桂迄。

・珍形に邪魔駒消去の構想をからませて、傑作と言いたいところだったが。

#57

18金 29玉 28金左 39玉 29金 48玉 39金 37玉 28金右 26玉 37金 17玉 27金 18玉 28金 19玉 29金迄17手詰。

・絶連か？

#58

28角 23玉 33飛生 22玉 55角迄5手詰。

中出慶——本作はまさに傑作です。パズルとしても難解。

橋本樹——傑作以上。

・初手より、26角 23玉 33飛生 22玉 44角迄で転んだ人が多かったそうです。紛れも多いし詰上りも面白い。12歩を銀にすると間接両王手となる。

#59

74馬 46玉 73馬 56玉 57歩 65玉 83馬迄7手詰。

佐々木光正——大傑作です。解くのに1週間ほど費やした難解さ。最初9手詰で解答を出そうと思ったが、他にも9手があり、不正解と分かる。必死に考えたが解けず、不完全作かと疑ったほど。何と言っても詰上りは想像もつかなかった。

金成憲雄——馬ノコ！難解作。

・7手詰ともなると詰上りの想定に飛躍を要するものが出てきます。21名中7名誤解。

#60

と金（金）による左右往復です。左辺がポイントなので次のように略記します。95玉の形を起点に「96歩 94玉 95歩 93玉 94歩 83玉 93歩成 73玉 ... 17と 19玉 18と 29玉 28と 39玉 38と 29玉 39と 18玉 29と 17玉 ... 73と 93玉 83と 94玉 93と 95玉」これをA手順とします。68手かかります。

73金 53玉 ... 73金 93玉 83金 同玉（83金で1往復、ここまで56手）

94金 73玉 83金 63玉 ... 93金 95玉 94金 96玉 95金 86玉 85金 96玉 95金 同玉（95金で1往復し85とを消去、+70=126手）

「A」96歩 同と 94と 85玉 95と 86玉 96と 同玉 97歩 95玉（97とを消去、+78=204手）

「A」94と 96玉 97歩 同と 95と 86玉 96と 87玉 97と 同玉 98歩 96玉 97歩 95玉（98とを消去、+82=286手）

「A」94と 96玉 95と 97玉 98歩 同と 96と 同玉 97歩 95玉（99とを98へ移動、+78=364手）

「A」94と 96玉 97歩 同と 95と 86玉 96と 87玉 97と 同玉 98歩 96玉 97歩 95玉（98とを消去、+82=446手）

「A」94と 96玉 95と 97玉 96と 87玉 86と 97玉 87と 98玉 88と 同と 99歩 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉（88歩を消去し89とを88へ移動、+86=532手）

「A」94と 96玉 95と 97玉 96と 87玉 86と 97玉 87と 98玉 88と 同と 99歩 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉（88とを消去し78とを88へ移動、+86=618手）

「A」94と 96玉 95と 97玉 96と 98玉 97と 99玉 98と 89玉 99と！！78玉 89と 77玉 88と 86玉 77と 95玉（88とを消去し77とを温存しておく、+86=704手）

「A」94と 96玉 95と 97玉 96と 98玉 97と 88玉 78と 89玉 88と 99玉 98と引迄785手詰。（+81=785手）

担当者——とにかくもの凄い大長編。作者の言によると、「一時は千手を超えたが早詰ボロボロで、...」うまい長距離道路を作ったこととそれに左辺のと金群くずしを結びつけた着想が成功の因？

解答成績ですが、785手解なし！多くの人が787手で詰めていた。実は作者も担当者もそうだった。ここに森茂氏登場。「左右10往復の785手と思います」。

・正解者は8名。ばか詰超長編への道を切り拓いた作。ばか詰の長編は作り易いと想う人がいるかもしれないが、意外にも100手オーバーの作さえそう多くはなく、まして千手オーバーとなると9局しかない。

・99とのところ、普通に88と 99玉 98と 89玉 99と 78玉 89と 87玉 78と 96玉 97歩 95玉のように追うとここで4手伸び、最後77とでなく78とのために2手短縮されるため差し引き2手伸びることになる。これが787手解と思われる。それにしても99とは大妙手で森茂氏の面目躍如。

※現在の読者には信じられないことかと思いますが、当時ばか詰教室の出題はすべて手数表示なしで出題されていた。

作者は本局を工夫改良して、207号に手数を905手に伸ばした解作図を発表した(#61)。手順は巧妙で安易に追うと1歩不足する点、また収束の最短手数探しが面白く、詰上りも意外性があります。

#61 鮎川哲朗 207号【73-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
香	歩	歩	香	馬	馬	歩	馬	歩	二
	金		王						三
	桂	桂		馬	馬	馬	桂		四
	銀	香				角	歩		五
馬		桂	金				香		六
	ス	金	歩			王			七
ス	馬	ス							八
ス	ス		馬						九

持駒 歩5

73金 53玉 ... 73金 93玉 83金 同玉 (83金で1往復、ここまで56手)

94銀 73玉 83銀成 63玉 ... 93全 95玉 94全 85玉 (85銀で1往復、+64=120手)

86金 94玉 95金 ... 93金 95玉 94金 85玉 95金 86玉 96金 同玉 97歩 95玉 (77金で1往復し96歩を消去、+74=194手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 95と 86玉 85と 96玉 86と 同と 97歩 95玉 (87とを86に移動、+78=272手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 95と 97玉 96と 87玉 86と 97玉 96と 同玉 97歩 95玉 (86とを消去、+80=352手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 97歩 同と 95と 86玉 96と 87玉 97と 同玉 98歩 96玉 97歩 95玉 (98とを97に移動し消去、+82=434手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 95と 97玉 98歩 同と 96と 同玉 97歩 95玉 (99とを98に移動、+78=512手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 97歩 同と 95と 86玉 96と 87玉 97と 同玉 98歩 96玉 97歩 95玉 (98とを97に移動し消去、+82=594手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 95と 97玉 96と 87玉 86と 97玉 87と 98玉 88と 同と 99歩 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 (88歩を消去し、

89とを88に移動、+86=680手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 95と 97玉 96と 87玉 86と 97玉 87と 98玉 88と 同と 99歩 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 (88とを消去し、78とを88に移動、+86=766手)

96歩 94玉 95歩 ... 93と 95玉 94と 96玉 95と 97玉 96と 98玉 97と 99玉 98と 89玉 88と 99玉 98と 89玉 99と 78玉 89歩と 87玉 78と 96玉 97歩 95玉 (88とを消去し、78とセットする、+90=856手)

96歩 94玉 95歩 ... 38と 49玉 39と 58玉 48と 同飛生 68と 59玉 58と 49玉 48と 39玉 49飛迄 905手詰。

※旧版では解説をしていなかった問題。最後左辺下で78とをセットしておいて、入手した歩の方で追いかけるのがトリッキー。68の空間を後手玉は通り抜けられないが、先手の駒は通り抜けられるのだった。面白い。

202号【72-11】のサロンに花沢正純氏が「流行に乗って私も自殺詰を作ってみました。」と2題発表。内1題は自殺煙詰！ここに載せるのは203号に出た修正図です。

両題とも筆者には難しすぎるので、満足な解説ができません。

#62 自殺詰 花沢正純 202号【72-11】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				馬					三
					と				四
			馬			と			五
			龍	馬	王	ス	馬		六
							銀		七
				王	馬				八
			銀				香		九

持駒 角 金

#63 自殺詰 花沢正純 203号【72-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
と	と		香				と	香	一
銀	香							飛	二
歩	と					香	香		三
と	銀	と	銀	銀		香	歩		四
と	と			香	と		桂		五
		香		と					六
角		王	桂		馬				七
と	ス	香							八
と	香	と	香	と			龍	王	九

持駒 なし

解:

#62

A45と引 37玉 B38金 イ同角生 57龍 ロ47歩
C55角 ハ46桂合 D同角 同と 49桂 同銀成 48銀
同全迄14手詰。

変化: イ同角成 57龍 47歩合 48銀 同馬迄。

ロ桂香合でも早詰はなさそう

ハ他合は逆王手ではないので、47龍 同角迄。また
55角に同龍は、26銀 同と 46銀 同龍 47龍 同角迄。

紛れ: A45と寄は、(ハ) の変化で36に逃げられる。

B57龍は同銀でダメ。

C限定打。

D同龍は、48銀に同歩生の抵抗が生じる。

・難しいです。

#63

88と左上 同金 78歩 同金 同と 同玉 79金 77玉
87と 同金 68と 76玉 66と 同玉 57馬 76玉 65銀
同玉 55と 76玉 77歩 同金 同と 同玉 76金 同玉
86と 77玉 78金 同玉 79馬 77玉 88角 86玉 77角
同玉 88馬 76玉 75と 86玉 96と 同玉 95と 86玉
85と左 96玉 86と 同玉 95銀 同玉 77馬 94玉
76馬 95玉 85と 96玉 87馬 85玉 86馬 94玉 84と
同玉 85馬 93玉 83銀成 同玉 75桂 93玉 83桂成
同玉 73銀成 同玉 64と 83玉 74と 93玉 92と
同玉 83と 同玉 (ここまでのどり着くのが容易じ
ゃない。しかし、これ以降はハイウェイ?) 84馬
92玉 91と 同玉 81香成 同玉 93馬 91玉 81香成
同玉 92馬 71玉 61香成 同玉 83馬 51玉 73馬
41玉 31と 同玉 41金 同玉 33桂 31玉 21香成
同金 同桂成 同玉 11金 31玉 43桂 41玉 51桂成
31玉 41圭 同玉 63馬 31玉 21金 同玉 54馬 31玉
53馬 41玉 52馬 31玉 42馬 21玉 32馬 12玉
23歩成 11玉 12と 同玉 21馬 13玉 22馬 14玉

23馬 15玉 24馬 16玉 25馬 17玉 26馬 同桂 18龍
同桂成迄148手詰。

作者一...、しかし自殺煙の可能性を訴えるには十
分であると思います。自殺詰は短中長編すべて
に将来性豊かなように感じます。

原敏彦一自殺煙賞賛! 深井君の超手数に続いて、
花沢氏の煙の出現には驚きの一語。詰棋の煙よ
り難解なはずです。これによってセルフメイト
に新しい光が当てられたのでは? 花沢さん、ガ
ンバってくださいよ。応援します。

・自殺詰というのは作者の構想をある程度見抜か
ないと手を進められないところがある。本局完成
度としては、同じ作者による250号掲載の2号局の
方が上と思うが、大変な作であることに変わりはい
ない。

*早詰: 88と左上 同金 86角 同金 88と上 76玉
86と 同玉 97と直 76玉 66と 同玉 65馬 57玉
68と 48玉 49金 37玉 38龍 26玉 35龍 27玉 26金
同桂 18飛成 同桂成迄26手。(出口男氏の指摘)

#64 ばか詰 森茂 203号【72-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		と	香		香			王	一
		歩		香		香	香		二
		王						歩	三
							香		四
	香							金	五
香	歩				香		歩	香	六
香		銀		香	銀	銀	金	香	七
歩	香	香	歩	歩	歩	香	香	ス	八
						ス		香	九

持駒 なし

#65 ばか詰 大橋雅道 203号 【72-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									皇
									歩
					角	歩			
							王		
						馬		龍	
								ス	
							桂		

持駒 金 銀2

#66 ばか詰 中村裕行 203号 【72-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇						
				歩					
		角		王	龍	角			
		金							
		金			銀				

持駒 桂

#67 ばか詰 加藤徹 203号 【72-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛									
	桂	金							
銀		銀							
	桂		王			銀	銀		
					香	香	香	歩	
金	香		桂		馬		ス	王	
金		金				ス	手		

持駒 飛 角 歩15

手数は順に、73手、ノーヒント、ノーヒント、131手。

解：

#64

12歩生 21玉 11歩成 31玉 42香成！ 同歩 21と 41玉 31と 51玉 61と 同玉 71歩成 同玉 72歩 81玉 71歩成 91玉 81と 92玉 82と 93玉 83と 94玉 84と 95玉 85と 同銀 87桂 96玉 97歩 同玉 96金 98玉 97金 99玉 98金 89玉 99金 79玉 89金 69玉 79金 59玉 69金 49玉 38銀 同と 59金寄 39玉 49金寄 29玉 39金寄 19玉 29金寄 同と 18金 同玉 17金 同玉 16金 同玉 17歩 15玉 16歩 14玉 15歩 13玉 14歩 12玉 13歩 11玉 23桂迄73手詰。

担当者一鮎川氏の大長編には驚きましたが、今度 はばか詰の周辺巡りが出現！難解ではないですが、周辺をきれいに回って還元玉。ピタリと決まっています。みごとな構成ですね。

・森茂氏の初登場作でした。ばか詰周辺巡りの第1号。小駒全駒配置でもあります。作図的に見ると駒を取る前後のうまさにはため息が出る。序の42香成はばか詰では珍しい手と思います。

#65

14銀 同龍 16銀 同玉 26金迄5手詰。

・1、3手のコンビネーションがちょっと盲点では？

#66

67金上 同香成 66金 同杏 68桂迄5手詰。

担当者一ばか詰としてはかなり程度の高い作...

・詰上り「六」の曲詰。これも成らせ問題と思うが、A型かB型か？（ドウデモイイカ）

#67

19飛 同圭 29角 同玉 39馬 18玉 28馬 同玉 29歩 38玉 39歩 48玉 49歩 58玉 69金 49玉 59金 39玉 49金 29玉 39金 18玉 28金 同玉 29歩 38玉 39歩 48玉 ... (4手略) 69歩 78玉 89金 同玉 99金 79玉 ... (10手略) 39金 18玉 28金 同玉 29歩 38玉 ... (8手略) 79歩 88玉 89歩 97玉 98歩 96玉 97歩 85玉 94銀 95玉 96歩 同玉 85銀 87玉 96銀 98玉 87銀 89玉 98銀 88玉 89銀 79玉 88銀 78玉 ... (18手略) 38銀 28玉 29歩 同圭 同銀 39玉 28銀 48玉 ... (8手略) 79銀 87玉 99桂 同飛 88銀 98玉 99銀 97玉 93飛 87玉 98飛成迄131手詰。

担当者一前半がアコーディオンのような面白い手順。後半が銀鋸。これをうまく組み合わせて楽しませてくれる。ただ残念なことに痛いキズがあります。

・アコーディオンとはうまい例え。キズは銀鋸運動

の型が非限定なところです。

・第一期黄金時代の役者がそろってきました。

#68 ばか詰 森茂 204号【73-1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						馬	飛		五
	龍		金	金	金	金	皇	帝	六
歩	香	香	桂	桂	桂	桂	香	王	七
	帝	帝	帝	帝	帝	帝	帝		八
									九

持駒 なし

#69 ばか詰 森茂 204号【73-1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						将	将	将	一
								王	二
									三
						銀		銀	四
						馬	銀	馬	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

#70 非連続王手ばか詰 宇野敏満 205号【73-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								帝	一
					帝		王		二
						龍			三
						龍	銀	角	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

手数は順に、87手、9手、5手。

ただし、#70は非連続王手のばか詰です。

解：

#68

26馬 18玉 17馬 29玉 18馬 39玉 28馬 49玉 38馬
59玉 48馬 69玉 58馬 79玉 68馬 89玉 78馬
同玉！ 79歩 68玉 69歩 58玉 59歩 48玉 49歩
38玉 39歩 28玉 29歩 17玉 19香 18銀合 同香
同玉 19銀 29玉 18銀 28玉 29銀 39玉 28銀 38玉
... (16手略) 79銀 89玉 78銀 98玉 89銀 99玉
88銀 98玉 99銀 89玉 98銀 78玉 ... (10手略)
38銀 18玉 19歩 28玉 29銀 17玉 18歩迄87手詰。

担当者一森氏の快作。最初馬で歩を入手して左辺に追い、馬を切り歩で右辺に追う。香で銀を入手して銀で左辺から右辺に追う。この際一步残しておくところがミソ... (中略) 長手数を破綻なくうまくまとめた作者の手腕まことに鮮やか。
石川雅夫一最初は一步残すところが分からなくて苦労した。詰上りを考えてこれにて一件落着というところ。

佐々木光正一88歩を取ると作意と同様に進んで、最後に玉と銀だけになってしまう。... (中略) せまいところを玉と銀が右往左往して問題究明する様は推理小説によく出てくる密室トリックを想起させて愉快である。

・あなたも88歩を取ってしまったのでは？

#69

23銀右生 13玉 14銀生 22玉 33銀生 12玉 23銀生
13玉 14銀行迄9手詰。

担当者一最終手以外すべて銀生。無目的に駒を動かしては正解手順に入らない。パズル的問題。

・3手目の銀引が妙に指しにくい。駒取りは失敗。
森氏の短編はこれだけ。もっと見たいもの。

#73 ばか詰 阿部昭男 205号 【73-2】

#70

32角生 21金寄 同角生 11玉 12金迄5手詰。

・このルールは紛れがむちゃくちゃに多いので、手数を伸ばしにくいと思う。どなたか長編に挑戦してみては？

#71 ばか詰 阿部昭男 207号 【73-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				歩	歩	皇			六
					王				七
			金	歩		飛			八
							桂		九

持駒 金 桂3

#72 ばか詰 阿部昭男 208号 【73-5】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				歩		飛			六
					王				七
			金	歩		飛			八
							桂		九

持駒 金 桂3

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					皇				四
							皇		五
				歩					六
			皇	銀	王	皇			七
									八
				金					九

持駒 飛 角

#74 ばか詰 阿部昭男 206号 【73-3】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							歩		三
							皇		四
							王		五
						香	入	桂	六
					皇		桂	入	七
									八
									九

持駒 金2 銀

#75 ばか詰 阿部昭男 207号 【73-4】

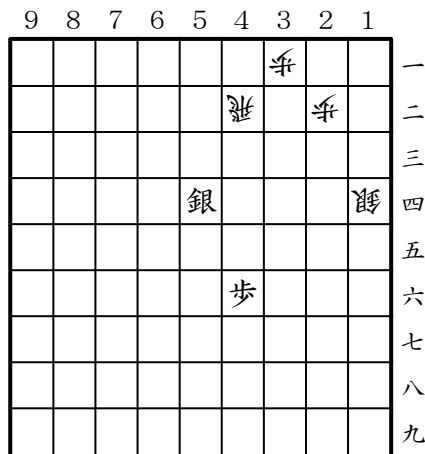
11角を詰める。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
									二
									三
									四
		歩							五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂 歩

#76 ばか詰 阿部昭男 208号【73-5】

42飛を詰める



持駒 なし

#75は角を詰めるばか詰、#76は飛を詰めるばか詰です。最短手数を探すのはそう易しくないはず

です。手数は順に、7手、7手、5手、7手、29手、15手。

解：

#71

39桂 同龍 59桂 同龍 39桂 同香成 37金迄7手詰。

#72

46金 同玉 38桂 同龍 58桂 47玉 59桂迄7手詰。

・2局ワンセット。作品としては#72の方がばか詰らしい味あり。

#73

46飛 同角成 36角 同馬 48金迄5手詰。

・成らせ問題。詰上りが見易いのが痛い。

*余詰：48銀、36玉、54角、46玉、36飛まで早詰。

(出口信男氏指摘)

#74

35銀 17玉 26銀 同玉 17金 同と引 36金迄7手詰。

・詰棋校のが紛れ込んできたような作。

#75

23桂 88角成！ 89歩 87馬 88歩 86馬 87歩 85馬 86歩 イ41馬 31桂成 42馬 32圭 52馬 42圭 62馬 52圭 84馬 85歩 83馬 84歩 82馬 83歩 71馬 62圭 81馬 72圭 91馬 82圭迄29手詰。

担当者一実にうまい図を見つけたものと感心。馬が大きく往復するのが最短。42馬以降は色々あるが筋は同じ。

*色々非限定はあるが、面白い図。

*余詰：イで84馬 85歩 83馬 84歩 73馬 83歩成 74馬 84と 64馬 74と 65馬 75と 32馬 31桂成 22馬 23歩 33馬 32圭 11馬 22圭迄同手数。(出口信男氏指摘)

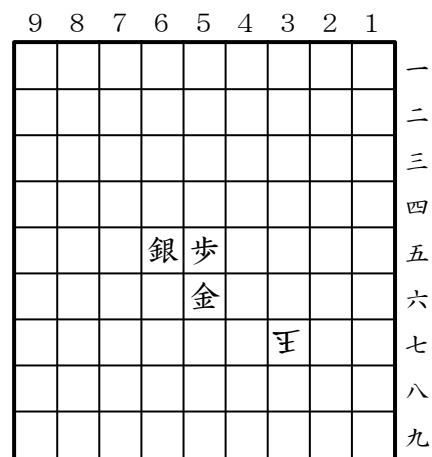
#76

43銀生 41飛 32銀生 44飛 45歩 34飛 23銀生 33飛 22銀生 32飛 33銀生 12飛 13歩 11飛 22銀生迄15手詰。

・銀生大行進で詰上がりも面白い。傑作。本図は修正図。原図は14銀がなかったため、4手目より42銀以下の余詰。(八尋無段氏指摘)

*余詰：53銀成 32飛 42全 33飛 32全 23飛 22全 33飛 32全 23飛 24歩 13飛 23歩成 11飛 22全迄。(出口信男氏指摘)

#77 非連続王手ばか詰 宇野敏満 206号【73-3】



持駒 金 歩

#78 ばか詰 中出慶一 208号【73-5】



持駒 なし

#79 ばか詰 中村裕行 206号 【73-3】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
皇	皇								四
									五
					科				六
		科	科				歩		七
					歩				八
	王				角	飛	角	飛	九

持駒 なし

#80 ばか詰 森茂 207号 【73-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				銀			歩		三
							角	歩	四
			銀				銀	角	五
歩	皇	銀				王			六
	桂	皇	香	香	香	桂	桂	王	七
金	香			金	桂				八
					ス		皇	皇	九

持駒 なし

#77は、連続王手でなくてもよいばか詰です。#80について、

担当者一今月の懸賞作は森茂氏の217手詰の長編。作者がお気に入りというだけあって楽しめる作品です。

手数は順に、5手、11手、ノーヒント、217手。

解：

#77

46金 同玉 45歩 55玉 56金迄5手詰。

担当者一素朴な感じですが、こういう気軽な作もいいですね。攻方55歩を除いて攻方46金を加えると味が少し出ると。

・森茂氏の精密パズル作の対極にあるような作。ばか詰という名にふさわしいばかばかしい感じを出すには、このルールが適しているような気もする。担当者の改作案、これも美味。

*余詰：39歩 26歩 54歩 36歩 38金迄。(出口信男氏指摘)

#78

32歩成 同玉 33銀生 21玉 22銀生 12玉 13銀生 21玉 22銀生 12玉 13銀打迄11手詰。

・軽趣向作。絶連はいたしかたなし。

#79

38角 78玉 79飛 68玉 78飛 59玉 18角迄7手詰。

担当者一本局は貧乏図式で非常な難局である。

中出慶一「ばか詰が詰棋から独立して一個のパズルとして存在を主張するためには詰棋で実現できない飛躍した手筋あるいは狙いを盛り込まなければならぬと思います。... (中略) ...本作はかなり難解なパズルになっていて優れた作品です。

伊藤美昭一すこぶる難解。普通の詰将棋より難しい。38角左は分かったのだが、あとの79飛からと組み合わせると相当難しく感じる。

#80

26角 28玉 17角 同玉 35角 26角合 同角 28玉 「17角引 同玉 44角 35歩 同角 26角 同角 28玉」×14 (持駒を角と歩14としてから) 39角 同玉 17角 28角 同角 38玉 39歩 同と 49角 同玉 59金 38玉 49金 28玉 39金 18玉 29金 17玉 28金! 同玉 29歩 38玉 39歩 48玉 49歩 58玉 59歩 68玉 69歩 78玉 79歩 89玉 99金 79玉 89金 69玉 79金 59玉 69金 49玉 59金 39玉 49金 29玉 39金 18玉 28金! 同玉 29歩 38玉 39歩 48玉 49歩 58玉 59歩 68玉 69歩 78玉 79歩 88玉 89歩 97玉 99香 98金合 同香 同玉 A97金 99玉 98金 89玉 88金 79玉 78金 69玉 68金 59玉 58金 49玉 48金 39玉 38金 イ29玉 28金 39玉 38金 49玉 48金 39玉 49金 28玉 29歩 同杏 39金 18玉 29金 17玉 18香迄217手詰。

作者一角の打直しにより、一歩ずつ稼ぐ趣向。ばか詰でなければ考えられない面白さを味わってもらうこと。

石川雅夫一ばか詰というよりパズルみたい。

西田尚史一大傑作です。先の森氏作と似ていて同じ素材のものでしょうがこれは一段優れている。...彼こそ将棋パズルの王者です。

安達康二一もどかしいというか面白いというか。

阿部昭男一前半と後半の調和が見事。ばか詰の傑作。

松井克彦一39角～28角合のあたりが巧妙。19杏の入手もよく本当に楽しめる。

担当者一予想していたことですが、Aより99金

97玉 88金 96玉 85銀と追った誤答が続出。85銀は禁手です。86飛が36王に直射するのです。本作手順のあやが難しいところがありますが、森氏の作としてはまだまだ軽いカラクリです。スゴイのが控えています。

・目的は結局19香の入手にあるわけですが、これを1筋でなく2筋ではがさなければならぬため、後半の2往復が成立する仕掛け。その金を合駒で入手するのだからニクイ。難しいのは歩稼ぎが終わってから後半への切り替えの部分です。森氏の作は漏れなく紹介していきます。乞うご期待。

幻想詰将棋型録 4

第3章 第一期黄金時代

#81 ばか詰 橋本大 209号【73-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			角					皇	四
				飛			料		五
							桂		六
						角			七
							飛		八
						香		王	九

持駒 なし

#82 ばか詰 太田啓好 210号【73-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
					料		料	料	二
						料			三
								金	四
							料		五
									六
									七
									八
									九

持駒 金桂香

#83 ばか詰 八尋無段 211号 【73-8】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				龍	皇	帝			一
		角				王	帝		二
			龍	角		龍			三
				歩			歩		四
									五
				歩					六
									七
									八
									九

持駒 なし

#86 ばか詰 阿部昭男 221号 【74-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					龍		歩		四
			歩		桂		皇		五
			歩		皇				六
			龍	王			銀		七
					ス	歩			八
			ス	皇	歩				九

持駒 桂 香 歩

#84 ばか詰 新田道雄 209号 【73-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
		皇				ス			二
							ス		三
								ス	四
						歩		龍	五
									六
									七
		飛							八
	角								九

持駒 角

#87 ばか詰 阿部昭男 211号 【73-8】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	桂		皇	帝					一
龍									二
	皇		ス	角	皇				三
			歩	歩			歩		四
			ス	王					五
				ス		金			六
皇		ス			ス				七
	銀			皇		ス			八
							飛		九

持駒 なし

#85 ばか詰 阿部昭男 212号 【73-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					角				三
							桂		四
					歩				五
					飛				六
					桂		王		七
						香	ス		八
					角				九

持駒 なし

#88 ばか詰 小林看空 210号 【73-7】
46龍を詰めるばか詰。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						皇			二
					皇				三
								歩	四
				桂					五
				龍					六
		歩							七
									八
					王				九

持駒 飛 角

#88は、龍を詰めるばか詰です。もちろん王手(龍

手?)の連続、逆王手は防がねばなりません。

手数は順に、5手、9手、5手、5手、5手、11手、11手、7手。

解：

#81

27飛 37桂生 29飛 同桂成 15飛迄5手詰。

・大きな15飛の両王手を実現するために、邪魔な飛角桂3枚を4手で上手に消去する。

#82

23桂 同銀 13香 12飛合 同香生 21玉 32金 同銀 11飛迄9手詰。

担当者一動きが少々狭い気味が有りますが、頭を痛めた方がかなりいるのでは？

・金の使い方が意外ですね。

#83

62龍 43玉 52龍 54玉 75角成迄5手詰。

・飯田岳一氏に次ぐ多作家の処女作(らしい) 72角が鍵で筆者はてっきり動くのかと思った。

#84

99角 12玉 88飛 11玉 81飛成迄5手詰。

・99角は妙手が凡手か。72香は初手71飛成以下の余詰と3手目77飛の両方を消した配置。

#85

26香 16玉 24香 15玉 23香成迄5手詰。

担当者一「コ玉」の隣を「ヒ香り」が通り過ぎるといった趣。

・これは新幹線の話です。お分かり？

#86

58歩 56玉 68桂 同角成 57歩 同玉 59香 58馬 同香 47玉 36角迄11手詰。

秋元節三ー最近のばか詰教室の懸賞問題は、かなり高度になって手が出ない。

・確かに難しい。59角を入手する構想が見破れるか。

#87

44角生 64玉 53角生 55玉 64角生 44玉 53角生 33玉 44角生 34玉 35金迄11手詰。

担当者一まことにぎやかな飾りがついているが、実質は角不成5回の妙作。攻方64歩が邪魔駒である。

この手が分からぬと41手もかけた人がある。

・問題はやはりこの形ですね。シンプルな構想の作でも余詰を一つづつ潰していったらこのようになってしまうのがばか詰の宿命とも言える。

*余詰：45金 同香 44角成 46玉 55馬 35玉 45馬 26玉 28香 17玉 27馬迄。(出口信男氏指摘)他に初

手46金も成立している。

#88

37角 96龍！ 56飛 91龍！！ 63桂生 41龍 51飛成迄7手詰。

・できることならどの手にも！をつけたいくらい。大回転するのが最短とは愉快。傑作。

*余詰：36飛 44龍 33角 64龍 66飛 53龍 63飛成迄。他にもあり。

この頃から約1年ほどの間は実に大変な時期でした。森茂氏の長編パズル作の連発、鮎川哲朗氏の長手数挑戦シリーズ、花沢正純氏の自殺詰、加藤徹氏の趣向作シリーズ、若島正氏のマキシ詰など、フェアリーファンには目の眩むような豪華な内容です。

#89 ばか詰 森茂 210号【73-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
馬			銀	馬		馬	歩	銀	三
					歩	王	歩	馬	四
	香				馬				五
	歩	金					馬	飛	六
	馬	桂	香	馬	香			王	七
	香						ス		八
				桂	角	歩	ス	馬	九

持駒 桂 歩9

手数は183手。

精妙なからくりを十分味わうには、やはり解図を試みた方がよい。挑戦しがいいのあるむずかしさです。

解：

#89

46桂 44玉！ 54銀成 35玉 15飛 36玉 (6手。中間1図)

中間1図 (6手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
馬				馬	馬	歩	銀		三
				全		歩	飛		四
	香				馬			飛	五
	歩	金			桂	王	料		六
	歩	桂	香	馬	香			王	七
	香						入		八
				桂	角	歩	入	馬	九

持駒 歩9

・舞台づくり。これより4往復する。

27角 37玉 38歩 48玉 49歩 同玉 37歩 38桂成
同角 58玉 49角 69玉 58角 78玉 69角 89玉 78角
98玉 87角 89玉 A「78角 98玉 89角 97玉 98歩
96玉 78角 87歩 97歩 同玉 89桂! 98玉 87角
89玉」98角 78玉 89角 69玉 78角 58玉 69角 49玉
58角 38玉 49角 37玉 38歩 36玉 16飛 26桂合
37歩 35玉 36歩 同玉 (+54=60手。中間2図)

・後手方26桂を合駒として一旦入手する。1往復目は
右辺で桂を捨てられないので、この時だけ左辺
で後手に渡す (A手順)。これをしないと手詰まり
になる。

中間2図 (60手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
馬				馬	馬	歩	銀		三
				全		歩	飛		四
	香				馬				五
	歩	金			桂	王	料	飛	六
		桂	香	馬	香			王	七
	香						入		八
				桂	角		入	馬	九

持駒 歩8

「27角 37玉 38歩 48玉 49歩 同玉 37歩 38と
同角 58玉 49角 69玉 58角 78玉 69角 89玉 78角
98玉 87角 89玉 98角 78玉 89角 69玉 78角 58玉
69角 49玉 58角 38玉 49角 37玉」=B手順

38歩 36玉 37歩 35玉 36歩 25玉 15飛 36玉
(+40=100手。中間3図)

・28とを38に移動して消去する。あわせて16飛を15
に移動しておく。

中間3図 (100手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
馬				馬	馬	歩	銀		三
				全		歩	飛		四
	香				馬			飛	五
	歩	金			桂	王	料		六
		桂	香	馬	香			王	七
	香								八
				桂	角		入	馬	九

持駒 歩6

B (ただし38とのところ38桂成) 38歩 36玉 28桂
同と 16飛 26桂合 37歩 35玉 36歩 25玉 15飛
36玉 (+44=144手。中間4図)

・29とを28に移動。と金の消去が目的ではなく、29
を空所にしたかったのだ。16飛は15に移動してお
く。

中間4図 (144手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
馬				馬	馬	歩	銀		三
				全		歩	飛		四
	香				馬			飛	五
	歩	金			桂	王	料		六
		桂	香	馬	香			王	七
	香						入		八
				桂	角			馬	九

持駒 歩3

B (ただし38とのところ38桂成) 29桂 36玉 16飛
35玉 36歩 25玉 37桂迄183手詰。

磯田征一「左辺で桂馬をくれてやるのに苦労しま
した。」

・中間1図より、空き王手で26桂を入手し、左辺へ追いかけて87歩を入手して折り返す手順は見え易いと思います。(26桂の代わりに28とを入手するのはすぐに切れる)しかし、A手順を省略して右辺に戻ると後手方に26の合駒がないために動きが取れない。ここが最大の難関。持駒が邪魔駒というトリック。

次のポイントは攻方飛の位置です。26桂をはがす時は15飛、28とをはがす時は16飛としておかねばなりません。中間1図と中間2図をよく見比べてください。違うのは飛の位置だけ！(39歩は無関係)

4往復の目的は結局29との移動で、最後29桂と打って収束に入るのは意外性がありますね。

鮎川哲朗—ばか詰初のトリックもの。

西田尚史—解後感には爽快とは言えませんが、爽絶とでも…。

・発表図は持駒が1歩多く、5往復させる構想だった。

#90 ばか詰 森茂 211号【73-8】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬					一
		と				銀			二
	馬		馬		金		歩	王	三
	桂		馬			王	王		四
ス	歩		香		桂		と		五
	ス	ス	香	銀	桂				六
桂		歩	香	馬	香		王	歩	七
歩					歩		ス	ス	八
王		歩	馬	ス	ス		ス	ス	九

持駒 なし

手数は357手。

担当者—前月の長編 (#89) 今月の長編、いずれも将棋パズルとしては最高位にランクされるものと思います。(中略) 詰めること自体がすでに問題の対象となっています。

・前題に続いてこれもヘビー級の難問です。「ばか詰は手数さえかければ必ず詰む。難しいのは手数の短縮だ。」こう考えている方が多いかもしれませんが。本文はそういう先入観に打撃を与える作です。持歩の不足に苦勞するはず。

解：

#90

26と 37玉 36と 27玉 37と 16玉 27と 25玉 36と 15玉 25と 16玉 15と 26玉 16と 27玉 17と 36玉

(17歩消去) 26と 37玉 38歩 同と 36と 27玉 37と 28玉 38と 17玉 (28と消去) 28と 26玉 37と 16玉 26と 17玉 16と 27玉 17と 28玉 18と 37玉 (18と消去) 27と 38玉 39歩 同と左 37と 28玉 38と 29玉 39と 18玉 (29と消去) 29と 27玉 18と！ 37玉 27と 38玉 39歩 同と 37と 28玉 38と 29玉 39と 18玉 (49と消去) 29と 27玉 38と 17玉 27と 18玉 17と 28玉 18と 29玉 19と 38玉 (19と消去) 28と 39玉 38と 49玉 48と 39玉 38と 49玉 39と 58玉 49と 68玉 59と 79玉 69と 同玉 (角を入手) 96角 87と左 同角 78歩 同角 58玉 (98手。中間1図)

中間1図 (98手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬					一
		と				銀			二
	馬		馬		金		歩	王	三
	桂		馬			王	王		四
ス	歩		香		桂				五
	ス		香	銀	桂				六
桂			香	馬	香				七
歩		角		王					八
王									九

持駒 歩7

・右下のと金崩しから角を入手するまでの長いイントロ。

A「69角 49玉 58角 38玉 39歩 27玉 49角 38歩 同角 36玉 27角 25玉 16角 36玉 25角 37玉 38歩 同玉 16角 27歩合 同角 29玉 18角 38玉 29角 49玉 38角 58玉 49角 69玉 58角 78玉」(+32=130手。中間2図)

中間2図 (130手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬					一
		と				銀			二
	駒		駒		金		歩	玉	三
	桂		駒			玉	玉		四
ス	歩		香		桂				五
	ス		香	銀	桂				六
桂			香	駒	香				七
歩		王		角					八
王									九

持駒 歩8

・基本は角で玉を追う手順だが、右辺で39歩打と1歩を消費して、38歩合と27歩合の2歩を入手する機構が秀逸。差引1歩稼げるわけだ。

さて、攻め方は84桂を後手方に渡したいのだが、このタイミングで行くと一歩不足に陥るのもう1往復する。その際左辺の折り返しで歩を減らさないようにしなければならない。

79歩！ 87玉 69角 78歩合 同角 76玉 87角 77玉 78歩 68玉 69歩 同玉 77歩 78歩合 同角 58玉 「A」 (+48=178手。中間3図)

中間3図 (178手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬					一
		と				銀			二
	駒		駒		金		歩	玉	三
	桂		駒			玉	玉		四
ス	歩		香		桂				五
	ス		香	銀	桂				六
桂		歩	香	駒	香				七
歩		王		角					八
王									九

持駒 歩9

・左辺で2歩消費、2歩獲得で歩の増減はない。右辺で1歩消費、2歩獲得で差引一歩増やして、中間2図と同じ局面に戻ってきた。ただし、今度は77歩が出現しているので、先ほどと同じ手順は繰り返さない。次は84桂を後手方に渡す。

69角 77玉 78歩 76玉 77歩 75玉 76歩 74玉 73と 同玉 72桂成 74玉 73圭 同角 75歩 同玉 B「76歩 同玉 87角 77玉 78歩 68玉 69歩 同玉 77歩 78歩合 同角 58玉」 「A ただし27歩合のところ 27桂合に替える。」 (+60=238手。中間4図)

中間4図 (238手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						銀			二
	駒	馬	駒		金		歩	玉	三
			駒			玉	玉		四
ス	歩		香		桂				五
	ス		香	銀	桂				六
桂		歩	香	駒	香				七
歩		王		角					八
王									九

持駒 桂 歩6

・次は、ようやく持駒にできた桂を使って、86とを消去する。

69角 77玉 78歩 76玉 77歩 75玉 87桂 同と 「B」 「A、ただし27歩合のところ27桂合に替える。」 (+52=290手。中間5図)

中間5図 (290手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						銀			二
	駒	馬	駒		金		歩	玉	三
			駒			玉	玉		四
ス	歩		香		桂				五
			香	銀	桂				六
桂		歩	香	駒	香				七
歩		王		角					八
王									九

持駒 桂 歩5

・86とを消去したので、いよいよ本命の95との移動に取り掛かる。

69角 77玉 78歩 76玉 77歩 75玉 76歩 74玉 86桂 同と 75歩 同玉 「B」 「A ただし27歩合のところ

27桂合に変わる。」(+56=346手。中間6図)

中間6図 (346手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						銀			二
	駒	馬	駒		金		歩	香	三
			香		香		香	香	四
	歩		香		桂				五
	ス		香	銀	桂				六
桂		歩	香	香	香				七
歩		王		角					八
王									九

持駒 桂 歩2

・いよいよ収束。86とは取らない。

69角 77玉 78歩 76玉 77歩 同と 87角 75玉 76歩 74玉 86桂迄357手詰。

詰上り図 (357手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						銀			二
	駒	馬	駒		金		歩	香	三
		王	香		香		香	香	四
	歩		香		桂				五
	桂	歩	香	銀	桂				六
桂	角	ス	香	香	香				七
歩									八
王									九

持駒 なし

担当者一本作の特徴は歩の入手法が巧妙を極めて
いることです。

・本作には2つの難関があります。A手順の中で1歩消費して2歩獲得するメカニズムです。39歩のところ惜性で49角と行くと金輪際詰みません。

第2のポイントは中間2図にあります。直ちに69角以下桂を捨てに行くと、1歩足りない。桂を捨ててしまうと、右辺で桂を入手しなければならないので、1歩消費して桂歩獲得となり、歩の数を増やすことができない。つまり桂を捨てる前に歩を9枚にしておかなければならないのです。それには左

辺のターンで歩を減らさないことが絶対条件です。

手品のタネは最初に来た時だけ、77歩が無いことです。79歩以下歩を減らさないでターンができる。

なんと凄くからくりではありませんか。

イントロの18とは妙手です。ここ38ととして、先に19とを消去したくなるのが人情ですが、それだと4手伸びてしまう仕掛け。

原作意ではもう1往復させて、2枚目のと金もはがす構想の407手詰でした。解答者は5名。うち1名が不詰解、3名が411手解で花田尚一氏のみ361手解だったそうです。

西田尚史一凄いですね。実に巧みな詰物で驚きます。この型のばか詰を作り出したのは、詰将棋を除く将棋パズルの中でばか詰が一番格上であることを立証すると思います。森氏は全く王者です。平凡に追うと歩が足らず、ちょっと工夫してもまだ足らず、さらに工夫して最後の一步を手にするとは洒落ており、またピッタリして感じがいい。

・短評賞をあげたい。

*早詰：中間5図から中間6図へのA手順は、次のように2手短縮できる。

「69角 49玉 58角 38玉 39歩 27玉 49角 38歩合同角 36玉 27角 25玉 16角 36玉 25角 37玉 38歩同玉 39歩 49玉 16角 27桂合同角 38歩合同角 58玉 49角 69玉 58角 78玉」再び戻る必要が無いので39歩を残したままでもよいのだった。結果として355手詰となった。

#91 ばか詰 森茂 212号 [73-9]

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀		駒	科	王	一
					歩				二
					歩	馬		歩	三
							歩		四
				香		歩		科	五
					桂		ス		六
									七
									八
						ス	桂	香	九

持駒 歩9

手数は37手。

解:

#91

12歩 22玉 23歩 12玉 22歩成 同玉 (12歩を消去しておく) 34桂 23玉 22桂成 14玉 15香 同玉 16歩 25玉 17桂跳 同と 26歩 35玉 36歩 26玉 27歩 同玉 19桂 36玉 37歩 35玉 36歩 34玉 35歩 同玉 27桂 34玉 35歩 25玉 26歩 14玉 15歩迄37手詰。

担当者一かなり難解な作品。12歩を消去しておくのが肝心で、19桂を発見するまで苦行が続く。大家の作らしい堂々とした風格のある作品。

佐々木光正一序の12歩消去が終わりの突歩詰を暗示している。19桂は見事な一着。

磯田征一傑作です。詰上りを想定することは手数を問わず詰めるコツのようです。

・まず配置が清潔で格調を感じさせますね。上部追い出しが見えているので、12歩消去はそう難しく無いと思う。問題は15香と走ってからで、どこでどう詰上げるのか途方に暮れる。終始ばか詰らしからぬ緊張した手の続く中編名作と言える。

スペースが少し余ったので、初心向けにばか詰の解き方講座としてみよう。

「ばか詰は不成とそっぽと移動合」

まず、こんな格言(?)はどうでしょうか。どれもばか詰では不利感ならぬ有利感のある手ばかりですから、あらためて書くほどのことではありませんが、短編ばか詰に関しては今でも7割は応用できそう。

解説

1. 不成:後手方着手は不成から読むのが正しい。飛角歩は特に。先手方は不成から読むと作意が、成から読むと余詰が発見できる(?)
2. そっぽ:龍馬、特に龍は玉から遠ざかる手を先に読む。その応手は玉が近寄る手か中合が多い。
3. 移動合:合駒は飛金の中合から読む。守備力の強い龍馬を移動合で無力化するのはよくある筋。

この手のチャート式では解けない作を作りたいですね。

#92 ばか詰 中出慶一 213号【73-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
				銀	銀	銀			七
						銀			八
									九

持駒 なし

#93 ばか詰 八尋無段 214号【73-11】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬				皇	一
								王	二
						と			三
								銀	四
								王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

#94 ばか詰 花沢正純 214号【73-11】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬				皇	一
								王	二
						銀			三
				馬				銀	四
								王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

#95 ばか詰 八尋無段 213号 【73-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					飛				三
					進		王		四
				科		王		科	五
				金			馬		六
							馬		七
						科			八
						桂			九

持駒 香

#96 ばか詰 八尋無段 215号 【73-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
							歩		二
					銀	角		王	三
									四
								科	五
							王		六
					龍				七
				角					八
									九

持駒 なし

#97 ばか詰 花沢正純 215号 【73-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
							歩		二
					銀	角		王	三
									四
								科	五
							王		六
					飛				七
				角					八
									九

持駒 なし

手数は順に、7手、7手、9手、5手、5手、5手。

解：

#92

66銀 45玉 56銀 35玉 A26銀 46玉 47銀上迄7手詰。
担当者一実にユニークな形であり、イヤ味がない。

手順も極めて洗練されておりかなり難しかったと見えて、かなりの誤答者があった。一つの成功作。

作者一4銀を持駒にできればなお面白いが、別解があり断念。

・#43に続く四銀一色図。

*余詰：Aより36銀 46玉 47銀左迄。(出口信男氏指摘)

#93

23銀生 13玉 22銀生 12玉 11銀成 13玉 14香迄7手詰。

#94

13銀生 21玉 12銀生 31玉 42銀生 22玉 33銀成 13玉 23銀成迄9手詰。

担当者一品数不足の折、時々こんな水増しをするかもしれません。

・在庫は長2 (見込)、短4とある。

*余詰：13銀生 23玉 12銀生 13玉 24銀成 22玉 33全 13玉 23銀成迄。(出口信男氏指摘)

#95

47桂 同飛成 37香 36龍 45飛成迄5手詰。

担当者一かなり難解な作品だが、誤った人は少なかった。

秋元節三ー移動合はいつもながら気付きにくい。

・「ばか詰には移動合」こんな格言なかったか？

*余詰：27桂 34玉 12角 23金 同飛成迄。

#96

24角生 14玉 13角成 25玉 27龍迄5手詰。

#97

24角 同玉 44飛 35玉 34銀成迄5手詰。

・この2局の対照は面白い。詰手順がガラッと変わるところは大道棋のよう。ばか詰を作るとき、検討に身を入れると思わぬ収穫があるかも。

幻想詰将棋型録 5

#98 ばか詰 鮎川哲朗 213号 【73-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	爵	皇	爵	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
ス									四
									五
王									六
	ス	ス	ス					飛	七
ス	ス	ス	ス						八
ス	皇							王	九

持駒 歩4

担当者—この鮎川氏のアイデアの良さには感心します。またまた新しい型を見つけ、遂に千手越え！！解答は詰上り図と大体の手数（何百手台か？）を書いてくだされば結構です。最短手数を調べていただければ幸甚。

担当者—解答者5名。詰上り手数ともに人それぞれ。驚きました。作意手数は1783手でしたが、森氏と西田氏が1300手台という驚異的な短手数。特に森氏の1325手はおそらく最短ではないかと思えます。氏の見事な手順を紙数のゆるす限り紹介したい。

・いよいよ1000手オーバーの作の登場です。歩が打てる筋は、1、3、5、9筋だけなのでご注意。これから紹介するのは森茂氏の解をベースにしたと言われる結果発表の手順を復元したもの。解を示す前に歩稼ぎの基本形を書く。左辺のと金崩しに大量の歩が必要となる。

歩稼ぎ基本図

36玉は56玉でも良い。14飛は15飛もあり、先手57歩があるのも可。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	爵	皇	爵	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
								飛	四
									五
						王			六
									七
									八
	皇							王	九

持駒 歩2

A=「16飛 47玉 17飛 38玉 39歩 48玉 18飛 57玉 17飛 58玉 18飛 38歩合 59歩 57玉 17飛 46玉 16飛 37玉 38歩 47玉 17飛 56玉 16飛 57玉 17飛 37歩合 58歩 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 37歩 46玉 16飛 55玉 15飛 56玉 16飛 36歩合 57歩 55玉 15飛 44玉 14飛 35玉 36歩 同玉」

・36玉の位置からスタートする。48手で原型に戻り（攻め方57歩が残る）持駒が歩2から歩3に増加している。3筋と5筋の2枚の歩を用いて、38歩合、37歩合、36歩合の3枚の歩を入手している訳だ。歩稼ぎサイクルを始めるのに大事なことは次の3点。

1. 歩を稼ぐのに最低2歩の資本がいること。
2. 後手方は3枚以上の歩を合駒できること。（サイクル開始時に持歩が3枚なくても良い。）
3. サイクル終了後後手方は1枚以上の歩が持駒になる。57歩を取ればもう1枚増える。

A手順を発見できれば詰めるところまでは行くかもしれない。しかし、最短手順を見つけるとなるとそれは別話。

* (新装版の注) *

#98は幻想詰将棋型録で扱った超長編ばか詰の中では手数が短い部類に入る。しかし、手数が短いからと言って、舐めてかかる訳にはいかない。超長編ばか詰においてはロジックがかっちり全体をコントロールしているかが重要なのだ。ばか詰最長手数を誇る「寿限無」は、全体のロジックが明快に貫かれているが故に、詰める側の自由度が低く結

果的に余詰み難い。そういう目で見ると、本作は、詰める側の自由度が高い作と言える。こういう作で最短手順を確定するのはコンピュータの力を借りてもまだまだ困難のようだ。

現状知られている本作の最短解は、2004年に発表されたコンピュータによる1323手詰である。とは言え、神無七郎氏の解説によるとそもそも森茂氏の1325手解を元にして、コンピュータが2手短縮したと言うのが実態に近いようだ。このことをもってしても、森茂氏の偉業は称えられるべきものと思う。

解：

#98

16飛 76と！ 97歩 95玉 15飛 75と 96歩 同玉 16飛 66と上 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉 15飛 56玉 (①、18手。△歩2▲歩)

・「△歩2▲歩」のように、先手と後手の持駒を表すことにしよう。盤上に無い駒、特に歩の枚数が重要なのだ。

・さて、本手順2手目の76とが意外な一手だろう。なぜ66とではないのか。76と～66との順で回収するのは森茂氏の発見した短縮順だ。当然氏は66と～76との順で回収する手順と両方を調べた上、比較して76と～66との順を選択しているはずだ。我々も森茂氏の思考の跡を辿るべきである。ただし、それは2枚のと金を回収した後 (④の局面) にしよう。

16飛 47玉 17飛 38玉 39歩 48玉 18飛 57玉 17飛 58玉 18飛 38歩合 59歩 57玉 58歩！ 46玉 16飛 37玉 38歩 47玉 17飛 56玉 57歩 65玉 15飛 74玉 14飛 85玉 15飛 84玉 14飛 95玉 15飛 65と 96歩 同玉 16飛 56と 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉 15飛 54玉 14飛 55玉 (②、+48=66手。中間1図)

中間1図 (66手。△なし▲歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	雫	皇	雫	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
ス								飛	四
				王					五
				ス					六
歩	ス		ス	歩					七
ス	ス	ス	ス			歩			八
ス	皇							王	九

持駒 なし

・①の後すぐにA手順 (歩稼ぎ機構) に入る。38歩合をさせて獲得。ここで後手が持駒なしになってしまうので、A手順が完了できない。後手の持駒を増やさなければ話が始まらないのだ。そう、盤面のと金群を持駒として回収する必要があることに気づく。

・66との回収のために57歩をセットするのが大事なところ。ここまですべて77とを76～75～66～65～56と移動したことになる。その56とはもちろん回収するのだが、いつ回収するのは意外な大問題。ここで解説している1325手解は、すぐに取り。しかし、後回しにする手順があったのだ。この驚きの短縮手順=1323手解は最後に解説する。

56歩 同玉 16飛 65玉 15飛 74玉 14飛 85玉 15飛 86玉 16飛 95玉 15飛 85と 96歩 94玉 14飛 84と 95歩 同玉 15飛 86玉 16飛 75玉 15飛 66玉 16飛 57玉 17飛 37歩合 58歩 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 37歩 46玉 16飛 55玉 15飛 56玉 16飛 36歩合 57歩 55玉 15飛 44玉 14飛 35玉 36歩 同玉 「A」 (③、+52+48=166手。中間2図)

中間2図 (166手。△歩3▲歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	将	将	将	将	将	将	将	皇	一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
	ス							飛	四
									五
						王			六
	ス		ス	歩					七
ス	ス	ス	ス						八
ス	皇							王	九

持駒 歩3

・歩稼ぎ手順の途中で94とを85～84のように移動しておく。97歩がある今のうちに、それを活かす行き掛けの駄賃的な手順。97歩の回収と94との移動を兼ねてしまえという巧妙さなのだ。もう一つの理由は3筋と9筋の往復は、5筋と9筋の往復よりも手数が掛かるということ。その後、A手順で持歩を3枚（これが現状最大限）に増やしてから、67との回収にかかる。

B「16飛 45玉 15飛 54玉 14飛 65玉 15飛 74玉 14飛 85玉」15飛 96玉 16飛 66と 97歩 95玉 15飛 65と 96歩 同玉 16飛 56と 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉 15飛 54玉 14飛 55玉 56歩 同玉 (④、+34=200手。中間3図)

中間3図 (200手。△歩2▲歩3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	将	将	将	将	将	将	将	皇	一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
	ス							飛	四
									五
				王					六
歩	ス								七
ス	ス	ス	ス						八
ス	皇							王	九

持駒 歩2

・67とを66～65～56と移動して回収する。
・ここで2枚のと金の回収順、すなわち67とから回収するか、77とから回収するか問題について決着

をつけておこう。

森茂氏は、「解答王森茂」とか、「森茂氏の豪腕恐るべし」などと評されることが多かったわけだが、その真髓は決して超能力でもマジックでもなかった。彼はこの種の「どちらのと金から手をつけるべきか。」的な問題設定自体を発見した。「(短縮) 手順の探究のために予断を排して可能性を緻密に調べ尽くす。」という、考えてみれば当たり前のことに自覚的に取り組む。これが森茂氏だったのではないだろうか。これは誰にもできることではないため、ついつい「解答王森茂」のようにレッテルを貼って、神棚に祭り上げて思考停止してしまう。自戒しなければならない。

以下の考察はかなり細かい話になるので、先を急ぎたい方は飛ばしても差し支えない。

・試しに67と～77との順に回収してみよう。

1. 初手16飛に対して、いきなり66ととする。

16飛 66と 97歩 95玉 15飛 65と 96歩 同玉 16飛 56と 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉

のように進む。こうしてしまうと、56とをどのように回収するのが大問題となる。56とは5筋では回収できないので、3筋で回収せざるを得ない。その場合の回収位置は36、37、38の3箇所が考えられる。手順は省略するが、そのどれも実現が不可能または可能であっても手数がオーバーしてしまう。

2. それではと、いきなり66ととするのではなく先に57歩を打っておいたらどうか。遠回りのようだが、急がば回れ。

初手より、

16飛 85玉 15飛 76玉 16飛 65玉 15飛 56玉 57歩 66玉 16飛 75玉 15飛 86玉 16飛 95玉 15飛 96玉 16飛 66と 97歩 95玉 15飛 65と 96歩 同玉 16飛 56と 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉 15飛 54玉 14飛 55玉 56歩 同玉

(40手、66とを回収。△歩2▲歩2、97歩が残留)

・66との回収だけ見ると、③ (166手) から、④ (200手) まで34手でできていた手順なので、ここまでだけでも既に長い。3筋で回収するより短手数ではあるのだが。

・77との回収を先に行う利益は、次の2点。

○77との回収はいずれにしても一息では行えず、66の地点で一時停止することになる。66との状

態のまま、右辺で歩稼ぎ手順をせざるを得ないが、その流れの中で57歩をセットし66との入手にスムーズにつなげることができる。

○77とを先に回収してしまえば、67との回収時に6段目をと金が塞ぐことはなく、94との移動や97歩の回収にも支障がない。

・実際は各可能性に対して最短手順を調べて比較することになる。膨大な作業が必要になることは容易に想像できる。これを森茂氏は行ったのだろう。

・大分端折ったが、以上の考察から77と～67との順が67と～77との順より短手数であると結論する。

再掲中間3図 (200手。△歩2▲歩3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	爵	皇	爵	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
	ス							飛	四
									五
				王					六
歩	ス								七
ス	ス	ス	ス						八
ス	皇							王	九

持駒 歩2

「A」「B」15飛 86玉 16飛 95玉 15飛 75と 96歩 94玉 14飛 74と 95歩 同玉 15飛 65と 96歩 同玉 16飛 56と 97歩 95玉！ 96歩 84玉 14飛 75玉 15飛 64玉 14飛 55玉 56歩 同玉 (⑤、+88=288手。

△歩2▲歩4)

・84とを回収。97歩型でなく96歩にしておくのは、手数短縮のための細かい工夫。

「A」「B」15飛 96玉 C「16飛 86と 97歩 95玉 15飛 85と 96歩 94玉 14飛 84と 95歩 同玉 15飛 96玉 16飛 56歩合！！ 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉 15飛 54玉 14飛 55玉 56歩 同玉」(⑥、+88=376手。△歩2▲歩4)

・どきくさ紛れに56歩合とは意表を突かれる。こんなところで1歩を稼ぐのか！

・87とを84に移動。84との回収は、中間3図からの88手と同じなので略す。(⑦、+88=464手。中間4図)

中間4図 (464手。△歩2▲歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	爵	皇	爵	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
								飛	四
									五
歩				王					六
									七
ス	ス	ス	ス						八
ス	皇							王	九

持駒 歩2

「A」×3 16飛 47玉 17飛 38玉 39歩 48玉 18飛 57玉 17飛 58玉 18飛 38歩合 59歩 57玉 17飛 46玉 16飛 37玉 38歩 47玉 17飛 56玉 16飛 57玉 17飛 37歩合 58歩 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 37歩 同玉 17飛 46玉 16飛 55玉 15飛 66玉 16飛 75玉 15飛 86玉 16飛 85玉 15飛 96玉

(⑧、+48×3+32+16=656手。中間5図)

・「A」の前半32手、すなわち歩を稼げるだけ稼いで、この後58歩型のまま左辺に追う。

中間5図 (656手。△歩5▲歩2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	爵	皇	爵	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
								飛	四
									五
王									六
									七
ス	ス	ス	ス	歩					八
ス	皇							王	九

持駒 歩5

・いよいよ98との移動にかかる。

97歩 同と 16飛 95玉 96歩 同と 15飛 86玉 16飛 97玉 17飛 87と上 98歩 96玉 16飛 86と 97歩 95玉 15飛 85と 96歩 94玉 14飛 84と

・98とを～97～96～87～86～85～84へ移動。ここは気持ちよく手が進む。しかしこの後どうするつもりなのか。この時点で持駒の歩は2枚だけ。心細く

なってきたので、右辺に戻って歩稼ぎに入るのかと思いきや...

95歩 同玉 15飛 96玉 16飛 97玉 17飛 67と 98歩 96玉 16飛 66と 97歩 同玉 17飛 57と 98歩 96玉 16飛 85玉 15飛 76玉 16飛 65玉 15飛 56玉 57歩 66玉！ 16飛 75玉 15飛 86玉 16飛 95玉 15飛 96玉 16飛 56歩合！！ 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉 15飛 54玉 14飛 55玉 56歩 同玉 (⑨、+74=730手。△歩2▲歩6)

・なんと、5筋～3筋じゃなく9筋～5筋で歩稼ぎをしてしまう。頭が柔軟ですね。感心せざるを得ない。68とを～67～66～57として回収し、続けて56歩合で2枚の歩がここで稼げるのは大きい。

「A」×3 16飛 47玉 17飛 38玉 39歩 48玉 18飛 57玉 17飛 58玉 18飛 38歩合 59歩 57玉 58歩 66玉 (⑩、+48×3+16=890手。△歩3▲歩2)

・58歩 38歩 39歩をそのままにして、左辺に追い出す。

16飛 77玉 17飛 86玉 16飛 97玉 17飛 77と 98歩 96玉 16飛 76と 97歩 95玉 15飛 75と引 96歩 同玉 16飛 66と 97歩 同玉 17飛 57と 98歩 86玉 16飛 75玉 15飛 66玉 16飛 55玉 15飛 46玉 16飛 37玉にて次図 (⑪、+36=926手。中間6図)

・78とを～77～76～75～66～57のように移動する。

中間6図 (926手。△なし▲歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	将	将	将	将	将	将	将	皇	一
金	歩	飛	金		銀	銀	銀	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
	ス								四
									五
								飛	六
王									七
	ス								八
ス	卒					歩		王	九

持駒 なし

38歩 47玉 17飛 36玉 37歩 45玉 15飛 56玉 16飛 36歩合 57歩 55玉 15飛 44玉 14飛 35玉 36歩 同玉 16飛 45玉 15飛 54玉 14飛 65玉 15飛 76玉 16飛 85玉 15飛 96玉 16飛 56歩合！ 97歩 85玉 15飛 74玉 14飛 65玉 15飛 54玉 14飛 55玉 56歩 同玉 (⑫、+44=970手。△歩4▲歩5)

・△歩3▲歩5としたところで、どうするか。なんと98歩が残留しているのを抜け目なく利用して、5筋で歩を稼いでしまう。

「A」×2 16飛 37玉 17飛 38玉 39歩 48玉 18飛 57玉 17飛 66玉 16飛 77玉 17飛 86玉 16飛 97玉 (⑬、+48×2+16=1082手。中間7図)

中間7図 (1082手。△歩5▲歩4)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	将	将	将	将	将	将	将	皇	一
金	歩	飛	金		銀	銀	銀	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
	ス								四
									五
								飛	六
王									七
	ス								八
ス	卒					歩		王	九

持駒 歩5

・39歩を残したまま左辺へ。

17飛 87と 98歩 96玉 16飛 86と 97歩 95玉 15飛 85と引 96歩 同玉 16飛 97玉 98歩 同と 17飛 96玉 97歩 同と 16飛 87玉 17飛 98玉 18飛 88と上 99歩 97玉 17飛 87と 98歩 96玉 16飛 86と引 97歩 87玉 (⑭ +36=1118手。△歩▲歩7)

・88とを～87～86～85へ移動、99とを～98～97～88～87～86へ移動。8筋にと金柱ができるが、この3枚のと金は消さなくてもよい。肝心なのは89の杏で、これを入手するのが大目的。この後は、89杏の移動に取り掛かるのだが、59歩をセットした状態で持歩が4枚になってから、いよいよ最終コーナーへ。

17飛 78玉 18飛 67玉 17飛 58玉 18飛 38歩合 59歩 57玉 17飛 46玉 16飛 37玉 38歩 47玉 17飛 56玉 16飛 57玉 17飛 37歩合 58歩 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 37歩 46玉 16飛 55玉 15飛 56玉 16飛 36歩合 57歩 55玉 15飛 44玉 14飛 35玉 36歩 同玉 (⑮、+44=1162手。△歩3▲歩5)

「A」×2 16飛 35玉 15飛 46玉 16飛 57玉 17飛 58玉 59歩 68玉 18飛 77玉 17飛 88玉 18飛 97玉 17飛 98玉 (⑯、+114=1276手。中間8図)

・57歩を消さないと59歩が打てないので、ちょっと

遠回り。ここからいよいよ89杏をジグザグに移動させる。7段目と8段目が素通しになっているので、これで十分。

中間8図 (1276手。△歩4▲歩3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	杏	皇	杏	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
	ス								四
	ス								五
	ス								六
								飛	七
王									八
	皇			歩				王	九

持駒 歩4

18飛 88杏 99歩 97玉 17飛 87杏 98歩 同玉 18飛 78杏 99歩 97玉 17飛 77杏 98歩 同玉 18飛 68杏 99歩 97玉 17飛 67杏 98歩 同玉 18飛 58杏 99歩 87玉 17飛 76玉 16飛 67玉 17飛 56玉 16飛 57玉 58歩 47玉 17飛 36玉 16飛 27玉 17飛 同香成！ 29香 28杏 同香 17玉 18香迄1325手詰。(⑩、+49=1325手)

作者—最短手順に自信が持てないので参考題程度に....

担当者—結果は最短手順を求める絶好のパズル。マイッタ。本作はまだまだ長手数に改作する余地があって遂に今月の懸賞に見られるような怪物に成長をとげた。オドロイタネ、ドーモ。解答者の感想は「ツカレタァ」と賛辞の混合。賛辞は今月の懸賞作のためにとっておきましょう。

・本局は今までの長編作と全く違った原理を持っている。すなわち歩をたくさん用いて局面を微妙に変化させていく主要部に持歩を増やすメカニズムがドッキングされた構成だ。ABABA...という複合形式によって超長手数を達成しようという考え。森氏の#89、#90も歩稼ぎ手順を絡めた複合形式と言えなくもないが、消費が供給を上回っているため長手数には限界があった訳。以降の超長編は基本的にはすべてこの形式に従っている。

・さて、手数短縮の最大のポイントは3枚のと金を消さずに残せたことでしょう。細かいところでは、と金を消す順序、また9筋～5筋で歩稼ぎをやってしまう手順を適宜絡ませる発想の柔軟さが見事で

す。その他微妙な工夫がいたるところにあり、驚くよりほかありません。

・担当者が最後に触れている今月の懸賞作とは、#113のこと。本作が飛の上下動だけで玉の横送りが出るのに対して、飛の動き+歩の連打で横送りをするのが改良の着眼点。

《早詰1323手解の紹介》

・中間1図 (66手) から中間2図 (166手) に至る100手の手順を、2手短縮する方法があった。

再掲中間1図 (66手。△なし▲歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	杏	皇	杏	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	皇	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
ス								飛	四
				王					五
				ス					六
歩	ス		ス	歩					七
ス	ス	ス	ス			歩			八
ス	皇							王	九

持駒 なし

・ここでは誰でも56歩と取りたくなるだろうが、取らない手があるのだ！

15飛 35歩！ (+2=68手)

・一瞬意味が分からない。ショック！

56歩 同玉 16飛 47玉 17飛 36玉 37歩！ 47玉！ 36歩！ 38玉 (+10=78手)

・折角ある38歩を活用しようと言う手順なのだと、よくよく考えてみれば納得は出来る。

18飛 27玉 17飛 26玉 16飛 25玉 15飛 34玉 35歩 24玉 14飛 35玉 15飛 26玉 (+14=92手)

・35歩を回収する。

16飛 27玉 17飛 38玉 39歩 48玉 18飛 47玉 17飛 58玉 18飛 38歩 59歩 47玉 17飛 36玉 16飛 37玉 38歩 47玉 17飛 46玉 (+22=114手)

・要するにA手順の前半22手と同じ。

16飛 55玉 15飛 64玉 14飛 75玉 15飛 84玉 14飛 95玉 15飛 85と 96歩 94玉 14飛 84と 95歩 同玉 15飛 86玉 16飛 75玉 15飛 66玉 (+24=138手)

・94とを84に移動するのと97歩の回収をこのタイ

ミングでやってしまう。

16飛 57玉 17飛 37歩 58歩 46玉 16飛 35玉 15飛
36玉 37歩 46玉 16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 36歩
57歩 45玉 15飛 34玉 14飛 35玉 36歩 同玉
(+26=164手)

・要するにA手順の後半26手と同じ。

中間2'図 (164手。△歩3▲歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	馬	丞	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	馬	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
	ス							飛	四
									五
						王			六
	ス		ス	歩					七
ス	ス	ス	ス						八
ス	皇							王	九

持駒 歩3

・以前の中間3図とよく見比べていただきたい。全く同じ盤面と持駒だが、なんと手数が2手短くなっている。

神無七郎—どうやらこの手順は稼げる歩の枚数が少ないときにだけ成立する特殊な手数稼ぎのようで、後の段階の検証では手数短縮順は見つかっていません。この手順を新たに作意に据えれば、とりあえずは準完全作ということで良いと思いますが、前置きで述べたとおり、これが最短順という保証はありません。あくまで「現在見つかった最短解」に過ぎないのです。

・先入観を排して虚心に盤面を見て最短順を見つける、と口で言うのは簡単だが。56とをすぐに取りえない手が短縮順に繋がるとは、ばか詰の世界は本当に深い。

213号【73-10】に花沢氏が自殺詰を3題発表した。

#99 自殺詰 花沢正純 213号【73-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						と	皇	皇	六
					馬	歩		王	七
						金			八
					飛	銀		王	九

持駒 銀桂4 歩3

解：

#99

27金 イ同香生 29桂 同角生 A18歩 同角生 29桂 同角生 18歩 同角生 29桂 同角生 18歩 同角生 29桂 同角生 28銀行 同香生 18銀 同角迄20手詰。変化：イ同香成は、18歩 同杏迄早詰。

・初手は27を埋めながら角筋を通す絶対手。対して、不成はイの変化のため必然。続く2手も他に手が無い。問題はこの後12手かけて持駒の桂と歩をすべて捨ててしまう不思議な手順です。持ち駒が減るだけで意味のない着手に見えるからです。試しにAで直ちに、28銀行 同香生 18銀 同角生としてみると次の図になります。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						と	皇		六
						歩	王		七
							皇	馬	八
				飛				王	九

持駒 桂3 歩3

これは詰上りでしょうか。詰棋の感覚から言えば確かに19王は詰んでいます。しかし、これが自殺詰であることを忘れてはいけません。

作者—この形「29か39に合駒せよ。」と後手に主張

する権利があるように思えるのですが...。
・つまり、合駒をどう処理するかは後手の自由なわけで双方の目的が詰棋と違うのだから、この図では詰上がりとは認められないのです。上手からは王手連続の義務との兼ね合いから29桂と打つ一手ですが、同飛や同香成とはしてくれません。27玉でアウトです。ここに至って本局の構想が明らかになりました。

持駒が邪魔駒!!

#100 自殺詰 花沢正純 213号【73-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛					王			王	一
					銀			香	二
					龍	金			三
					香		金		四
									五
									六
									七
									八
					王			香	九
角								王	

持駒 歩17

解:

#100

22金 同玉 A「23歩 11玉 22歩成 同玉」×17
23龍 11玉 B43香成 188歩 同角 77歩 同角 66歩
同角 55歩 同角 44歩 同角 33歩 同角生 22歩
同角生 21玉 32杏 同金 同龍 同玉 33金行 21玉
12香成 同玉 C「13歩 21玉 12歩成 同玉」×8
11金 同飛 13角成 21玉 12馬 同玉 22金 13玉
23金 14玉 24金 15玉 25金 16玉 26金 17玉 27金
同玉迄146手詰。

変化: 1同飛は先手に持駒がないので詰んでいる。
他の合駒は同様に進んで、Cのところで打って成捨てする同様手筋で同手数。

・Aで持歩の全捨てするのはBで空王手するための準備です。これは#99と同じ意味。99角の王手に対しては、同飛は詰みなので合駒は絶対です。ここで後手が先手に出来るだけ駒をたくさん渡しておこうというのが本局の主眼です。#99の逆筋ですね。連続中合の意味は単純な手数伸ばしです。以降も持歩の全捨てがあり、収束はヒモのついていない金の縦引で鮮やか。この作は筆者に自殺詰の面白さを教えてくれた思い出の作です。変化紛れの少ないのが筆者好み。

*早詰: 22金 同玉 12香成 同玉 13龍 21玉 22歩

32玉 41銀生 31玉 33龍 32香 21歩成 同玉 32銀
11玉 13香 12歩 21金 同飛 同銀成 同玉 12香成
同玉 22飛 11玉 31龍 21香合 同飛生 12玉 13金
同玉 22龍 14玉 23龍 15玉 24龍 16玉 25龍 17玉
15龍 16合 28飛成 同金迄44手詰。合駒の変化等があるが詳しくはOnsite Fairy Mateをご参照ください。

#101 自殺詰 花沢正純 213号【73-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
								王	四
									五
					香	と		と	六
					香		香	王	七
						と	と	と	八
				王	と		と	王	九

持駒 金4 銀 歩4

解:

#101

25と左 13玉 24と 12玉 23と 11玉 12歩 21玉
22歩 31玉 32と 同玉 42香成 33玉 43杏 34玉
44杏 35玉 36銀 同玉 37と右 35玉 34杏 同玉
25と 33玉 24と 12玉 23と 31玉 21歩成 同玉
11歩成 13玉 21と 同玉 32金 11玉 12と 同玉
22金寄 13玉 23金引 14玉 24金引 15玉 25金引
16玉 17と 同玉 28と寄 16玉 15金寄 同玉 26と
14玉 25と 13玉 24と 12玉 23と 11玉 12歩
21玉 22歩 31玉 32と 同玉 42金 33玉 43金引
34玉 44金引 35玉 45金引 36玉 37と 同玉
38と右 36玉 48桂 同龍 45金寄 同玉 26金 34玉
25金行 33玉 24金行 32玉 23金行 31玉 21歩成
同玉 11歩成 31玉 21と 同玉 32金打 11玉 12金
同玉 22金 13玉 23金 14玉 24金 15玉 25金 16玉
26金 17玉 28と寄 同龍迄114手詰。

変化: 121玉は12銀 31玉 32と 同玉以下早い。

122玉は23と 31玉 42金 21玉 32と 12玉 22と以下作意通りで早い。

123玉は12と 同玉 22金以下作意通りで早い。

124玉は12金 31玉 32と 同玉 22金寄以下

・何ともねちっこい趣向で同氏の自殺煙詰 (#63)の前半の雰囲気と似ている? 玉の逃げ方の練習といった感じです。この形で114手もかかるのだから

自殺詰ルールの方のしぶときは相当なもの。花沢氏の本領は前局のようにスカッとしたものより、本局のような粘っこさにあるようだ。

＊早詰：15金 13玉 14金打 12玉 13歩 11玉 21香成 同玉 12金 31玉 41香成 32玉 42杏 33玉 43杏 34玉 35と 同玉 45金 36玉 26と 同玉 17と直 36玉 48桂 同龍 37と右 同龍 27と右 同龍 46金 26玉 35銀 17玉 18と 同龍迄36手詰。

花沢氏は引き続いて215号【73-12】のサロンに2508手詰！の自殺詰を載せている。

作者一当初はこんな超手数をねらうつもりはなかったのですが、モテ遊んでいるうちに2000手を越えてしまいました。手順前後、着手非限定を気にしなければ大きく引き伸ばせます。1万手をこえるかもしれません。

・惜しいことに本作には早詰が成立していました。指摘は森茂氏とのことです。

#102 ばか詰 古関三雄 216号【74-1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	将	馬	皇						一
皇	馬		王						二
王	皇	王							三
	王			馬					四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀

#103 ばか詰 山本善章 216号【74-1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金

#104 ばか詰 柳田明 219号【74-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				ス					六
				王	ス				七
				ス					八
									九

持駒 金 桂2

#105 ばか詰 中出慶一 215号【73-12】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
と	と	と	と	と	と	と	と	と	六
歩	歩	香	香	香	香	桂	歩	歩	七
	馬	王						銀	八
						歩		銀	九

持駒 歩4

#106 非連続王手ばか詰 太田啓好 218号【74-3】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				皇		将			五
						馬			六
						馬			七
						馬			八
						王	歩		九

持駒 香

#107 非連続王手ばかり詰 太田啓好 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				歩			王		六
					飛		飛		七
							飛		八
							王		九

持駒 香

#108 ばかり詰 新田道雄 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
									二
			歩						三
				桂		歩			四
飛	角				金	香	歩		五
				歩	桂	王		桂	六
			王			歩	歩		七
			飛						八
				香					九

持駒 飛

#109 ばかり詰 八尋無段 217号【742】

51角を詰める

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王				王					一
									二
			歩						三
									四
	歩		歩						五
									六
									七
									八
			王						九

持駒 桂3

手数は順に、17手、ノーヒント、11手、47手、

7手、7手、7手、13手。

解：

#102

81馬 同玉 72銀 同玉 64桂 81玉 72桂成 91玉
82圭 同玉 91銀 81玉 82銀生 72玉 71銀成 82玉
81金迄17手詰。

担当者—ご存知穴熊の一局。堅固な囲いもばかり詰
ではかくの如し。痛快マルカジリの一局でした。
絶連の気味がありますが収束で考えさせてくれ
ます。

・古閑氏は実践型囲いシリーズと題して全部で7局
発表している。

中出慶—私は古閑氏の一連の実戦型ばかり詰には
あまり価値を認めない者の一人です。ばかり詰ゆ
えいづれは詰むというのではなく、飛躍手の応
酬が必要と思う。

・中出氏の意見に90%賛成。ばかり詰の性格を狭く限
定する恐れがあるので、それが10%の反対。さて本
作、王手が続くように攻めれば自然に詰んでしま
うのだが、どこか味がある。

#103

17金 19玉 37角迄3手詰。

担当者—5手、7手の答えがかなりあった。寸鉄の一
局。

大谷孫八—ばかり詰の味満点。

・軽い作だが捨てられなかった。センスの良い作者。

#104

49桂 46玉 45金 36玉 A48桂 同と直 35金 46玉
36金 47玉 37金迄11手詰。

・形がいいですね。桂吊るしは考えられないので、
金がトドメの駒と決まります。そこで、詰上りを想
定して…。こんな解図法が普通では？闇雲に駒を
動かすのはヘタ。

*余詰：Aより28桂 25玉 37桂 24玉 35金 15玉
25金迄。鏡像手順で9筋で詰める順もある。

#105

79歩 68玉 69歩 58玉 59歩 48玉 49歩 39玉 28銀
38玉 29銀 49玉 38銀 48玉 39銀 59玉 48銀 58玉
49銀 69玉 58銀 68玉 59銀 79玉 68銀 78玉
A79銀！ 89玉 78銀 98玉 89銀 99玉 88銀 98玉
99銀 89玉 98銀 78玉 B89銀 79玉 88銀 78玉
69銀 89玉 78銀 98玉 89銀打迄47手詰。

担当者—難しい趣向ではないが、最短手順を見つ
けるのに細心の注意がいる。正解者は割と少な
かった。

・双銀鋸の趣向ですが、これは見やすい。収束手順

が難しい。Aの79銀が解決への鍵でここ惰性で69銀とすると手数が伸びてしまう。

*余詰：Bより69銀 88玉 89銀 79玉 88銀 89玉 78銀 98玉 99銀打迄。

#106

18歩！ 同玉 29香 17玉 28香 18銀成 27金迄7手詰。

担当者一初手が絶妙。

#107

49香 48飛行 同香 38玉 43飛 37玉 47飛成迄7手詰。

・このルールだと合駒でなくとも後手が駒を打てるのでかなり手広い。#106の方が出来は上と思う。

#108

26飛 45玉 58角 56玉 36角 46玉 69角迄7手詰。

・筋が良すぎる(?)ので難しくはない。ばか詰というより詰棋の感覚に近い。

#109

43桂 33角 25桂 77角成 89桂 22馬 13桂成 32馬 31桂成 33馬 32圭 11馬 22圭迄13手詰。

担当者一角成がミソなんです。

*非限定：77角生～22角成もありイタイ。最終手も2通りある。

・姉妹作が2作あるので参考に書いておきます。

妹1：65歩を省き69とを77とに移す。持駒桂3

妹2：85歩を省き69とを77とに移す。持駒桂3

妹1の解：43桂 73角 65桂 62角 53桂成 73角 63圭 82角 74桂 93角 94歩 71角 62圭迄13手詰。

妹2の解：43桂 73角 85桂 62角 73桂成 53角 63圭 71角 72歩 93角 85桂 82角 73圭迄13手詰。

「加藤氏からの大量投稿のお陰で長編作のストックが10編を越えた。毎月1編ずつ特別懸賞として消化していきたいと思います。今月は幕開けとして最短の55手詰めの作品を提供いたします。」

これは216号【74-1】から引用です。いよいよ加藤徹氏の長編趣向シリーズの登場です。

#110 ばか詰 加藤徹 216号【74-1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王	皇		一
					龍				二
				馬		香	卒		三
							ス	ス	四
		馬		ス		ス	ス		五
							ス	ス	六
						ス	ス		七
				龍				ス	八
						ス		王	九

持駒 桂4 歩6

解：

#110

18龍 同玉 19歩 17玉 18歩 同と 29桂 27玉 28歩 同と 19桂 36玉 37歩 同と 48桂 26玉 27歩 同と上 38桂 15玉 16歩 同と 27桂 25玉 26歩 同と上 37桂 34玉 35歩 同と 46桂！ 24玉 25歩 同と上 36桂 13玉 14歩 同杏 25桂 23玉 24歩 同杏 35桂 14玉 13桂成 15玉 14圭 25玉 24圭 15玉 14圭 同玉 15歩 13玉 14香迄55手詰。

担当者一本作を初めて見たとき、このと金の形の幾何学的な美しさに惹かれました。と金の群の中を玉と桂が塗っていく手順も目を楽しませてくれます。加藤さんは趣向を簡潔に表現するのが上手ですね。趣向自体にも原因してるのかもしれませんが、美的感覚をチクチク刺激してくれます。

磯田征一—杏香角のどれを頂くのかわからず、苦労しました。

佐々木光正—55手詰めというただし書きがなかったら、60数手で詰めるところ。

森茂—四桂詰ともいうべき面白い手順。順に追っていると行き詰ったが、46桂の発見で一件落着というところ。非限定なしで実にうまくできています。後続作が大いに楽しみ。

担当者—Aで惰性で26桂とと金を取りたいが、46桂と逆に跳ぶ。作図の成り行きで入ったのか、意図して入れたのかは分かりませんが、... (後略)。

・本作は最初から四桂詰を目標に作図されたものと想像します。Aでうっかり26桂と跳んでしまうと14に効きが生ずるため押す手がなくなる仕掛け。筆者のお気に入りです。

#111 ばか詰 加藤徹 218号【74-3】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				王	香	桂	香		二
									三
							桂		四
					桂	桂	歩		五
					馬				六
				飛					七
				香				王	八
				飛			香	金	九

持駒 歩16

解:

#111

17飛 同玉 18歩 16玉 17歩 15玉 16歩 14玉 15歩 13玉 14歩 23玉 13歩成 33玉 23と 34玉 33と 44玉 43と 34玉 44と 23玉 33と 13玉 23と 14玉 13と 15玉 13と 15玉 14と 16玉 15と 17玉 18歩 同馬 16と 同玉 17歩 15玉 16歩 14玉 ...以下この要領で馬を釣りあげる。サイクルは4手ずつ減少する。18歩打 (3手目) 17歩打 (37手目) 16歩打 (67手目) 15歩打 (93手目) 14歩打 (115手目) ここから 14歩打 23玉 13歩成 33玉 23と 34玉 33と 44玉 43と 34玉 44と 23玉 33と 13玉 14歩 同馬 23と 同馬 14歩 同玉 15歩 同玉 16歩 同玉 17歩 同玉 18歩 同玉 19歩 同玉 28香 29飛 同飛 18玉 19飛打迄149手詰。

担当者—この頃は3桁の手数もさほど長い感じがしなくなっている。本局もむしろ可愛らしい小品という感じ。(中略) このような型をヒョイヒョイト (でもないかな) 生み出すオには感心させられる。

鮎川哲朗—減衰運動を思わせる玉の動きが面白い。

これなかなか発展性がありそうですね。

秋元節三—長編ばか詰がやっと解けました。感激!

中出慶一—趣向メーカー加藤氏の軽快作。巧い馬移動法であり収束も簡単ながら気が利いている。
・単純美と言うのでしょうか。解答者は18名で全員正解。#110は、9名でした。

幻想詰将棋型録 6

#112 ばか詰 加藤徹 219号【74-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						飛			一
						香	銀	銀	二
						香		角	三
					王	香	馬		四
						香	玉	飛	五
				銀		歩		桂	六
				銀	桂				七
				金				金	八
				歩	金	金			九

持駒 桂2 歩13

解:

#112

26歩 同玉 27歩 37玉 38歩 27玉 28歩 26玉 27歩 25玉 37桂 同歩 26歩 36玉 37歩 同玉 38歩 26玉 「27歩 25玉 37桂 同香 26歩 36玉 37歩 同玉 38歩 26玉 28香 27桂合 同香 同玉 28歩 26玉」×4 27歩 25玉 37桂 同飛 26歩 36玉 37歩 46玉 36飛迄91手詰。

担当者—いつ見ても加藤氏の作品は形が美しい。

指棋一辺倒の人にこれを見せたら、「こんな形はできっこないよ。」感覚がずれていると言えなうか、土俵が違えうですね。

作者—手順前後あるも修正不能。

浦壁和彦—37桂の発見が少々手間取った。以下は簡単であった。

佐々木光正—バツグンの楽しさ。加藤氏の想像力に敬服します。

・香はがしの第1号局です。この趣向は現在 (1979年) までに6局あり、それぞれ工夫が凝らされています。合駒で分類すると本局のように桂合させるものが3局、金合が1局、金桂合が1局、もう1局は桂香の複合はがしのため合駒なしとなっています。

加藤さんの作を3局並べてみましたが、どんな感想を持ったのでしょうか。筆者は趣向手順の一貫性みたいなものを強く感じました。氏の主たる関心は趣向手順の構成 (創案と表現) にあり、難解性や長手数は付属品なのではないかと思ひます。これはもちろん氏の作が易しいものばかりと言っているのではありません。難しいものもかなりありま

す。しかしそれが構想そのものの難度であると言いたいわけです。謎解きの妙味を前面に押し出している森茂氏の行き方とは対照的だと思います。おっと、忘れてはいけません。もう一人超人がおりました。

担当者一本作品は4000手近い作。とにかくそのものスゴさに声が出ない。しかもひどく難解で解答者の苦しみは想像を絶するのでは？...

#113 ばか詰 鮎川哲朗 217号【74-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	金	銀	香	香				一
					銀			飛	二
金	金	銀	銀	香	金	香	香		三
			歩	ス	歩		ス		四
ス					ス			飛	五
		金	金		ス	王	歩	と	六
	馬	馬	金	金	ス				七
		馬	ス		ス				八
					ス	ス		王	九

持駒 なし

担当者一解答者5名。最短は佐々木氏の3667手でした。作意手数は3945手。佐々木氏のアイデアに森氏の手順を加え、更に収束を少々いじったら3451手になった。

・結果発表は220号【74-5】に載っている。これからこの3451手解を紹介するつもりだが、掲載されたのが詰バラだから仕方のないことですが、この超大作の解説に割かれたのがたったの2ページ。そのためその大半が略記で解説は困難を極めました。

＊ (新装版の注) ＊

幻想詰将棋型録の元版では筆者が結果発表の3451手解を復元できず、4手長い3455手解を解説している。そのことは当時も残念だったし、最近に至るまで喉に引っかかった魚の骨のようだった。今回新装版を作成するにあたって本作を検討し直した結果、元版の解の誤りが判明した。そこで晴れて、ここに3451手解を解説することができる。このことだけでも今回新装版を書く意味があり、とてもうれしい。

その際神無七郎氏のweb上の論考が無茶苦茶参考になりました。ここに神無七郎氏に厚く御礼を申し上げます。

なお、同論考において26手短い3425手の解 (現在

のところ最短解) が紹介されている。3451手解を解説した後、そちらについても触れる。

解を示す前に歩稼ぎの基本形を書く。

歩稼ぎ基本図

36玉は26玉でも良い。39とがあるのも可、4筋以遠は色々あり。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	金	銀	香	香				一
						銀		飛	二
金	金	銀	銀	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
ス								飛	五
		金	金			王			六
	馬	馬	金	金					七
		馬	ス						八
					ス			王	九

持駒 歩2

A手順「16飛 27玉 28歩 37玉 17飛 27歩合 38歩 26玉 27歩 36玉 16飛 26歩合 37歩 25玉 26歩 35玉 15飛 25歩合 36歩 24玉 25歩 34玉 14飛 25玉 15飛 36玉」

・26手で原型に戻り、持駒が歩2から歩3に増加している。手順を見れば分かる通り、歩を稼ぐのに最低2歩の資本がいることに注意。もう一つ、後手玉が最後2枚の歩を取るのので、後手の持駒は▲歩xで、 $x \geq 2$ となります。例によって、先手後手の持駒を△歩2▲歩3のように表す。手数計算は基本的に15飛 36玉型 (歩稼ぎ基本図) で行う。

解:

#113

35飛 27玉 17と! 同玉 37飛 27歩合 同飛 16玉 17歩 15玉 16歩 14玉 15歩 13玉 14歩 同玉 17飛 16歩合 同飛 15と 同飛 24玉 14飛 35玉 15飛 26玉 (通算26手、△歩2▲歩1)

・ピリッとしたスタート。最初は後手の持駒も少ないので、3~5筋のと金を消去して自由な歩 (盤上にない歩) を増やすことが先決となる。

16飛 27玉 28歩 37玉 17飛 27歩 38歩 26玉 27歩 36玉

(これはA手順の前半10手なので、Aの左側に数字を書いて、[10A]のように表すことにする。対照的

にAの後半16手はAの右側に数字を書いて、[A16]のように表すことにする。)

37歩 35玉 36歩 34玉 35歩 同と 14飛 25玉 15飛 36玉 16飛 26と [A14]

(+36=62手、△歩2▲歩2)

・45とを～35～26として消去。

[16A] 36歩 同と 15飛 26玉 [5A] 27と [A20]

(+46=108手、中間1図)

・46とを～36～27として消去。

中間1図 (108手。△歩3▲歩2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
			歩	歩	歩				四
歩								飛	五
		歩	歩				王		六
	歩	歩	歩	歩	歩				七
		歩	歩		歩				八
				歩	歩			王	九

持駒 歩3

[9A] 35玉！ 15飛 46玉 16飛 55玉 56歩 64玉 65歩 同玉 15飛 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+40=148手。△歩2▲歩4)

・64歩を消去。「他の時期に64歩を消去すると手損...森」

[A]×2 37歩 同と 16飛 35玉 36歩 同と 15飛 26玉 [5A] 27と [A20]

(+86=234手。△歩3▲歩4)

・47とを～37～36～27として消去。

[A]×2 16飛 37玉 38歩 同と 17飛 36玉 37歩 同と 16飛 35玉 36歩 同と 15飛 26玉 [5A] 27と [A20]

(+92=326手。△歩3▲歩5)

・48とを～38～37～36～27として消去。

[A]×2 16飛 37玉 38歩 同と 17飛 36玉 37歩 同と 16飛 35玉 36歩 同と 15飛 26玉 [5A] 27と [A20]

(+92=418手。△歩3▲歩6)

・39とを～38～37～36～27として消去。

[A]×2 16飛 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 45と 56歩 同玉 16飛 47玉 17飛 58玉 59歩 同と上 18飛 47玉 17飛 38玉 39歩 同と (+74=492手。△歩2▲歩7)

・54と～45と、68と～59と、49と～39と。

18飛 27玉 28歩 37玉 17飛 27歩 38歩 26玉 27歩 36玉 16飛 26歩 37歩 25玉 26歩 35玉 15飛 25歩 36歩 24玉 25歩 34玉 35歩 同と！ 14飛 25玉 15飛 26玉

(+28=520手。△歩3▲歩6)

・A手順のついでに45と～35との移動。

[11A] 26と [A14] [A]

(+52=572手。△歩5▲歩5)

・35と～26として消去。

[4A] 38歩 同と 17飛 36玉 37歩 同と 16飛 35玉 36歩 同と 15飛 26玉 16飛 37玉 17飛 27と [A20]

(+40=612手。中間2図)

・39とを～38～37～36～27として消去。

中間2図 (612手。△歩3▲歩8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩				四
歩								飛	五
		歩	歩			王			六
	歩	歩	歩	歩					七
		歩							八
				歩				王	九

持駒 歩3

・ここまでが長いイントロで、ここからがメインの趣向となる。歩の連打と空王手で左辺に追い出し、歩の連打で追い戻す手順が現れる。まず、8段目を塞いでいる78圭を89に移動させて、飛の横効きを通す。

[A]×6

(+156=768手。△歩9▲歩2)

・持駒の歩を最大限に増やす。盤面の変化はなく、持駒のみ移動。

16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 65玉 15飛 74玉 75歩
85玉 74歩 96玉 97歩 同玉 98歩 同玉 99歩 88玉
89歩 同玉 18飛 97玉 98歩 96玉 97歩 85玉 86歩
74玉 75歩 65玉 15飛 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉
(+36=804手。中間3図)

中間3図 (804手。△歩2▲歩6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香	香	香	香	一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩				四
ス		歩						飛	五
	歩	香	香			王			六
歩	歩	香	香	香					七
									八
	王			ス				王	九

持駒 歩2

・78圭～89圭と移動。8段目は素通しになったが、代わりに97歩、86歩、75歩が出現した。歩稼ぎ用の2歩を除いた残り7枚をびったり使い切って36に帰る。自由な歩が減ったので、左辺に残留した3枚の歩を回収するのが当面のテーマとなる。

[A]×2 [9A] 35玉

(+62=866手。△歩3▲歩3)

・38歩、27歩のまま左辺に追う。ここでは手数短縮のため。75歩の消去にはこの時点で歩が3枚以上必要である。

15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉 65歩 75玉 64歩
同玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉 16飛 45玉
15飛 36玉 [A16]

(+36=902手。中間4図)

中間4図 (902手。△歩2▲歩6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
ス								飛	五
	歩	香	香			王			六
歩	歩	香	香	香					七
									八
	王			ス				王	九

持駒 歩2

・75歩は消去できたが、代わりに54歩が発生した。しかし54歩を消すのは大変で、当面は手が付けられない。54歩はそのままにして、先に86歩の消去に向かう。

[A]×4 [10A] 16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 65玉
15飛 74玉 75歩 84玉 85歩 同玉 86歩 同玉 74歩
同玉 75歩 64玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉
16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+158=1060手。△歩2▲歩6)

・86歩は消去できたが、代わりに75歩が発生した。次の目標の97歩を消去するために95とを86に移動する。

[A]×2 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉
65歩 75玉 64歩 同玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩
56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+98=1158手。△歩2▲歩7)

・前と同手順で75歩を消去する。次はいよいよ97歩の回収にかかる。ところがこれが難しい。現状自由な歩は9枚あり、A手順終了時に後手の持駒として最低2枚、右辺に戻って歩稼ぎ手順に入るために先手の持駒として最低2枚必要だから、 $9-2 \times 2 = 5$ の計算より、折り返しに使用できる歩は5枚以下である。ところが、97歩を消去して折り返すのには、どう頑張っても6枚の歩が必要なのだ！

解決のカギは、右辺歩稼ぎのメカ (38歩、27歩) を盤上に残したまま左辺に追う。これにより、△歩5▲歩2でなく、△歩6▲歩の状態でも左辺に追うことができるのだ。今までも手数短縮のために利用してきたこの手順が、ここでは本質的に必要になっている。

その代償として、歩稼ぎ終了時点の持駒が通常だと2枚から3枚のように1枚増えるのに比べて、2

枚から2枚と現状維持となる。例えて言えば、3枚稼ぐうちの1枚を前借りして消費してしまうみたいなことだろうか。見事なトリック。

[A]×5 [9A] 35玉

(+140=1298手。中間5図)

中間5図 (1298手。△歩6▲歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香	香	香	香	一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
						王			五
	ス	香	香						六
歩	皇	手	手	手			歩	飛	七
						歩			八
	手			ス				王	九

持駒 歩6

15飛、46玉 16飛 55玉 15飛 64玉 65歩 75玉 64歩 84玉 85歩 95玉 96歩 94玉 95歩 同玉 84歩 同玉 85歩 74玉 75歩 64玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+48=1346手。△歩2▲歩6)

・5段目に残る歩が2枚以上になると、15飛型の空王手が出来なくなり追いつくことができなくなる。かと言って手数も伸ばしたくないので、細心の注意を払いながら左辺に追う。

ようやく97歩を消去したが、代わりに85歩、75歩が発生した。まるでシジフォスの石積みのように。徒労感に襲われるが、これが長手数の推進力。

次は当然これらを消去するのだが、今までと同様に75歩から消去するかと思いきや、85歩の方から消去する。惰性でぼんやりと75歩から消すと2手伸びる。全く油断がならない。

[A]×4 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉 65歩 75玉 64歩 74玉 75歩 85玉 74歩 同玉 75歩 64玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+156=1502手。△歩2▲歩7)

・85歩を消去。75歩が残ったので、次は75を消去する。これは過去手順の繰り返し。

[A]×2 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉 65歩 75玉 64歩 同玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩

56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+98=1600手。中間6図)

中間6図 (1600手。△歩2▲歩8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
								飛	五
	ス	香	香			王			六
	皇	手	手	手					七
									八
	手			ス				王	九

持駒 歩2

・75～85の順に消去しようとする、なぜ2手伸びるのか。

75歩の消去には、98手かかる。これはどちらから消去しても変わらない。75歩がない状態で、85歩を消去するのは後述する1890手から2048手までの手順と同じで、158手かかってしまうのだ。上の手順では156+98、逆順にすると98+158と言う何だか騙されたようなことになる。秘密を解き明かすために玉の軌跡を調べてみよう。27歩以下、

75歩なし：36、45、56、65、74、85、74、64、75、64、54、65、56、45、36

75歩あり：35、46、55、64、75、74、85、74、64、54、65、56、45、36

玉の軌跡には色々非限定があるが、手数は変わらないので無視できる。75歩なしの場合は、85に到達するのは早いのだが75に発生した歩を消去する必要がある、ここで2手伸びてしまう仕掛けなのだ。

・75歩を回収して自由な歩が10枚となった。次の目標は？

それには詰みに至るイメージが必要になる。それは、67桂の入手！そのために59歩を打ちたい。そのためには、54の消去。これが本局最大の難関。

担当者一作意は「87香～88～99。86と消去。77圭～79。54歩消去」で54歩を消去する。ところが佐々木氏が巧妙な54歩消去を見つけた。

・54歩消去のために、86とを移動させて86歩と打てる空間を作る。それを実現するために再び延々と左右を往復することになるのだ。

[A]×6

(+156=1756手。△歩8▲歩2)

・持駒の歩を最大限に増やす。盤面の変化はなく、持駒のみ移動。

16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 65玉 15飛 74玉 75歩
85玉 74歩 96玉！ 97歩 同玉 98歩 同玉 18飛
58歩成 99歩 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 96歩
84玉 85歩 74玉 75歩 65玉 15飛 56玉 16飛 45玉
15飛 36玉

(+36=1792手。中間7図)

中間7図 (1792手。△歩2▲歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		銀	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
	歩	歩						飛	五
歩	入	歩	歩			王			六
	皇	手	手						七
				入					八
	手			入				王	九

持駒 歩2

57歩を58歩成と移動させる。代わりに96歩、85歩、75歩の3枚が残留し、持駒は歩2枚を残してぴったり使い切る。よく出来ているなあ。

・なお、ここでは8段目を開けておかなければならないので、38歩、27歩型で左辺に追い出すわけにはいかない。また、15飛は18飛と移動してしまうので、5段目に歩は残さずにさっさと9筋に追うのも注意点。

・続いて96、85、75の3枚の歩を回収することになる。先ほどのように85歩から消したいところだが、おっと歩の数が足りず直接85には手が届かないのだ。仕方なく75歩、85歩の順番で消すことになる。

[A]×2 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉
65歩 75玉 64歩 同玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩
56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+98=1890手。△歩2▲歩6)

・75歩消去。

[A]×4 [10A] 16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 65玉
15飛 74玉 75歩 85玉 74歩 同玉 75歩 64玉 65歩
75玉 64歩 同玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉
16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+158=2048手。△歩2▲歩7)

・85歩、75歩を一緒に消去できる！ここでは75歩がない状態で85歩を消去に行っているの、一度発生した75歩を戻るついでに消去できる。続いて96歩にアタックする。

[A]×5 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉
65歩 75玉 64歩 84玉 85歩 94玉 95歩 同玉 84歩
同玉 85歩 74玉 75歩 64玉 65歩 54玉 55歩 65玉
54歩 56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+186=2234手。△歩2▲歩6)

・96歩消去。85歩、75歩が残留。

[A]×4 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉
65歩 75玉 64歩 74玉 75歩 85玉 74歩 同玉 75歩
64玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉 16飛 45玉
15飛 36玉 [A16]

(+156=2390手。△歩2▲歩7)

・85歩消去。75歩が残留。

[A]×2 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉
65歩 75玉 64歩 同玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩
56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+98=2488手。中間8図)

中間8図 (2488手。△歩2▲歩8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		銀	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
								飛	五
	入	歩	歩			王			六
	皇	手	手						七
				入					八
	手			入				王	九

持駒 歩2

・75歩消去。中間6図と見比べると、57歩～58との違いだけ。この間888手掛かっているのだから、その物凄さが分かる。ここから86との移動にかかる。

[A] ×6 [9A] 35玉

(+166=2654手。△歩7▲歩1)

・最大限歩を増やして、38歩、27歩型のまま左辺に追い出す。

15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉 65歩 75玉 64歩
84玉 85歩 95玉 96歩 同と！ 84歩 同玉 85歩
74玉 75歩 64玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉
16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+46=2700手。△歩2▲歩6)

・86とを96に移動した。代償に85歩、75歩が残留。
この2枚の歩の回収は、いつかきた道。

[A]×4 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉
65歩 75玉 64歩 74玉 75歩 85玉 74歩 同玉 75歩
64玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩 56玉 16飛 45玉
15飛 36玉 [A16]

(+156=2856手。△歩2▲歩7)

・85歩消去。75歩が残留。

[A]×2 [9A] 35玉 15飛 46玉 16飛 55玉 15飛 64玉
65歩 75玉 64歩 同玉 65歩 54玉 55歩 65玉 54歩
56玉 16飛 45玉 15飛 36玉 [A16]

(+98=2954手。中間9図)

中間9図 (2954手。△歩2▲歩8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	金	銀	桂	歩				一
						銀		飛	二
金	金	銀	銀	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
								飛	五
ス		歩	歩			王			六
	歩	歩	桂						七
				ス					八
	歩			ス				王	九

持駒 歩2

・中間8図から466手かけて、86とを96に移動した。
ここから持駒の歩を最大限増やして、54歩の消去
に取り掛かる。

[A]×6

(+156=3110手。中間10図)

中間10図 (3110手。△歩8▲歩2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	金	銀	桂	歩				一
						銀		飛	二
金	金	銀	銀	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
								飛	五
ス		歩	歩			王			六
	歩	歩	桂						七
				ス					八
	歩			ス				王	九

持駒 歩8

16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 65玉 15飛 74玉 75歩
85玉 74歩 25歩合！！ 86歩！ 74玉 75歩 64玉
65歩 54玉 55歩 同玉 56歩 同玉 16飛 47玉 17飛
36玉 16飛 27玉 17飛 26玉 [A18]

(+48=3158手。中間11図)

中間11図 (3158手。△歩2▲歩6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	金	銀	桂	歩				一
						銀		飛	二
金	金	銀	銀	香	金	香	香		三
					歩				四
		歩	歩					飛	五
ス	歩	歩	歩			王			六
	歩	歩	桂						七
				ス					八
	歩			ス				王	九

持駒 歩2

・25歩合と86歩打が関連した構想で、佐々木光正氏
の素晴らしい着想。これにより54歩がついに消え
た。代わりに左辺に86歩、75歩、65歩が残留した。
65歩は飛の上下運動で簡単に回収できる。86歩と
75歩は、もうそんなの関係無い。局面はだいぶ大詰
めに近づいた。

[A]×3 16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 65玉 15飛
56玉 16飛 57玉 17飛 68玉！ 69歩 同と上 18飛
57玉 58歩 同と 17飛 56玉 57歩 同と 16飛 45玉
15飛 36玉

(+104=3262手。中間12図)

中間12図（3262手。△歩2▲歩7）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩				四
		歩						飛	五
ス	歩	香	香			王			六
	馬	香	香	ス					七
									八
	王		ス					王	九

持駒 歩2

・65歩を消去すると69歩が打てるようになり、58とを69に移動する。5筋が空いたので、59とを57まで釣り上げる。

[A]×5

(+130=3392手。△歩7▲歩2)

・歩を最大限増やして、いよいよ収束。

16飛 37玉 17飛 38玉 39歩 48玉 18飛 47玉 17飛 58玉 59歩 同桂成 18飛 67玉！ 68歩 同と上 17飛 56玉 16飛 57玉 58歩 同圭 17飛 56玉 57歩 同圭 16飛 47玉 17飛 58玉 18飛 48圭 59歩 57玉 17飛 47圭 58歩 同玉 18飛 38圭 59歩 57玉 17飛 46玉 16飛 37玉 38歩 27玉 17飛 26玉 16飛 25玉 15飛 24玉 13飛成 25玉 15龍 34玉 26桂迄3451手詰。

詰上り図（3451手）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩	王			四
		歩						龍	五
ス	歩	香	香				桂		六
	馬	香							七
			ス			歩			八
	王		ス	歩				王	九

持駒 なし

担当者—7月から11月にかけて作者はかなり熱中

して本局と取り組んだ、44歩の配置の発見（7月）、次に歩の回収を図ることに気づく（これが長手数数の推進力になった）。以後工夫を加えて…。本局には熱が感じられますね。作意は下辺の桂香歩を消すはずだった。作者としては残念なところと思う。

「…54歩はなかなか消えない。…（中略）…ここで54歩が消えればよいのだが…（中略）…待望の54歩が消える …。」浦壁氏の答案より。

花田—5筋の歩の消去が大難関でした。どうしても一歩不足であきらめかけた。作者は大天才。

・正解者は、浦壁和彦、佐々木光正、西田尚史、花田尚一、森茂

・#98の改作（発展形）であることはすぐに分かります。6、7、8筋の玉方の一団の駒が作者の新工夫。#98のように飛の上下動だけでは玉の横送りができないのです。歩の空き王手で左辺に送り、歩の連打で右辺に戻る。その際大量の歩が必要になるため、右辺で歩稼ぎ手順を何度も繰り返すことになります。それが長手数数の理由です。

全体の構成は、

1. ～中間2図、612手。序盤、と金群の消去。
2. ～中間3図、804手。78圭～89圭とし、8段目を素通しにする。
3. ～中間5図、1298手。玉を9筋に追うため、95とを86に移動。
4. ～中間6図、1600手。左辺の歩を回収完了。
5. ～中間7図、1792手。67桂を移動するための準備として、57歩を58歩成と移動する。
6. ～中間8図、2488手。左辺の歩を回収完了
7. ～中間9図、2954手。86歩が打てるように、86とを移動し空間を空ける。
8. ～中間11図、3158手。59歩が打てるように54歩を消去し、二歩禁を解消する。
9. ～中間12図、3262手。58と、59とを移動して、59歩が打てるように空間を空ける。
10. ～詰上り図、3451手。59歩以下67桂を入手して収束。

解図上では大きなポイントが二つあります。

- 9筋に追うためには、A手順を完了しないで、途中の38歩、27歩型（中間5図）のまま左辺に追い出すのが必須なこと。歩稼ぎのサイクルを完了してしまうと、後手の持駒が歩2となってしまうので、先手の持駒が歩6にならない。
- 54歩消去の複雑さは特筆すべきでしょう。86歩を打つためにと金を移動し、25歩合とのコンビ

ネーションで、54歩を消去する構成は見事なものです。

手数の短縮について

ここで紹介した3451手解は、本当に練り上げられた素晴らしいものでした。細かい工夫がいたるところにあり、驚かされます。特に75歩と85歩の消去の順番が逆転するところなど、局面のちょっとした差異を見逃さない注意深さは驚異的ときえ言える。

非限定について

問題の性質上非限定は、玉の逃げ方など沢山あります。また左辺に追い出すタイミングについては、歩の枚数に余裕がある場合は、往復した後歩稼ぎをするか、事前に歩稼ぎをするかは選べる場合があります。上の解答では基本的に往復をするための最低限の枚数を稼いだタイミングで往復をするようにしています。

《早詰3425手解の紹介》

中間10図から、驚きの手順が展開される。

再掲中間10図 (3110手。△歩8▲歩2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	銀	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
				歩	歩				四
								飛	五
ス		歩	歩			王			六
	歩	歩	歩						七
				ス					八
	王			ス				王	九

持駒 歩8

16飛 45玉 15飛 56玉 16飛 65玉 15飛 74玉 75歩
85玉 74歩 35歩！ 86歩 74玉 75歩 64玉 65歩
54玉 55歩 同玉 56歩 同玉 16飛 47玉 17飛 36玉

中間xi図 (3136手。△歩2▲歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	歩				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩				四
		歩	歩			歩			五
ス	歩	歩	歩			王			六
	歩	歩	歩					飛	七
				ス					八
	王			ス				王	九

持駒 歩2

・35歩とは何という手！その意図は何。

37歩 47玉 36歩 38玉 18飛 27玉 28歩！ 26玉
16飛 25玉 15飛 34玉 35歩 24玉 14飛 35玉 15飛
36玉 (3154手。△歩2▲歩6)

・このタイミングで28歩を打っておくのが、抜け目がない。行き掛けの駄賃的な2手早い手順。

16飛 37玉 [A22] 「A」×3

16飛 27玉 17飛 38玉 39歩！ 48玉 18飛 47玉
17飛 56玉 57歩 同と 16飛 65玉 15飛 56玉 16飛
55玉 56歩 同と 15飛 46玉 16飛 57玉 17飛 68玉
69歩 同と 18飛 57玉 17飛 58玉 18飛 38歩

・何というか、やりたい放題な手順。39歩を打っておきここで1歩を稼ごうというのもすごいが、57とを釣り上げてから59とを69に移動する。これを一連の手の流れの中でやってのける。

中間xii図 (3290手。△歩2▲歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	歩				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩				四
		歩	歩						五
ス	歩	歩	歩	ス					六
	歩	歩	歩						七
				王		歩		飛	八
	王		ス			歩		王	九

持駒 歩2

59歩 57玉 17飛 47と 58歩 56玉 16飛 46と 57歩
55玉 15飛 45と 56歩 同玉 16飛 47玉 17飛 36玉
・47と～46～45

中間xiii図 (3308手。△歩▲歩6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩				四
		歩	歩		ス				五
ス	歩	歩	歩			王			六
	歩	歩	歩					飛	七
						歩			八
	歩		ス		歩		王		九

持駒 歩

「22A 35歩 同と 14飛 25玉 15飛 36玉」 「A (ただし26歩の代わりに26と)」 「22A」

・22AはA手順の前半の22手を意味する。いよいよ収束。

中間ivx図 (3384手。△歩6▲歩2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	馬	香	香	香	香				一
						銀		飛	二
香	香	香	香	香	金	香	香		三
					歩	王			四
		歩	歩				歩	飛	五
ス	歩	歩	歩			歩			六
	歩	歩	歩						七
									八
	歩		ス					王	九

持駒 歩6

35歩 同玉 24歩 同玉 13飛成 25玉 14龍 36玉
16龍 47玉 17龍 58玉 59歩 同桂成 18龍 57玉
58歩 同圭 17龍 56玉 57歩 同圭 16龍 55玉 56歩
同圭 15龍 46玉 16龍 57玉 58歩 67玉 17龍 57圭
68歩 56玉 57歩 45玉 15龍 34玉 46桂迄3425手詰。
・59歩と打ってから収束するまでの早いこと。

神無七郎一手順を見ると佐々木氏の発見した25歩
の代わりに35歩として6手短縮する順から始ま

って、58とを26まで呼び出して消去する展開など、ちょっと人間には思いつきそうにない驚異的な手順で、改めてばか詰の底知れぬ奥の深さを感じさせられます。

この早詰順は駒余りを生じないので、手数を3425手に変更すれば、とりあえず完全作と言って差し支えないと思います。ただ、条件付の部分検討の繰返しによって得られた手順なので、想定外の早詰がある可能性は否定できません。

・ということで、本作は3425手詰として生き残ることになった。

219号【744】p.34～p.36に若島正氏がマキシ詰のルールと作品例を発表しています。

若島正一近ごろばか詰や自殺詰が盛んになり、この詰バラもパズルの総合雑誌的な色彩が濃くなってきたようです。... (中略) ... 掛け声だけでは面白くないので、ここで新しい条件詰を一つ提案しておきましょう。題して「マキシ詰」これは門脇芳雄氏がチェスの幻想問題についてその紹介を書かれた時に出ていた「最大距離問題」の将棋への翻案です。

・フェアリーチェスでは「マキシママー」と言います。このルールはかの有名なT.R.Dawsonが1913年に発明したものです。

マキシママーは今ではフェアリーと言われなほどポピュラーになったそうですが、「マキシ詰」の方はあまり人気があるとは言えませんね。何が原因なのでしょう。

まずルールの説明をします。

1. 詰め方は王手をかけること。
2. 玉方は応手の中で最も長いて (後述) を指さねばならない。ただしそれが数種類ある場合 (駒の不成も含む) には最長手数になる応手を選ぶ。
3. 他は詰将棋のルールと同じ。

一駒が動く長さの定義一

将棋盤のマス目を一辺の長さが1の正方形とみなし、元いたマス目の中途移動した行き先のマス目の中心との距離をその移動の長さで決めます。

例えば、11にいる龍が12に行くのは長さ1の手、19に行くのは長さ8、22に動くのはルート2 (約1.4) となります。桂馬の動きは常にルート5 (約2.2) です。 (成桂は別) 合駒を打つのは長さ1の手と定めます。

上昇巨人一マキシ詰について質問。

ルール説明を見ると、マス目は正方形とし動いた距離はマス目の中心を基準として測る、とのこと斜めの8マスは縦の9マスより長いとなっていますね。これでは縦の8マスと斜めの7マス、縦の7マスと斜めの6マス、あたりが不明確です。今までのルールにケチをつける気はありませんが、縦横と斜めのマス目が同じ時は斜めが長く、違う時はマス目の多い方が長いという風に明確にしていきたい。また打った駒自体は動いていないのですから、当然合駒は歩の移動より下に扱うべきです。... (後略)

・上は244号【76-5】のサロンより引用しました。マキシ詰のルールは分かりにくいらしい。よく読んでください。上文については前半は明らかな誤解です。後半については後ほど述べます。

#114 マキシ詰 若島正 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					飛	と	科		一
								王	二
							科		三
								科	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂 歩

#115 マキシ詰 若島正 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
							飛		二
				飛				科	三
			飛		科	歩	角		四
									五
								桂	六
									七
									八
									九

持駒 銀

#116 マキシ詰 若島正 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
						銀		科	七
					角			銀	八
			飛					王	九

持駒 飛

#117 マキシ詰 若島正 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						科	王	科	一
						科		科	二
									三
									四
									五
				銀					六
									七
									八
									九

持駒 桂2 香2

#118 マキシ詰 若島正 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								科	二
					王			王	三
					銀				四
				銀	銀				五
						歩			六
									七
									八
			飛		馬				九

持駒 香2

#119 マキシ詰 若島正 219号【744】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						香	香	香	一
					馬	銀	香		二
				香		香		香	三
				馬		王			四
							ス		五
						銀			六
									七
							香		八
									九

持駒 なし

・初めの4題が解説付きの例題で、後の2題が懸賞でした。実はもう1題見事な趣向詰が懸賞になっているのですが、238号【75-11】に解つきで再掲されているのでお預けとします。解説は作者のものを適宜引用させていただきます。

解：

#114

13歩 同桂 24桂 同歩 42飛成 23玉 32龍迄7手詰。
作者—13歩に対しては同桂がルート5の手で一番長く、この一手。24桂に対して11玉及び22玉とする変化(つまり同歩と同じ長さ1の手)があるが、いずれも作意より早く詰む。42飛成に対しては22または32に合駒を打つ手と11玉と逃げる手があるが、長さ1の手だから23玉とするルート2の手がこの一手。つまりこの「マキシ詰」では玉が斜めに逃げたがる性質を持っているわけです。
・初手より24桂とすると、13玉 12桂成 24玉 44飛成 15玉 14龍以下龍一枚で追い回すことができる(無限軌道?)しかし詰まない。

*余詰：24桂 13玉 12桂成 24玉 44飛成 15玉 14龍 26玉 16龍 37玉 27龍 48玉 28龍 59玉 39龍 68玉 69龍 77玉 78龍 66玉 67龍 55玉 56龍 44玉 45龍 33玉 34龍 42玉 43龍 51玉 54龍 62玉 63龍 71玉 74龍 62玉 63歩 53玉 54龍 42玉 43歩 33玉 32と 同玉 34龍 33桂 同龍 41玉 42龍迄49手。(神無七郎氏指摘)
龍一枚で追い落とすが持歩が2枚あるので、変化あるも捕まっている。

#115

51飛成 41角引 12銀 同玉 23歩成 同角 24桂迄7手詰。
作者—玉方34歩はこれがないと3手目より、同龍

同飛 12銀 同玉 56角以下余詰が生じます。このように玉方の飛角桂香など足が長いので、すぐ詰方に寝返ってしまうためこの筋には注意が必要です。

#116

28銀 イ同金 59飛 39金入 同飛 同飛成 37角 同龍 29金迄9手詰。
変化：イ同玉 23飛 19玉 37角 28金入 同飛成迄

#117

24香 同馬 33桂 同馬 23香 22馬 33桂迄7手詰。
・これは巢籠もりと言わないのかな?色々紛れのある図です。例えば25香 24馬 23香など。
*余詰：33桂 22玉 25香 24馬 同香 同桂 21桂成 33玉 22角 42玉 31角成 33玉 45桂 44玉 22馬 35玉 37香 36桂 13馬 26玉 27金 15玉 16歩 25玉 26金 34玉 35金 43玉 53桂成 32玉 42圭 21玉 31馬迄33手。(神無七郎氏指摘)
これも変化がたくさんあるが、捕まっている。

#118

58馬 47銀 19香 同飛生 16香 同飛生 47馬 36飛寄 25銀 15玉 16銀 同飛 25馬迄13手詰。
・実は小生この作意順が見つからず、作者にSOS。ところが6年も昔のことなので、作者自身も忘れてしまったらしい。それをなんとか思い出してもらいました。スカッとした手順。ところが残念なことに余詰。
余詰：初手より 19香 15桂合 同香 同玉 19香 26玉 16馬 37玉 49桂以下。69飛を59飛にするところの順は消えるが...。
*69飛を59飛とすると次の余詰：15香 同玉 18香 26玉 16馬 37玉 27馬 48玉 38馬 57玉 56馬 68玉 46馬 57飛 86角 79玉 57馬 88玉 87飛 99玉 88銀 89玉 79馬 98玉 97飛迄。(神無七郎氏指摘)

#119

35銀 イ同と 44馬 25玉 35馬 ロ14玉 36馬 25飛 A23銀 同桂 25馬 同桂 34飛 24角 同飛 同金 15歩 同桂 32角 23飛寄 同角 同桂 12飛 13桂 同飛 同金 26桂迄27手詰。
変化：イ同玉 53馬 24玉 35馬 15玉 17飛 16と 26馬以下
ロ16玉 34馬 25飛 同馬 同桂 14飛 15角 同飛 27玉 63角以下
・イロの変化は長い(変長ではない)のでよく読んでください。
手がかりを失うような初手がマキシ流の妙手。序の変化を乗り越えれば軽快そのもので詰上りは

思わずにつこり。

ところで、15歩の手順前後があります。作者によれば当時修正をした覚えがあるそうです。

＊余詰：Aで同馬 同桂 16飛 15角 同飛 同玉 48角 37桂成 同角 24玉 23銀成 同飛 46角 33玉 34歩 42玉 64角 53飛 33歩成 同桂 53角成 同玉 63飛 44玉 64飛成 35玉 55龍 45桂 同龍 26玉 46龍 17玉 57龍 28玉 48龍 19玉 49龍 28玉 29龍 37玉 38龍 46玉 47龍 55玉 56龍 64玉 65龍 73玉 74龍 62玉 64龍 51玉 63桂 42玉 44龍 43桂 34桂 31玉 22桂成 42玉 32圭 52玉 53龍 61玉 62金迄63手。

(神無七郎氏指摘)

変化が凄まじいですが、捕まっています。

—合駒の長さについて—

この問題は219号で若島氏も書いている通り議論の余地があります。いっそ駒台の位置を決めてそこから駒を打つマス目の中心までの距離を測ったら？冗談キツイ？これはどう決めるのが、作品の質に反映するかという観点から考えるべきでしょう。大体マキシ詰と言うのはさらっとした感じの作が多いのですが、合駒の長さを1.5とか2とすると粘りのある作ができるかもしれない。

幻想詰将棋型録 7

#120 ばか詰 ハ尋無段 219号 【74-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						角			四
				桂					五
				銀		桂			六
							歩		七
				玉				飛	八
		ス				角			九

持駒 飛

#121 ばか詰 中出慶一 220号 【74-5】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								香	三
							銀		四
						ス			五
				飛			玉		六
					歩			歩	七
									八
					角	龍			九

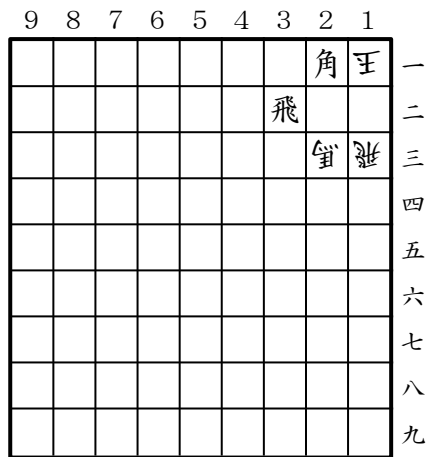
持駒 金香

#122 ばか詰 ハ尋無段 222号 【74-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						と	歩	香	一
						と		玉	二
					角	と			三
						銀		歩	四
						馬	桂	龍	五
									六
									七
									八
									九

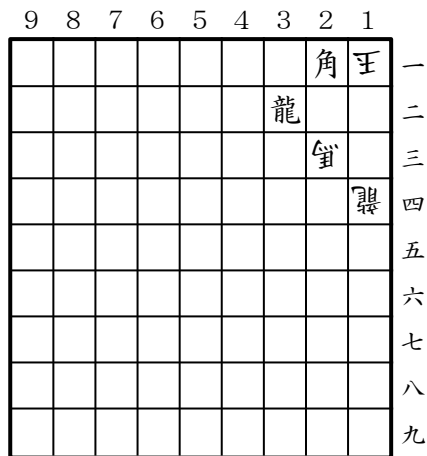
持駒 桂

#123 ばか詰 太田啓好 220号 【74-5】



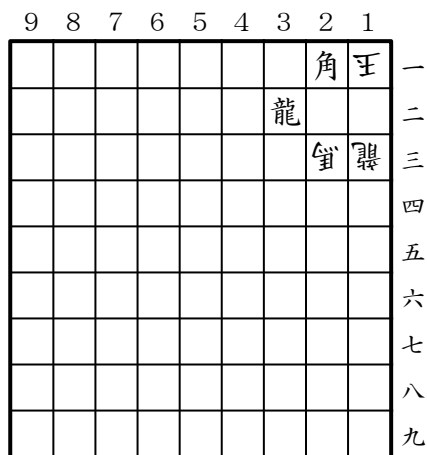
持駒 なし

#124 ばか詰 太田啓好 220号 【74-5】



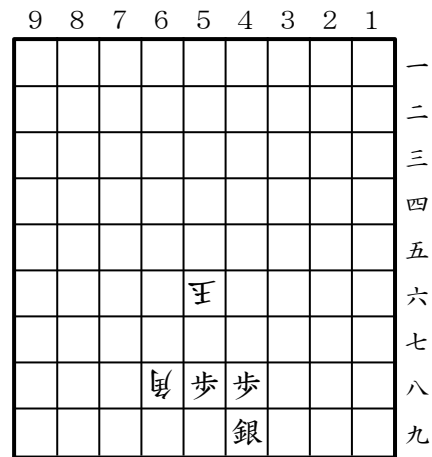
持駒 なし

#125 ばか詰 太田啓好 220号 【74-5】



持駒 なし

#126 ばか詰 中出慶一 221号 【74-6】



持駒 桂4

手数は順に、5手、7手、7手、5手、7手、7手、11手。

解：

#120

67銀 68玉 88飛 77玉 66角迄5手詰。

秋元節三ーばか詰は筋が発見できるかどうかで評価が全く違う。本局は私には恐ろしく難解。

#121

29香 28龍 同香 16玉 46飛！ 同と 26金迄7手詰。

#122

22と寄 同歩 23と 同歩 24桂 同歩 13桂成迄7手詰。

磯田征一ー参った参った。3の331手詰（後述）よりずっと時間がかかった。

・短編趣向局ですが、カムフラージュがうまい。

#123

12角成 同飛 同飛生 21玉 11飛打迄5手詰。

#124

12角成 同馬 41龍！ 31金合 同龍 21馬 22金迄7手詰。

#125

22龍 同玉 12角成！ 31玉 13馬 21玉 31飛迄7手詰。

・姉妹局中筆者はこれに大苦戦した。広い方に逃がすような12角成が見つけれ難かったのだ。

#126

57歩 46玉 47歩 A36玉 48桂 47玉 59桂 46玉

58桂 57玉 69桂迄11手詰。

担当者一四桂詰であるが一寸難解であつたらしい。

手を挙げた人もあった。

鮎川哲朗—こういう作は詰上がり想定、逆算が簡単。

*余詰：Aより同玉 59桂 36玉 48桂 46玉 58桂 57玉 69桂迄。手順前後。

「一般に超長編には手順前後はほとんど不可避免で通常のキズについてはかなりゆるやか。しかし名手森茂氏ともなるといささか違う。本作手順前後なし！二千手を越えるんですよ。」

#127 ばか詰 森茂 220号 【74-5】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇			金	一
	歩				角	銀	歩		二
	桂	金				香	歩	王	三
	ス	ス	驥	金	王		桂	逃	四
	香	ス			歩			ス	五
		歩			歩	銀			六
ス	ス	桂	金	銀			桂	歩	七
			歩		香			角	八
				ス		ス		歩	九

持駒 なし

手数は2157手。

例によって歩稼ぎ手順を先に説明する。二段機構の巧妙な手段です。

基本図A (△歩→△桂歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	ス	ス	驥	金	王	銀		逃	四
	香	ス			歩			桂	五
		歩			歩				六
ス	ス	桂	金	銀				歩	七
			歩	角	香	王			八
								歩	九

持駒 歩

A手順 (持駒：歩)

「39歩 27玉 49角 38歩 同角 36玉 47角 27玉 36角 16玉 25角 27玉 16角 36玉 25角 37玉 38歩 同玉 16角 27桂合 同角 29玉 18角 38玉 29角 49玉 38角 58玉」

A手順は28手かかり、持駒が歩から桂歩に変わる。

ただし玉と角の位置が入れ替わっているのに注意。なおA手順が完了すると後手方の持駒には歩が1枚以上残る。

A' 手順 (持駒：歩)

「A」 47角 49玉 58角 38玉

A手順に、この4手を加えた手順A' は、1サイクル32手で原形に戻り持駒が歩から桂歩に変わることになる。

基本図B (△桂→△歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	ス	ス	驥	金	王	銀		逃	四
	香	ス			歩			桂	五
		歩			歩				六
ス	ス	桂	金	銀				歩	七
			歩	角	香	王			八
								歩	九

持駒 桂

B手順 (持駒：桂)

「49角 37玉 29桂 36玉 58角 27玉 49角 38歩合 同角 36玉 47角 27玉 36角 38玉 27角 29玉 18角 38玉 29角 49玉 38角 58玉 47角 49玉 58角 38玉」

以上1サイクル26手で、原形に戻り持駒が桂から歩に変わる。なおB手順が完了すると後手方の持駒には桂が1枚残る。

そこで、「A'」+「B」をC手順とすると、58手かけて原形に戻り持駒が歩→桂歩→歩歩のように、一步増えることになる。なんと巧妙な機構ではありませんか。

解：12金 24玉 35銀 25玉 34銀 36玉 15桂 37玉 38歩 同玉 29角 49玉 38角 58玉 D「49角 69玉 58角 78玉 69角 89玉 78角 98玉」 E「87角 89玉

幻想詰将棋型録 (新装版)

98角 78玉 89角 69玉 78角 58玉 69角 49玉 58角 38玉」49角 37玉 38歩 36玉 58角 47桂合 同角 27玉 36角 38玉 47角 49玉 58角 38玉 (48手。中間1図)

中間1図 (48手。△桂▲歩2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	ス	ス	驥	金	王	銀		進	四
	香	ス			歩			桂	五
		歩			歩				六
ス		桂	金	銀				歩	七
			歩	角	香	王			八
				ス		ス		歩	九

持駒 桂

・詰将棋の感覚だと初手は12桂成と行きたいところですが、後手に桂を渡しておかなければならない(例の手筋!)ので、12金が正解。15桂の空王手で入手した歩をあっさり捨てて、左辺に追い87とを入手します。その歩を右辺で桂と交換して中間1図になります。ようやく「B」手順が使える形になりました。

この「D」手順は8手、「E」手順は12手かかる。

「B(ただし38歩合のところは38と)」 「C」 「A」 39歩 37玉 49桂 同と 38歩 同玉 「C」 (+180=228手。中間2図)
中間2図 (228手。△歩3▲桂歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	ス	ス	驥	金	王	銀		進	四
	香	ス			歩			桂	五
		歩			歩				六
ス		桂	金	銀				歩	七
			歩	角	香	王			八
								歩	九

持駒 歩3

・59と、39とを消去して舞台が出来上がりました。

「A」 「D」 (+28+8=264手。中間3図)

中間3図 (264手。△桂歩3▲歩)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	ス	ス	驥	金	王	銀		進	四
	香	ス			歩			桂	五
		歩			歩				六
ス		桂	金	銀				歩	七
王		角	歩		香				八
								歩	九

持駒 桂歩3

・左辺の折衝は基本的にこの形(98玉、78角型)でスタートします。

89角 87玉 イ99桂 96玉 78角 ロ95玉 87桂 同と 96歩 同玉 97歩 同玉 98歩 同玉 「E」 (+14+12=290手。△歩▲桂歩4)

・97とを回収。

「C」 ×3 「A」 「D」 (+58×3+28+8=500手。△桂歩4▲歩)

・持駒を桂歩4として、左辺へ。

89角 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 96歩 94玉 86桂 同と 95歩 同玉 96歩 同玉 78角 87と 97歩 同玉 98歩 同玉 「E」 (+20+12=532手。△歩▲桂歩5)

・75とを〜86〜87として回収。

「C」 ×4 「A」 「D」 (+58×4+28+8=800手。△桂歩5▲歩)

・持駒を桂歩5として、左辺へ。

89角 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 96歩 94玉 95歩 同と 86桂 同と 95歩 同玉 96歩 同玉 78角 87と 97歩 同玉 98歩 同玉 「E」 (+22+12=834手。△歩▲桂歩6)

・84とを〜95〜86〜87として回収。

「C」 ×5 「A」 「D」 (+58×5+28+8=1160手。△桂歩6▲歩)

・持駒を桂歩6として、左辺へ。

89角 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 96歩 94玉 95歩

93玉 94歩 92玉 84桂 同と 93歩 同玉 94歩 同玉
95歩 同玉 96歩 同玉 ハ97歩！ 87玉 98角 78玉
89角 69玉 78角 58玉 69角 49玉 58角 38玉
(+34=1194手。△歩▲桂歩5)
・74とを84に移動。97歩が残留した。

「C」×4 「A」 「D」 (+58×4+28+8=1462手。△桂歩5▲歩)
・持駒を桂歩5として、左辺へ。

89角 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 96歩 94玉 95歩
同と 86桂 同と 95歩 同玉 96歩 同玉 78角
ニ97玉！ 98歩 同玉 ホ「E」 (+20+12=1494手。△歩▲桂歩6)
・84とを～95～86と移動するが、ここでは回収しない！

「C」×5 「A」 「D」 (+58×5+28+8=1820手。△桂歩6▲歩)
・持駒を桂歩6として、左辺へ。

89角 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 96歩 94玉 95歩
93玉 94歩 92玉 84桂 同龍 93歩 同玉 94歩 同玉
95歩 同玉 96歩 同玉 97歩 87玉 98角 78玉 89角
69玉 78角 58玉 69角 49玉 58角 38玉 (+34=1854手。中間4図)
・64龍を84に移動。97歩、86とが残留している。

中間4図 (1854手。△歩▲桂歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	龍			金	王	銀		龍	四
	香				歩			桂	五
	歩				歩				六
歩		桂	金	銀				歩	七
			歩	角	香	王			八
								歩	九

持駒 歩

「C」×4 「A」 「D」 (+58×4+28+8=2122手。△桂歩5▲歩)
・持駒を桂歩5として、左辺へ。

89角 97玉 98歩 96玉 78角 87と 97歩 95玉 96歩
94玉 95歩 同龍 86桂 同龍 95歩 同玉 96歩 同玉

97歩 同玉 98歩 同玉 87角 89玉 78角 98玉 89角
97玉 98歩 96玉 78角 87龍 同角 95玉 96飛迄
(+35=2157手。詰上り図)

詰上り図 (2157手。△なし▲桂歩7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
				金	王	銀		龍	四
王	香				歩			桂	五
飛		歩			歩				六
	角	桂	金	銀				歩	七
歩			歩		香				八
								歩	九

持駒 なし

・86とにいつ手を付けるのかハラハラしますが、84龍を回収する直前のタイミングで、ついでのように回収します。そして飛車を入手した時が後手玉の命運の尽きる時。急転直下の詰みに至る。

イ：79桂でもよい。本局には手順前後がないのですが、着手非限定の方もイとホの2箇所のみ。むしろこの方が驚きに値するかもしれません。

ロ：ここで87と97歩以下、または95玉 87桂 96玉以下の手順を踏んだ解答者あり。いずれも手数が伸びてしまう。

ハ：好手。解答者の答えは78角 97玉 98歩 同玉以下としているが4手長。その4手長の順では右辺で桂歩6を稼げるので、「歩を1枚稼ぐのを後回しにしてよいので、手順前後が成立。」との誤解の評が出ました。

ニ：87と 97歩 同玉 98歩 同玉 87角以下のように指すと後に64龍が移動した時に42角が97に効いてアウト。1名がこれを見落として転倒。

ホ：E手順の頭4手の87角 89玉 98角 78玉のところを、89角 87玉 98角 78玉もあり。

担当者一右辺で最大に持駒を増やして左辺に戻る。その持駒の増加分が左辺での消費分と常に一致するようになっている。序の部分、持駒の回収手順、左辺での折衝のいずれも難解味があり、作者の特徴である腕力と精密な頭脳が強く感じられる。見事な完成品。

西田尚史一実に巧みな作。鮎川、森の両氏のおかげでこのところ実に楽しめます。田中輝和氏の煙

が出てきた時や黒川氏の小駒煙に勝るとも劣らぬ偉業と思います。

・付け加えることはあまりありません。本局は第1回の前衛賞大賞作です。手数長さから言えば史上8位(当時は2位)になっています。原理が非常に明快なので、中間図がなくとも理解しやすいと思います。

・と金はがしの目的は、64龍の入手にあるわけだからその意味では、75とははがす必要はない。では、75との回収を省略して84との回収にショートカットできるかということ、そうはいかない。桂歩4の持駒では歩の枚数が不足して、84との回収ができないのだ。つまり、75とのはがしは持駒の歩の枚数の不足を解消するためということになる。

※その後神無七郎氏の研究により、2133手の早詰が発見された。

再掲中間4図 (1854手。△歩▲桂歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	龍			金	王	銀		龍	四
	香				歩			桂	五
	ス	歩			歩				六
歩		桂	金	銀				歩	七
			歩	角	香	王			八
								歩	九

持駒 歩

収束に入るためには持駒桂歩5とする必要がある。これが大前提。そのため今までの流れでは、歩を4枚増やしてから歩→桂歩とする必要があり、「C」×4+「A」とすれば持駒が歩→歩5→桂歩5となるので、合計58×4+28=260手かかる、ように見える。ところが...

「C」手順とはそもそも何だったのか。C=A+(47角 49玉 58角 38玉)+B

「A」は歩→桂歩のサイクルで、「B」は桂→歩のサイクル。サイクルというだけに繰り返される事が前提だから、原形に復帰しなければならない。ところが、収束に向かう時は戻って来なくても良い片道なので、原形復帰は義務ではないのだ。

「C」×3として、4回目のサイクルを、C=A+(47角 49玉 58角 38玉)+Bのように分解した「B」

の手前の局面が次図(+58×3+28+4=2060手。△桂歩4▲歩2)。

本手順ではここから「B」手順で桂→歩の変換をするのだが...

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	龍			金	王	銀		龍	四
	香				歩			桂	五
	ス	歩			歩				六
歩		桂	金	銀				歩	七
			歩	角	香	王			八
								歩	九

持駒 桂歩4

39歩 27玉 49角 38歩 同角 36玉 47角 27玉 36角 16玉 25角 27玉 16角 36玉 25角 37玉 38歩 同玉にて次図(+18=2078手。△桂歩4▲歩2)

・「B」手順ではなく、「A」手順の前半18手目までの手順だが...

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	龍			金	王	銀		龍	四
	香				歩		角	桂	五
	ス	歩			歩				六
歩		桂	金	銀				歩	七
			歩		香	王			八
								歩	九

持駒 桂歩4

39歩！ 49玉 16角 58玉 25角 36歩 同角 49玉 27角 38歩 同角 58玉にて次図(+12=2090手。△桂歩5▲なし)

39歩と一歩消費する代わりに3筋で2歩獲得できる！持駒が桂歩5となれば収束に入れる。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	歩				皇				一
	歩				角	銀	歩	金	二
	桂	金				香	歩		三
	龍			金	王	銀		龍	四
	香				歩			桂	五
	ス	歩			歩				六
歩		桂	金	銀				歩	七
			歩	王	香	角			八
						歩		歩	九

持駒 桂歩5

ここから先の収束手順は同じなので、総手数は
 $2090+43=2133$ 手となる。

神無七郎一作意手順と異なるのは2079手目の39歩打です。ここはもう右辺に戻る事がないので、39歩が残留しても構わない。従って、39歩と1歩投資し、後で2歩を入手することによって短手数で1歩を稼ぐことができるのです。

これ以外には特に問題点はなく、この早詰解を
 作意に据えれば、充分完全作で通ると思います。

220号【74-5】を最後に担当の花沢正純氏が退任
 されました。190号以来1号も欠かさず31回のおつ
 とめでした。

ばか詰をはじめとする変則詰将棋をここまで育
 てたのは作家諸氏（長編作家ばかりでなく短編作
 家の意義も大きい）、解答者（二人三脚ですね）の
 努力はもちろんのこと、担当者に負うところが大
 であったと思います。熱意と確かな鑑賞眼とユー
 モアあふれる名解説。

このカタログもここまでを第1期として一区切
 りつけることにします。

幻想詰将棋型録 8

第4章

「ばか詰教室」から「フェアリー詰将棋研究室」へ

花沢名教諭の後を継いで私が本教室を担当する
 ことになりました。「物好きな」と言われた方もあ
 りますが、私は本教室が大好きで、張り切って就任
 した次第です。...（後略）

ということで221号【74-6】から門脇芳桂氏が本
 教室を担当することになりました。なお223号【74-
 8】より名称が「フェアリー詰将棋研究室」と改称
 されています。

222号に次の文章がある。

ばか詰とは詰将棋に新しいルールを付与したユ
 ーモアと美と新しい可能性を表現する芸術的パズ
 ルである。

ばか詰には、駒数が少なく短手数探しの「ユーモ
 ア問題」、駒数が多く手数の短い「妙手探し問題」、
 中手数の「難解問題」、長手数の「趣向的パズル問
 題」、超長手数の「記録問題」など色々の分野が開
 拓されました。後の方が優れて見えることは事実
 ですが、私は何れも重要な分野と思います。...（後
 略）

妥当な分類です。ここで筆者の考えですが、超短
 編は5手詰めが主流と思う。これは発表作をみれば
 わかる。作図の立場からみると、派手な妙手を7手
 に織り込むのは余詰を防ぐのが難しいのです。5手
 詰といってもばか詰では双方の手がめいっぱい働
 くので表現能力は詰将棋の7手詰に匹敵します。

さて、この222号で前衛賞が設定されました。魅
 力的な名称ですね。

#128 ばか詰 79手詰
加藤徹 221号【74-6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王		王						王	一
		香		銀	銀	銀	銀		二
					龍	龍	角	角	三
馬	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	入	四
									五
						馬			六
									七
									八
									九

持駒 歩11

担当者—今月から九手詰以上の作品には、ヒントとして詰手数を明記します。「○手詰で詰むから詰め方を発見せよ。」という訳。加藤氏は芸術的ばか詰を作るために生まれてきたような作家(失礼)。本局は楽しい趣向詰(79手詰)。

解:

#128

12歩 21玉 11歩成 同銀 22歩 31玉 21歩成 同銀 32歩 41玉 31歩成 同銀 42歩 51玉 41歩成 同銀 52歩 同玉 53歩 42玉 52歩成 同龍 43歩 32玉 42歩成 同龍 33歩 22玉 32歩成 同角 23歩 12玉 22歩成 同角 13歩 同玉 14歩 23玉 13歩成 33玉 23と 43玉 33と 53玉 43と 63玉 53と 73玉 63と 83玉 73と 92玉 82と 93玉 92と 83玉 93と 73玉 83と 63玉 73と 53玉 63と 43玉 53と 33玉 43と 23玉 33と 12玉 22と 13玉 23と 同と 35角 24金合 同角 14玉 15金迄79手詰。

担当者—加藤氏の一連の趣向作の一つ。これではいかにばか詰でも詰むかしらと思うような形だが、きれいに詰むのである。ばか詰の面白さ！イのところで、同銀直 23角 21玉 32角成 12玉 22馬 同銀 21角 11玉 12銀迄81手とやった人あり。まことに惜しい。解答20名、正解15名。

浦壁和彦—収束が気がきいている。趣向も回数が多く楽しめた。

西村恒雄—ばか詰ははじめての解答。詰手数が分かっているれば考えやすいと思います。初めて考えるためか、12歩 21玉 11歩成 同銀の順がスッと出てこない。玉の逃げ方を見ると本当に面白い。

・リズムカルで気持ちのよい繰り返し趣向です。手

順は22とまでは絶対なので、実質8手詰ですが23と同等が見え難くこれが仲々手強かったりして...。36香は余詰防止です。

#129 ばか詰 331手詰

加藤徹 222号【74-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	角								一
歩		歩				入	入	入	二
	王	桂	と			入			三
	桂	龍		龍		入			四
	歩								五
	香	馬	と	と		王			六
王	香	桂	香	桂	香			入	七
			歩	歩	歩	歩	歩	歩	八
金		王		王	王	王	王	王	九

持駒 なし

解:

#129

98金 96玉 97金 95玉 96金 94玉 95金 93玉 94金 82玉 83金 同玉 82金 93玉 83金 94玉 93金 95玉 94金 96玉 95金 97玉 96金 98玉 97金 99玉 98金 89玉 99金 78玉 89金 69玉 79金 同玉 88銀 78玉 79銀 89玉 78銀 98玉 89銀 97玉 ... 94銀 82玉 83銀生 93玉 82銀生 94玉 93銀成 95玉 94全 ... 79玉 78全 69玉 68全 79玉 78全 89玉 88全 79玉 89全 68玉 69歩 同全 79全 59玉 69全 同玉 (86手) ... (この要領で9段目の成銀をはがしていく。) ... 59全 同玉 (+54=140手) ... 49全 同玉 (+60=200手) ... 39全 同玉 (+62=262手) 38金 29玉 28金 39玉 38金 49玉 48金 39玉 49金 28玉 29歩 同金 39金 19玉 29金 同玉 (+16=278手) 28金 19玉 18金 29玉 28金 39玉 38金 29玉 39金 18玉 28金 同と 19歩 17玉 ... 14歩 23玉 13歩成 24玉 23と 14玉 24と 15玉 ... 28と 19玉 18と 29玉 28と 39玉 38と 49玉 48と 39玉 49と 28玉 38と 18玉 19歩 17玉 27と迄331手詰。

浦壁和彦—銀を成り返るのがユウモラスな手順。

西村恒雄—易しかった。一筋で2枚目のと金を作ろうとしたが、手数がオーバーして少し時間を食った。

・はがすのが金でなく銀(成銀だが)なのでそれを金に変えるために趣向が成立している。はがし方そのものは、#47のちょっと似ている。

担当者—今月の特別懸賞は、森茂氏の香気高き趣向作を提供。手数はわずか (!) 101手詰ですが仲々一本道でない難解性を持っているようです。... (後略)。

・この頃は長編が豊作で毎号2題ずつくらい発表されている。さて、本作は残念ながら早詰が生じていました。作意は作者らしい高級なもので、十分鑑賞に値すると思い取り上げることになります。

#130 ばか詰 101手詰
森茂 222号【74-7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							角	金	王
香	歩	歩	歩	歩	歩	歩	香		
							歩		王
						桂	歩	歩	
						歩	歩		
歩	ス								
歩	歩								歩
歩			歩	歩	歩	香			歩

持駒 なし

解:

#130

作意: 13角成 同玉 14香 24玉 16桂 35玉 36香 同玉 37歩 47玉 48歩 57玉 58歩 67玉 68歩 77玉 89桂 186玉 87歩 85玉 86歩! 84玉 85歩 同玉 97桂 76玉 77歩 66玉 67歩 56玉 57歩 46玉 47歩 37玉 38歩 28玉 29歩 17玉 18歩 16玉 (40手)

・追い出しに必要なだった16桂が、直後には邪魔駒になっている。それを消去。ここからもう一往復する。

17歩 27玉 28歩 36玉 37歩 46玉 47歩 55玉 56歩 65玉 66歩 75玉 76歩 86玉 87歩 97玉 98歩 96玉 97歩 85玉 86歩 74玉 75歩 64玉 65歩 54玉 55歩 45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 16桂 23玉 13香成 32玉 24桂 41玉 口31金 42玉 32桂成 51玉 41金 52玉 42圭 61玉 51金 62玉 52圭 71玉 61金 72玉 62圭 81玉 71金 82玉 72圭 91玉 81金 92玉 82圭迄101手詰。

・2回目の往復の目的は98圭の入手。網渡りのように突き歩で追い戻して、右上から上辺に侵入する。最後は二枚金 (金と圭だが) の追跡。

早詰: 176玉 77歩 85玉 97桂 86玉 87歩 97玉 98歩 96玉 ... のように追うと、一往復で済んでし

まう。その上結果的に一步余る。

口32桂成 51玉 41圭 52玉 51圭 42玉 41圭! 32玉 31金迄

1口をつなげると最短67手で詰む。

鮎川哲朗—今までの仇 (早詰指摘) がやっと討てました。森氏でさえ早詰を出すくらいだから長編の完成がいかに大変かわかる。

・イはいかにも危なそうなところ、口はあつと驚く見落とし、と言う感じです。上手の手から水が漏れる、とでも言うのでしょうか。

担当者—いよいよ勇姿を表しました問題の超大作。

手数はなんと5409手詰! 空恐ろしいような手数です。一体どういう構想でこんなに手数が伸びるのか。ばか詰に関心のある人も関心のない人も是非挑戦してみてください。... (後略)。

#131 ばか詰 5349手詰 (修正図)
加藤徹 244号【76-5】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									
	金	金			香			金	
歩	桂	桂	歩	歩	歩	歩	桂		
			王						
歩					歩				
				ス	ス			ス	
王	角		歩	歩		歩	歩	ス	
		ス		ス		ス	歩	ス	

持駒 歩4

・ここに挙げた図は発表図ではなく、244号【76-5】に載った修正図である。発表図で指摘された右上で詰む早詰順 (5321手詰) を消したもので、左辺まで追い戻して9筋で詰上げる、5349手詰と書かれている。

* (新装版の注) *

約40年前に幻想詰将棋型録の旧版を出して以来何度か改訂することを考えた。その度に結果的に手が出せなかったわけだが、その一つの原因は超長編ばか詰の手数の問題だった。旧版で特に問題だったのは、#113と本作#131の2題。旧版ではこの両作とも結果発表の手数が復元できず、手数が長いまま解説することになり悔しい思い出の作だった。

今回新装版を出すを決めたのは、その手数問題が解決できるあてがあった訳ではなく、主として自分の側の問題。そろそろ決着を付けておくべき時期と判断したからだった。

改訂作業の途中で神無太郎氏から、神無七郎氏のweb上の論考を紹介してもらった。長い間冬眠状態だった私にとって、驚きの結果がたくさん書かれていて驚喜した。これ以降懸案だった超長編の調査は飛躍的に進むこととなった。

#131 (本作) について、幻想詰将棋型録の旧版では作意手数とされる5349手より30手長い5379手の解を解説している。捲土重来今回は気合を入れて検討し直した。その結果は意外なものとなった。

実は、前述の神無七郎氏のweb上の論考では、本作に対して20手短い5329手詰解が紹介・解説されている。

今回新装版の作成にあたっては、本作について以下の4通りの解全てを解説することとし、現時点の完全版を目指した。

1. 修正図の作意：5349手詰。
2. 修正図の早詰：5329手詰。
3. 原図の作意：5409手詰。
4. 原図の早詰：5321手詰。

当初の結果発表では森茂氏の短縮順の紹介が主で、それも省略解説のみ。そのため、3. は原図の作意手順を推定することになるが、困難が多く断念。根性がなくてスミマセン。

前述の神無七郎氏の論考では、なんと2. の早詰が全手順バツで書かれている。このおかげで、2. は早い段階で把握できた。神無七郎氏が書かれている通り、2. の早詰順は原図の早詰順 (森茂解) を元に行っているため、2. から4. の復元もできた。問題は1. なり。

修正図が発表された244号【76-5】では手順解説はなく、次のように書かれている。

...途中手順は、各氏の解答を総合した結果、発表手順より4手短縮でき、結局9筋への追い戻しを含めて5349手となった。

ところがこの5349手の詰手順がどうしても復元できないのだ。得られたのは、4手長い5353手が精一杯。色々調べた挙句、「長く定説とされてきた5349手詰は何かの間違いで、正しくは5353手詰ではないか。」との個人的な結論を得た。作者に問い合わせたところ、

「1997年にばか詰の長手数リストを作ったとき手順を復元しようとしたのですが、そのときは5353手解しか求めることができませんでした。なので、CD-ROMで発行した「おもちゃ箱」に掲載した図では>備考:作意はもう4手短い手順不明 (^^;と書かれています。

ということで5349手詰の手順は申し訳ありませんが、私にもわかりません。」

との有益な情報が得られた。神無七郎氏からの私信では、

「また、私も検証作業をしているとき、早詰解が見つかったため、5349手詰の追求は行っていません。」

とある。

ということで5349手詰の手順は謎のまま残ることになった。今後5349手詰を発見された方は、ぜひ発表していただきたい。

本稿では、5353手詰を主として解説する。2. と4. の早詰順はそれが済んだ後解説する段取り。どちらも5353手詰とほとんど同じで、最後の最後に分岐するだけである。

例によって、歩稼ぎのメカニズムから。

基本図A

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	角									
二		金	金			香			金	
三	桂	桂	桂	香	香	香	香	桂		
四				王						
五	歩					歩				
六		歩	歩	歩	ス					
七	角				ス	ス			ス	
八	王			歩	歩		歩	歩	ス	
九					ス		ス	歩	ス	

持駒 歩

A手順 (持駒：歩)

「85歩 75香合 65歩 同玉 66歩 74玉 75歩 64玉 74歩 同玉 79香 78歩合 同香 77歩合 同香

76歩合 同香 75歩合 同香 85玉 86歩 75玉 76歩 64玉」

こちらは歩稼ぎ手順。1サイクル24手で原形に戻り、持駒が△歩から△歩歩に増える。注意すべきことが、2点ある。1点目は、79香を打つ空間が必要なこと。初形では後手方79とがあって、79の位置を塞いでいる。2点目は、79香と打った時点で、後手方の持駒に歩が4枚必要なこと。サイクル終了後後手方の持駒は香歩xで、 $x \geq 1$ 。

基本図B

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
			王						四
皇					歩				五
	歩	歩	歩	ス					六
角				ス	ス			ス	七
王			歩	歩	皇	皇	ス		八
				ス		ス	手	ス	九

持駒 歩2

B手順 (持駒：歩2)

「85歩 75香合 65歩 74玉 75歩 85玉 86歩 75玉 76歩 65玉」

こちらは仕掛けに入る手順。10手で持駒が△歩2から△歩歩に変わる。ただし原形には戻っていない。65玉型。6筋に先手の歩がないので、先後の持駒の歩の合計枚数がA手順の時と比べて1枚多いように見えることに注意。この形も重要で何度も現れる。B手順終了後の図を仕掛け図としてあげておく。

仕掛け図

(1筋～5筋は色々あり)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
									四
皇			王		歩				五
	歩	歩		ス					六
角				ス	ス			ス	七
王			歩	歩		皇	皇	ス	八
				ス		ス	手	ス	九

持駒 香歩x

手数は、B手順のみ65玉型で他は全て64玉型で計算する。先手と後手の持駒を△歩▲香歩3のように表す。歩の階段の表し方は、506手経過の場面 (④) で詳述する。

問題図#131を再掲しよう。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
			王						四
皇					歩				五
		歩	歩	ス					六
				ス	ス			ス	七
王	角		歩	歩		皇	皇	ス	八
		ス		ス		ス	手	ス	九

持駒 歩4

解：97角 75香合 65歩 74玉 75歩 85玉 86歩 75玉 78香 同と 76歩 65玉 66歩 64玉 85歩 75香合 65歩 74玉 75歩 85玉 89香 88と 同香 87歩合 同香 86歩合 同香 75玉 85香 同玉 86歩 75玉 76歩 65玉 66歩 64玉 (① 36手。△歩▲香歩3)
・79とを～78～88として回収。香がいつでも取り返せると分かれば、香を遠くから打ち捨ててと金に取らせ、結果的にと金を移動させていき回収していくのだろうと見当がつく。

「A」×2 「B」 (+24x2+10=94手。△歩▲香歩4)
67香 66と 同香 同玉 67歩 65玉 66歩 64玉

(+8=102手。△歩▲香歩4)

・56とを回収。

「A」×3 「B」(+24×3+10=184手。△香歩2▲歩4)

67香 同と 66歩 64玉 (+4=188手。△歩▲香歩4)

・57と～67と

「A (ただし、78歩合のところを78と)」(②、+24=212手。中間1図)

・67とを回収。

中間1図 (212手。△歩2▲香歩4)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
			玉						四
歩					歩				五
	歩	歩	歩						六
角					ス			ス	七
王			歩	歩	歩	歩	歩	ス	八
				ス	ス	歩	ス	ス	九

持駒 歩2

「A」×3 「B」(+24×3+10=294手。△香歩3▲歩4)

66歩 55玉 57香 同と 56歩 64玉 (+6=300手。△歩

▲香歩4)

・47と～57と。56歩が発生。

「A」×3 「B」(+24×3+10=382手。△香歩2▲歩4)

67香 同と 66歩 64玉 (+4=386手。△歩▲香歩4)

・57と～67と

「A (ただし、78歩合のところを78と)」(③、+24=410手、△歩2▲香歩4)

・67とを回収。

「A」×3 「B」(+24×3+10=492手。△香歩3▲歩4)

66歩 56玉 57歩 46玉 49香 55玉 56歩 44玉 45香

同玉 46歩 54玉 55歩 64玉 (④ +14=506手。△歩▲

香歩5)

・45歩を回収。46歩が発生。

・本局の新構想は、歩稼ぎメカニズムだけではなく、玉の横送り(往復)を歩だけで行うことなのだ。歩の枚数には限りがあるので、あらかじめ歩の階段を下げておかないと、歩だけで往復させることはできない。歩の階段を下げる手順は、本作では第二

主題(副主題)としての扱いだが、後の「寿限無」ではそこにスポットライトが当てられることになる。

・さて、5筋以遠の先手の歩の階段を記号で表そう。現在は55歩と46歩だけなので、これを55-46のように表すことにする。これを含めて現在の状況をもう一度書くと、(+14=506手。△歩▲香歩5。55-46)となる。

「A」×2 (+24×2=554手。△歩3▲香歩3。55-46)

85歩 75香合 65歩 55玉! (56歩 同玉 57歩 65玉)

66歩 74玉 75歩 64玉 74歩 同玉 79香 78歩合

同香 77歩合 同香 76歩合 同香 75歩合 同香

85玉 86歩 75玉 76歩 64玉 (⑤、+28=582手。△歩

2▲香歩4。57-46)

・55歩を2段下げる。香合をさせた状態のままで 右辺に追う(ここでは歩の段を下げるため)のは手数短縮のため。鮎川哲朗作(#98、#113)でも何度か現れた。

・A手順の途中で歩の階段を下げる上の手順をC手順とする。ただし、頭4手と、終わりの20手は固定で()内の中間部分が微妙に変化する。そのサンドイッチされる変化部分を()内に書く。上の手順は「C (56歩 同玉 57歩 65玉)」のように表す。下げる歩の枚数と段数によって、必要な持歩の枚数は変わる。必要最小限の持歩の枚数でC手順を行うと、C手順終了後の先手の持駒は歩が2枚となる。

「A」×3 「B」(+24×3+10=664手。△香歩3▲歩4。57-46)

66歩 55玉 56歩 44玉 45歩 同玉 49香 同と右

46歩 54玉 55歩 64玉 (⑥、+12=676手。△歩▲香歩

5。55-46)

・59と～49と。往復すると歩の階段が元の木阿弥。

(+24×2+28=752手。△歩2▲香歩4。57-46)

・歩を下げて。

(+24×3+10+12=846手。△歩▲香歩5。55-46)

・49と～48と。

(+24×2+28=922手。△歩2▲香歩4。57-46)

・歩を下げて。

(⑦、+24×3+10+12=1016手。△歩▲香歩5。55-46)

・48と～47と。以上3回のと金の移動は、同手順でできるので、2～3回目の手順は省略した。1回の移動につき170手掛かる。506手目から数えて、+170×3=1016手となっている。中間2図としてあげておく。

中間2図 (1016手。△歩▲香歩5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
			玉						四
皇				歩					五
	歩	歩	歩		歩				六
角					ス			ス	七
王			香	香	皇	皇	ス	ス	八
						ス	手	ス	九

持駒 歩

「A」×4 「B」(+24×4+10=1122手。△香歩3▲歩4。55-46)

66歩 55玉 57香 同と 56歩 64玉 (⑧、+6=1128手。△歩▲香歩5。56-46)
・47と～57と。

「A」×2 「B」(+24×2+10=1186手。△香歩▲歩6。56-46)

66歩 54玉 55歩 44玉 45歩 同玉 49香 48と 同香 47歩 同香 46歩 同香 同玉 47歩 55玉 56歩 64玉 (⑨、+18=1204手。△歩▲香歩6。56-47)
・57とを回収。
・59とをはがすのと同様に、39とを～49～48～47～57として回収する。しかし、持駒の歩の枚数が増加しているので、歩の階段を下げなくても往復できてしまい、59との回収の時とは手数が異なる。

「A」×5、「B」(+24×5+10=1334手。△香歩4▲歩4。56-47)

66歩 54玉 55歩 同玉 56歩 45玉 46歩 44玉 45歩 同玉 49香 同と 46歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (⑩、+18=1352手。△歩▲香歩6。55-45)
・39と～49と。

「A」×5 「B」(+24×5+10=1482手。△香歩4▲歩4。55-45)

66歩 55玉 56歩 45玉 48香 同と 46歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (+12=1494手。△歩▲香歩6。55-45)
・49と～48と。

「A」×5 「B」(+24×5+10=1624手。△香歩4▲歩4。55-45)

66歩 55玉 56歩 45玉 47香 同と 46歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (⑪、+12=1636手。△歩▲香歩6。

55-45)

・48と～47と。

「A」×4 「B」(+24×4+10=1742手。△香歩3▲歩4。55-46)

66歩 55玉 57香 同と 56歩 64玉 (+6=1748手。△歩▲香歩6。56-45)
・47と～57と。

「A」×2 「B」(+24×2+10=1806手。△香歩▲歩6。56-45)

66歩 54玉 55歩 45玉 49香 48と 同香 47歩 同香 46歩 同香 同玉 47歩 55玉 56歩 64玉 (⑫、+16=1822手。△歩▲香歩7。56-47)
・57とを回収。ついに1筋のと金にアタックする時が来た。

中間3図 (1822手。△歩▲香歩7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
			玉						四
皇									五
	歩	歩	歩	歩					六
角					歩			ス	七
王			香	香	皇	皇	ス	ス	八
						手	ス	ス	九

持駒 歩

「A」×6 「B」(+24×6+10=1976手。△香歩5▲歩4。56-47)

・歩を最大限稼いで

66歩 56玉 57歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 25玉 27香 同と 26歩 34玉 35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (⑬、+20=1996手。△歩▲香歩5。55-45-35-26)

・17と～27と。

・ここから歩の階段を下げる第二主題が本格的に現れる。

「A」×4 (+24×4=2092手。△歩5▲香歩。55-45-35-26)

「C (56歩 45玉 46歩 同玉 47歩 56玉 57歩 65玉)」(⑭、+24+8=2124手。△歩2▲香歩4。57-47-35-26)

・C手順で5筋4筋の歩を2段下げる

「A」×3 「B」(+24×3+10=2206手。△香歩3▲歩4。
57-47-35-26)
66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 37香 同と 36歩
44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (⑮、+14=2220手。△歩
▲香歩5。55-45-36-26)
・27と～37と。

「A」×4 「B」(+24×4+10=2326手。△香歩3▲歩4。
55-45-36-26)
66歩 55玉 56歩 45玉 49香 48と 同香 47歩 同香
46歩 同香 36玉! 37歩 26玉! 27歩 35玉 36歩
46玉 47歩 45玉 46歩 54玉 55歩 64玉
(⑯、+24=2350手。△歩▲香歩6。55-46-36-27)
・37とを回収。ついでのように、26歩を27に下げて
おく。このタイミングがgood。

「A」×3 (+24×3=2422手。△歩4▲香歩3。55-46-36-
27)
「C (56歩 46玉 47歩 56玉 57歩 65玉)」
(+24+6=2452手。△歩2▲香歩5。57-47-36-27)
・5、4筋の歩を7段目に下げる。
・終了時先手の持駒に歩が2枚あるが、だからと言
ってスタートの歩稼ぎを2回で済ませるわけには
いかない。

「A」×4 「B」(+24×4+10=2558手。△香歩4▲歩4。
57-47-36-27)
66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 34玉 35歩 25玉 26歩
14玉 17香 同と 15歩 24玉 25歩 35玉 36歩 44玉
45歩 54玉 55歩 64玉 (⑰、+22=2580手。△歩▲香
歩5。55-45-36-25-15)
・18と～17と。15歩が発生し、歩の階段が元に戻っ
てしまう。

「A」×2 (+24×2=2628手。△歩3▲香歩3。55-45-36-
25-15)
「C (56歩 同玉 57歩 65玉)」(+24+4=2656手。△歩
2▲香歩4。57-45-36-25-15)
・5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×3 (+24×3=2728手。△歩5▲香歩。57-45-36-
25-15)
「C (56歩 45玉 46歩 36玉 37歩 46玉 47歩 56玉
57歩 65玉)」(+24+10=2762手。△歩2▲香歩4。57-
47-37-25-15)
・3、4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×3 「B」(+24×3+10=2844手。△香歩3▲歩4。
57-47-37-25-15)
66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 25玉 27香

同と 26歩 34玉 35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉
(⑱、+18=2862手。△歩▲香歩5。55-45-35-26-15)
・17と～27と。歩の階段が元に戻ってしまう。

＊ (新装版の注) ＊

旧型録版は、この部分で28手遠回りしている。旧
版のように36～37としてから、4、5筋の歩を7段ま
で下げると計210手掛かり、上のように最初に5筋
の歩だけ55～57としてから、3、4、5筋の歩を7段ま
で下げると計182手で済んでしまう。マジック!

「A」×4 (+24×4=2958手。△歩5▲香歩。55-45-35-
26-15)
「C (56歩 45玉 46歩 同玉 47歩 56玉 57歩 65玉)
(+24+8=2990手。△歩2▲香歩4。57-47-35-26-15)
・4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×3 「B」(+24×3+10=3072手。△香歩3▲歩4。
57-47-35-26-15)
66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 37香 同と 36歩
44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (+14=3086手。△歩▲香
歩5。55-45-36-26-15)
・27と～37と。歩の階段が元に戻ってしまう。

「A」×4 「B」(+24×4+10=3192手。△香歩3▲歩4。
55-45-36-26-15)
66歩 55玉 56歩 45玉 49香 48と 同香 47歩 同香
46歩 同香 36玉 37歩 26玉 27歩 35玉 36歩 46玉
47歩 45玉 46歩 54玉 55歩 64玉
(⑲、+24=3216手。△歩▲香歩6。55-46-36-27-15)
・37とを回収。ついでに、26歩を27に下げておく。
⑮2220手目から⑲2350手目までと同じ状況なので、
同じ手数!

中間4図 (3216手。△歩▲香歩6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
			玉						四
歩				歩				歩	五
	歩	歩	歩		歩	歩			六
角							歩		七
王			歩	歩		歩	歩		八
							歩	歩	九

持駒 歩

「A」×3 (+24×3=3288手。△歩4▲香歩3。55-46-36-27-15)

「C (56歩 46玉 47歩 56玉 57歩 65玉)」
(+24+6=3318手。△歩2▲香歩5。57-47-36-27-15)
・4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×4 「B」(+24×4+10=3424手。△香歩4▲歩4。
57-47-36-27-15)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 34玉 35歩 25玉 26歩
15玉 18香 同と 16歩 14玉 15歩 24玉 25歩 35玉
36歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (+24=3448手。
△歩▲香歩6。55-45-36-25-15)
・19と～18と。

「A」×5 (+24×5=3568手。△歩6▲香歩。55-45-36-25-15)

「C (56歩、45玉 46歩 36玉 37歩 46玉 47歩 56玉
57歩 65玉)」(+24+10=3602手。△歩2▲香歩5。57-
47-37-25-15)
・3、4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×4 「B」(+24×4+10=3708手。△香歩4▲歩4。
57-47-37-25-15)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 25玉 26歩
15玉 17香 同と 16歩 14玉 15歩 24玉 25歩 34玉
35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (㊶) +24=3732手。
△歩▲香歩6。55-45-35-25-15)
・18と～17と。

「A」×4 (+24×4=3828手。△歩5▲香歩2。55-45-35-25-15)

「C (56歩 45玉 46歩 同玉 47歩 56玉 57歩 65玉)」
(+24+8=3860手。△歩2▲香歩5。57-47-35-25-15)
・4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×4 「B」(+24×4+10=3966手。△香歩4▲歩4。
57-47-35-25-15)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 25玉 27香
同と 26歩 34玉 35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉
(㊶、+18=3984手。△歩▲香歩6。55-45-35-26-15)
・17と～27と。

「A」×5 「B」(+24×5+10=4114手。△香歩4▲歩4。
55-45-35-26-15)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩
15玉 19香 18と 同香 17歩 同香 16歩 同香 同玉
17歩 15玉 16歩 25玉 26歩 34玉 35歩 44玉 45歩
54玉 55歩 64玉 (㊶、+30=4144手。△歩▲香歩7。
55-45-35-26-16)
・27とを1筋で回収。いよいよ29圭を呼び出す手順

に入る。クライマックスは近い。

中間5図 (4144手。△歩▲香歩7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂	三
			玉						四
歩				歩	歩	歩			五
	歩	歩	歩				歩	歩	六
角									七
王			香	香		香	香		八
							玉		九

持駒 歩

「A」×4 (+24×4=4240手。△歩5▲香歩3。55-45-35-26-16)

「C (56歩 45玉 46歩 同玉 47歩 56玉 57歩 65玉)」
(+24+8=4272手。△歩2▲香歩6。57-47-35-26-16)
・4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×5 「B」(+24×5+10=4402手。△香歩5▲歩4。
57-47-35-26-16)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩
14玉 15歩 同玉 19香 同圭 16歩 25玉 26歩 34玉
35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (㊶、+24=4426手。
△歩▲香歩7。55-45-35-26-16)
・29圭～19圭。

「A」×4 (+24×4=4522手。△歩5▲香歩3。55-45-35-26-16)

「C (56歩 45玉 46歩 同玉 47歩 56玉 57歩 65玉)」
(+24+8=4554手。△歩2▲香歩6。57-47-35-26-16)
・4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×5 「B」(+24×5+10=4684手。△香歩5▲歩4。
57-47-35-26-16)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩
14玉 15歩 同玉 18香 同圭 16歩 25玉 26歩 34玉
35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (+24=4708手。△
歩▲香歩7。55-45-35-26-16)
・19圭～18圭。

「A」×4 (+24×4=4804手。△歩5▲香歩3。55-45-35-26-16)

「C (56歩 45玉 46歩 同玉 47歩 56玉 57歩 65玉)」
(+24+8=4836手。△歩2▲香歩6。57-47-35-26-16)

・4、5筋の歩を7段目に下げる。

「A」×5 「B」(+24×5+10=4966手。△香歩5▲歩4。57-47-35-26-16)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩 14玉 15歩 同玉 17香 同圭 16歩 25玉 26歩 34玉 35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (②④、+24=4990手。△歩▲香歩7。55-45-35-26-16)

・18圭～17圭。

「A」×2 (+24×2=5038手。△歩3▲香歩5。55-45-35-26-16)

「C (56歩 同玉 57歩 65玉)」(+24+4=5066手。△歩2▲香歩6。57-45-35-26-16)

・もし、もう一步あれば歩の段下げをしないで直接右辺に追えて早いのだが、残念ながら歩が足りない。仕方がないので5筋の歩を7段目に下げる。そんなわけなので、4筋の歩も一緒に下げると手数が伸びてしまう。

「A」×5 「B」(+24×5+10=5196手。△香歩5▲歩4。57-45-35-26-16)

66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩 同玉 27香 同圭 26歩 34玉 35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 (②⑤、+20=5216手。△歩▲香歩7。55-45-35-26-16)

・17圭～27圭。

中間6図 (5216手。△歩▲香歩7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			王			金	二
龍	桂	桂	龍	馬	馬	馬	馬	桂	三
			王						四
皇				歩	歩	歩			五
	歩	歩	歩				歩	歩	六
角							王		七
王			歩	歩	皇	皇			八
									九

持駒 歩

＊ (新装版の注) ＊

旧型録版は、この部分で2手短い手順になっている。②④から②⑤への手順中省略されている部分が18手とあり、ここは上記のように20手かかるので数え間違いと思われる。または、26歩を25歩と勘違い

したかもしれない。何れにしても私の間違い。こういうことになるので、手順を省略してはダメなのだ。

「A」×4 (+24×4=5312手。△歩5▲香歩3。55-45-35-26-16)

85歩 75香合 65歩 74玉 75歩 65玉 66歩 55玉 56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩 14玉 15歩 同玉 19香 18圭 同香 17歩 同香 16歩 同香 25玉 26歩 34玉 35歩 44玉 45歩 54玉 55歩 64玉 74歩 同玉 75歩 85玉 86歩 96玉 88桂迄 (+41=5353手。)

修正図詰上り図 (5353手詰)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			王			金	二
龍	桂	桂	龍	馬	馬	馬	馬	桂	三
									四
皇		歩		歩	歩	歩			五
王	歩		歩				歩	香	六
角									七
王	桂		歩	歩		皇	皇		八
									九

持駒 なし

担当者一五千手オーバーの大雄篇。挑戦者はわずか四名。作意の5409手に対し最短解は森茂氏の5321手(お見事)でした。本質的には同手順で、作者苦心の構想は見事に実を結んだようです。担当者一遂に成った鬼気迫る大記録作品。その秘密を解明しましょう。

まず、香歩の捨て合を応用して1サイクル24手で1歩ずつ持駒を増やす機構が巧妙。持歩を増やしながら、56と57と47と45歩59と39とと順次アタックし持駒にします。59とを香打で57まで呼び出して、入手する構想は巧妙ではありませんか。こうして持歩を増やして遂に1筋のと金に手が届く訳。前と同手法で17とを27～37と呼び出して消し、18と、19と、29圭の順に攻略し最後に入手した桂で収束します。

ところでかなり厄介なのが、1筋方面に行く手順。並んだ歩を後退させておかぬと歩が不足しますが、歩を下げるのに手数が掛かります。森氏の成功の因はこの辺にあった様で、作者と浦壁氏は18とを27に誘い18香打で消去したのですが、森

氏は37まで呼び出して、49香打で消去したのと、1〜5筋の歩を後退させる手順を合理化して、手数を78手も短縮するのに成功しました。さすが解答王森氏の面目躍如たりです。

森茂—5321手が最短だと思います。と金の入手位置は59・39と→48、17と→48、18と→48、19と→18、29圭→18です。歩を増やす手順が難しく、うまい手があったものですね。最短手順を手数を数えながら比較するのが大変で、手順略記も大変でした。美しい配置ですが凄い内容ですね。驚嘆しました。

浦壁和彦 (5403手解) —作意より6手短くなった。持駒を増やす手順が優雅。最初は千手くらい長かったが、ジリジリと短くして行く時は疲れたがばか詰の醍醐味を味わった。

・正解者 森茂、浦壁和彦、花田尚一、佐々木光正

・本局の主題は歩稼ぎのメカニズムだ。その巧妙さは歴代作中でも#127 (森茂作) と1・2位を争う。西田尚史氏がのちにこのアイデアを発展させ、1サイクル40手のメカニズムを発表した。

さて、次に玉の横追い方法に注目。本局のように歩ばかりで行うのは超長編では初めて。持歩の数に限りがあるので玉の往復の合間に連歩を下げる副主題が必要になる。1歩節約するために歩を2段下げなくてはいけない。これが長手数の推進力。この副主題の部分を純粋に抽出したのがいわゆる浦壁式手順となる。発表時期から見て両者独立に発想したものと思われる。

《早詰5329手解の紹介》

・本作には、5329手の早詰手順が指摘されている。指摘は神無七郎氏。

(25、5216手。△歩▲香歩7。55-45-35-26-16) から、

再掲中間6図 (5216手。△歩▲香歩7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
圭	桂	桂	圭	香	香	香	香	桂	三
			王						四
皇				歩	歩	歩			五
	歩	歩	歩				歩	歩	六
角							手		七
王			香	香		皇	皇		八
									九

持駒 歩

「A」×3 (+24×3=5288手。△歩4▲香歩4。55-45-35-26-16)

85歩 75香 65歩 74玉 75歩 65玉 66歩 55玉 56歩
45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩 14玉 15歩 同玉
19香 18圭 同香 25玉 17桂 15玉 25桂 17歩 同香
16歩 同香 26玉 27歩 36玉 37歩 35玉 36歩 34玉
33桂成 44玉 34圭 54玉 55銀迄 (+41=5329手)

修正図詰上り図 (5329手詰)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	金	金			香			金	二
圭	桂	桂	圭	香	香		香	桂	三
				王		圭			四
皇	歩	歩		銀					五
			歩	歩	歩	歩		香	六
角							歩		七
王			香	香		皇	皇		八
									九

持駒 なし

神無七郎—今回確認された5329手が最短手順である可能性は非常に高いと思います。しかも、この手順は根本的な構想の破綻ではなく、駒も余らないので、これを作意順に置き換えて良いと思います。

・素晴らしい。本作は、これを本手順とする5329手詰として歴史に残ることになった。

・後にあげる原図にあった早詰順の13桂成を消したが、まだ33桂成が残っていた。この辺は正直駒が

足りない。5枚目の桂があれば、先手33桂、22銀など配置することもできるのだが...

13桂成 同玉 24銀 22玉 33銀 31玉 42銀迄 (+33=5321手)

続いて参考図として、発表原図をあげておく。

原図詰上り図 (5321手)

発表原図

加藤徹 223号【74-8】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	香	一
	金	金	金					馬	二
銀	桂	桂	桂	銀	銀	銀	銀		三
			王						四
皇				歩					五
		歩	歩	ス					六
				ス	ス			ス	七
王	角		歩	歩	皇	皇	ス		八
		ス		ス	ス	手	ス		九

持駒 歩4

本図は結果発表を引用した通り、森茂氏の5321手詰が最短手順となっている。その手順は次のようになっている。分岐点は今までと同じ㊦ (5216手)。

(㊦、5216手。△歩▲香歩7。55-45-35-26-16) から、

中間図 (5216手。△歩▲香歩7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角							王	香	一
	金	金	金					馬	二
銀	桂	桂	桂	銀	銀	銀	銀		三
			王						四
皇				歩	歩	歩			五
	歩	歩	歩				歩	歩	六
角							手		七
王			歩	歩	皇	皇			八
									九

持駒 歩

「A」×3 (+24×3=5288手。△歩4▲香歩4。55-45-35-26-16)

85歩 75香 65歩 74玉 75歩 65玉 66歩 55玉 56歩
45玉 46歩 35玉 36歩 24玉 25歩 14玉 15歩 同玉
19香 18圭 同香 25玉 17桂 14玉 25桂 15歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王	香		一
	金	金	金		銀			馬	二
銀	桂	桂	桂	銀	銀	銀	銀		三
									四
皇	歩	歩						歩	五
			歩	歩	歩	歩			六
角									七
王			歩	歩		皇	皇	香	八
									九

持駒 なし

・なんとこれらの3通りの解の違いは、最終盤の収束のみ。これこそが、本作の素性の良さであり、森茂氏の短縮順の凄さであると言える。

＊ (新装版の注) ＊

作品の性質上非限定個所がたくさんある。例えばサイクル中1筋の歩を16歩のままにするか15歩にしておくかは任意で、どちらでも最終手数には影響がない。上で解説した手順では前半は15歩、後半は16歩でサイクルを終了している。神無七郎氏の早詰5329手解は全手順省略なしで書かれているが、実はここで引用した手順はそっくりそのままではなく、分岐点を㊦ (5216手) にそろえるために、若干手順を変更していることをお断りしておく。

長編をまとめて5局並べます。手数は順に、91手、167手、69手、55手、131手。

#135 ばか詰 浦壁和彦 225号【74-10】

#132 ばか詰 八尋無段 224号【74-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀				金			王		一
王	桂	王	歩		銀	飛	金		二
歩		歩	桂	歩	歩	歩		馬	三
	歩	金	金	歩		王		王	四
									五
									六
			桂				歩		七
									八
			王						九

持駒 なし

#133 ばか詰 加藤徹 224号【74-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	龍			龍			金		一
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	二
桂	王	王	王	王	と	と		王	三
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	桂	桂	四
							歩	と	五
							桂	歩	六
									七
									八
									九

持駒 なし

#134 ばか詰 加藤徹 225号【74-10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
王	飛	王	金	金	銀	銀	銀	銀	四
桂								と	五
歩		歩		桂	桂	桂		歩	六
									七
									八
	香		香	と	香	と	香		九

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							王	王	二
銀	銀	銀	銀	金	金	金	金		三
王	歩	王	歩		歩		歩	王	四
歩		歩		歩		歩		歩	五
									六
歩		歩		歩		歩	香	歩	七
と	香	と	香	桂	香	桂	と	飛	八
							飛		九

持駒 なし

#136 ばか詰 八尋無段 223号【74-9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
王		歩	と	香	と	香	王	香	二
	歩								三
歩			桂	歩	と	歩	桂	と	四
	と	歩	歩		歩		歩		五
歩		と	と	桂		飛		王	六
					歩	銀	歩	桂	七
				角	銀	と		飛	八
		銀		歩	銀				九

持駒 歩

解:

#132

12馬 35玉 13馬 45玉 12馬 46玉 13馬 56玉 12馬 57玉 13馬 67玉 68歩 78玉 12馬 68玉 13馬 67玉 12馬 57玉 13馬 56玉 12馬 46玉 38桂 35玉 13馬 34玉 26桂 45玉 12馬 46玉 13馬 56玉 12馬 57玉 13馬 67玉 12馬 68玉 13馬 78玉 12馬 79玉 13馬 89玉 12馬 98玉 99歩 97玉 98歩 96玉 97歩 95玉 96歩 94玉 95歩 83玉 72銀 同玉 71桂成 同玉 72香 61玉 71香成 51玉 61杏 52玉 62杏 同玉 63歩 61玉 62歩生 71玉 61歩成 72玉 71と 62玉 72と 63玉 73と 52玉 63と A51玉 52歩 同金 62と 41玉 52と 31玉 41金迄91手詰。

・「新透明階段」と命名された本作は新の字から分かるように改訂版です。原図は220号の懸賞になった89手詰でした。そこらは1往復もので、収束がかなり違ってきます。

・さて、本作は玉鋸の第1号局です。いかにもばか詰らしい趣向で愉快ですね。収束もちょっと考えさせてくれます。玉鋸作では浦壁氏の香はがしと組み合わせたものがユニークでした。

＊余詰：Aより、61玉 52と 72玉 73歩打 71玉 62と 81玉 72歩成迄。

#133

作意：23と 同玉 33と 13玉 23と 同玉 14と 33玉 23と 43玉 33と 同玉 45桂 43玉 53桂成 33玉 43圭 23玉 33圭 13玉 23圭 14玉 13圭 同玉 15香 14桂合 同香 23玉 13香成 33玉 23杏 43玉 33杏 53玉 43杏 同玉 55桂 53玉 63桂成 43玉 ...（この要領で香をはがしていく。香を全部はがして 93桂をはがすために戻ってくるところから）... 53杏 73玉 A63杏 83玉 73杏 同玉 85桂 83玉 93桂成 73玉 83圭 63玉 73圭 53玉 63圭 43玉 53圭 33玉 43圭 23玉 33圭 13玉 23圭 14玉 23圭 14玉 13圭 15玉 27桂 同金 14圭 16玉 15圭 17玉 16圭 18玉 17圭 28玉 27圭 29玉 28圭 19玉 29金迄167手詰。

早詰：A85桂！ 83玉 93桂成 73玉 B83圭 同玉 75桂 73玉 63杏迄131手。

・指摘は解答者21名中大谷孫八氏ただ一人のこと。

担当者一香を入手しては1筋で桂馬にすり替えていく手順がなかなかうまくできている。最後に 93桂を入手して右辺で収束になる。加藤氏一流のユーモア作であった。

宇野敏満一難しさはないがとにかくすばらしい。

・香はがしの1局なのですが、1筋の香桂変換が入っているのだからちょっと高級感が漂います。趣向作はつついりズムに乗って手順を進めてしまいがちなので、この早詰順にはガン。

＊上記早詰手順は手数計算が間違っていた。正しくは137手。ただし、Bで63杏 同玉 75桂 73玉 83圭迄もあり。

#134

作意：96歩 同玉 88桂 86玉 76桂 88歩合 同香 87桂合 同香 同玉 88歩 76玉 68桂 66玉 56桂 68香合 同香 67桂合 同香 同玉 69香 56玉 48桂 46玉 36桂 48香合 同香 47桂合 同香 同玉 49香 36玉 28桂 26玉 16桂 28香合 同香 27桂合 同香 同玉 29香 イ16玉 28桂 26玉 36桂 28香合 同香 27桂合 同香 ロ36玉 48桂 46玉 56桂 47桂合 同香 56玉 68桂 66玉 76桂 67桂合 同香 76玉 68桂 86玉 87歩 96玉 97歩 95玉 96香迄69手詰。

早詰：ロで、27同玉 28歩 26玉 38桂 同金 27歩

同玉 29香 28金 同香 17玉 27金迄。この手順だと前半6筋と4筋の香の打ち直しは不要になり、最短43手で詰んでしまう。39金と59金をと金にして、金をどこかに使っておけばよかったのだが、...

担当者一前局（次の#135）より桂香の二段合であるだけ手が込んでいる。右端まで行くのは、一步持駒を稼ぐために趣向としては面白いが、狙いは見易い。帰路の二段合は一回のみで、これを2、4、6筋のどこでやってもよいのは小キズ。

磯田征一香を9段目に打ち直して右へ移動する筋は巧妙。#135と兄たり難く弟たり難し。A

・イで16桂を取らせるのは、後で合駒をさせる例の筋ですが、玉が完全に往復する意味づけになっています。

#135

66桂 65玉 54桂 同玉 46桂 45玉 54桂！ 47桂合 同香 54玉 66桂 65玉 74桂 67桂合 同香 74玉 86桂 85玉 94桂 87桂合 同香 94玉 86桂 85玉 74桂 86桂合 同香 74玉 66桂 65玉 54桂 66桂合 同香 54玉 46桂 45玉 34桂 46桂合 同香 34玉 26桂 25玉 14桂 26桂合 同香 同玉 38桂 37玉 49桂 36玉 48桂 25玉 37桂 34玉 26桂迄55手詰。

担当者一7手目54桂と左へ跳ねるのか、34桂と右へ跳ねるかが分かれ目。同じようだが右へ跳ねてはダメ。趣向としてはもう一息何かを望みたいが、謎解きとしてはイイ線を行っているようだ。田中三五郎一最初左へ追うのがミソ。右へ追うと持駒桂3にならない。A

ハ尋無段一どう考えても持駒が一枚不足します。助けてくれ。

・フェアリー界の大スター浦壁氏のデビュー作でした。配置がちょっと重い感じがします。#134とは双生児のよう。趣向味では#134、パズル性で#135というところでしょうか。

#136

作意：15と 同玉 16歩 14玉 15歩 13玉 14歩 23玉 13歩成 33玉 23と 43玉 ... 63と 74玉 73と 84玉 83と 74玉 84と 63玉 ... 33と 13玉 23と 同香！ 14歩 22玉 13歩成 33玉 23と ... 63と A74玉 73と 84玉 83と 74玉 84と 63玉 ... 23と 14玉 13と 同玉 16香 15歩合 同香 14歩合 同香 23玉 13香成 33玉 23杏 ...（折り返して） 13杏 15玉 14杏 16玉（112手経過。ほぼ原型に戻っている。ただし持駒が1歩増えて2枚になっている。） 15杏 26玉 16杏 35玉 26杏 同飛 36歩 同玉 46歩 同玉 47歩 57玉 68銀 56玉 67銀 57玉 66銀 68玉 69金

迄131手詰。

早詰：Aで同金、74香 62玉 73香成 61玉 71歩成
同玉 72桂成迄。

担当者一持駒が歩2なら初手から15と 26玉以下す
ぐ詰む。1歩しかないためもう1歩稼ぐため延々
と手が続く。1往復目で22香を23に釣り上げ、こ
れを成歩で獲得。2往復目では、その香で2歩の中
合を獲得。3往復目はその獲得した2歩を利用して
初形に戻り収束である。

浦壁和彦一2筋の香を取るまでが時間がかかった。
収束も味あり。

金成憲雄一本局収束が粗雑で全体のムードぶち壊
し。

・本作はやや薄味の感もありますが、構想そのもの
は面白いと思います。250号【76-11】の橋本哲氏の
477手詰はこのアイデアを洗練させたとみられな
いこともない。62金～61金とする、浦壁氏による修
正案がある。

変則特集の決定打に特別変わった問題を1題。

「94騎をばか詰せよ」という問題で、騎はチェスの
駒「八方桂」です。歩が合計50枚とは！冗談問題で
すからまあカドを立てずに。しかし相当な難問
ですぞ ... (後略)。

#137 駒ばか詰 加藤徹 228号【75-1】

94騎をばか詰せよ。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							皇		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
騎									四
									五
									六
									七
									八
			歩	歩	歩	歩	歩	歩	九

持駒 歩35

・ばか詰の歴史の中でも珍品中の珍品。そして文句
のない名作です。歩が50枚と言っても二歩禁ル
ールがありますから、盤上には18枚までしか存在し
ません。だから、盤駒を使って考えられますね。も
ちろん先手は騎(ナイト)にあたりあたりといかな
ければなりません。騎は敵陣に入っても成りませ
ん。手数は169手詰。

解：

#137

95歩 75騎 /

76歩 87騎 88歩 95騎 96歩 76騎 77歩 88騎 89歩
67騎 68歩 75騎 76歩 87騎 88歩 66騎 67歩 74騎
75歩 86騎 87歩 94騎 95歩 75騎 76歩 87騎 88歩
95騎 96歩 76騎 77歩 57騎 58歩 65騎 66歩 86騎
87歩 94騎 95歩 75騎 76歩 87騎 88歩 66騎 67歩
74騎 75歩 86騎 /

87歩 67騎 68歩 75騎 76歩 56騎 57歩 68騎 69歩
47騎 48歩 55騎 56歩 67騎 68歩 46騎 47歩 54騎
55歩 66騎 67歩 74騎 75歩 55騎 56歩 67騎 68歩
75騎 76歩 56騎 57歩 37騎 38歩 45騎 46歩 66騎
67歩 74騎 75歩 55騎 56歩 67騎 68歩 46騎 47歩
54騎 55歩 66騎 /

67歩 47騎 48歩 55騎 56歩 36騎 37歩 48騎 49歩
27騎 28歩 35騎 36歩 47騎 48歩 26騎 27歩 34騎
35歩 46騎 47歩 54騎 55歩 35騎 36歩 47騎 48歩
55騎 56歩 36騎 37歩 17騎 18歩 25騎 26歩 46騎
47歩 54騎 55歩 35騎 36歩 47騎 48歩 26騎 27歩
34騎 35歩 46騎 /

47歩 27騎 28歩 35騎 36歩 16騎 17歩 28騎 29歩
36騎 37歩 15騎 16歩 27騎 28歩 35騎 36歩 47騎
48歩 26騎 27歩 14騎 15歩迄169手詰。

森茂一実に難しく、10時間くらい費やした。手順は
すっきりしていて非限定も最初の方に1回ある
だけ。傑作。

磯田征一詰み上がった時の爽快さはまさに何物
にも代え難い、という感じでした。それにしても
よく創った物です。

西田尚史一実にうまくできています。ちょっと解
図欲をそがれる図でやはり普通のばか詰の方が
面白いですが、よくこんな問題を考えつくと驚
嘆しました。

担当者一この問題の魅力は形のシンプルさと着想
のユーモラスさにあり、詰上り形がすぐ予想で
きるので簡単に考えると大変。皆さんは随分手
こずらされたようです。それでも解答者は「詰む」
保証付ですが、作者は保証なしでこの形に取り
組んだのだから偉い。コロンブスの冒険みたい
な偉業です。加藤氏が思いつきだけでなく、腕力
家でもあることが証明されました。

詰手順は1周期48手 (/と/の間) の繰り返し趣向
ですが、周期が長いとその規則性が判り難か
ったと思います。それにしても続々と新しいア
イデアを生み出す加藤氏の頭脳、偉いもので
すね。

・正解者は上記3名に向井純氏を加えた4名のみで
した。

本作の発想の自由さ柔軟さは見るものをうっとりさせますね。ところがいざ解こうとするとなかなか筋がつかめず途方に暮れてしまいます。1サイクル48手のナイトの運動とは一体どうやって作ったのでしょうか？何はともあれ、フェアリー詰将棋の歴代作中上位にランクされるべき名作です。

フェアリー（詰）将棋とは、普通の（詰）将棋の

1. 盤
2. 駒
3. ルール（目的）

のいずれかを変更したものです。

1. 変則盤には、円筒盤、ドーナツ盤（浮き輪型）、ビリヤード盤、メビウス盤多次元盤などがある。
2. 変則駒には、チェスの駒を使うもの、また中将棋の駒を使うなど実在する他ゲームの駒を流用するものと全く新しい性能の駒を発明するものがある。
3. ルール（目的）の変更には、ばか詰、自殺詰、マキシ詰などのグループと局面によって性能が変化する天竺詰、安南詰のグループその他がある。

以上ごく大まかな分類をしてみました。詳しくはカピタンのバックナンバーを参照してください。

これをみてすぐ気付くのは、フェアリー詰将棋といっても3. に偏っていることです。それも大衆性を獲得したのはばか詰、天竺詰くらいで、一言で言うと狭く深くという感じ。これは単に歴史が浅いからでしょうか。国民性みたいなものも関係あるか？筆者としては1. 2. の分野の発展を期待したい。特に2. で中将棋の駒を使う詰棋は宝の山という気がします。



番外編 四銀図式+α 安永玲

序

幻想型録の復活第一回として、ばか詰版四銀図式を取り上げる。あんまり発展性のある題材ではありませんが、これはこれで無意味ということはないですよ。まあボチボチと肩ならしから。ただし本格的な研究を期待されると当てが外れます。軽く読んでもらえれば幸い。

動機は利己的？なもので、自分で四銀図式を作った時に過去の発表作との衝突が心配でリストを作成したのが基礎になっている訳。「リストも出来ていることだし、簡単にでっち上げられそうだな～」と思ったのが運の尽き。いざ始めてみると参考図がどんどん増えてきて、もう大変。

例によって調べが行き届かないところが多いと思いますが、訂正その他をよろしくお願いします。

1990年12月27日

《定義》

=====

ばか詰+盤面玉と四銀の無防備図式+持駒なし

=====

ばか詰版四銀図式の定義は、銀の一色図式であるだけではダメです。持駒があったり無防備でなかったりするのとは純でなく準として扱います。四金図式も同様とします。ただしこれには理論的根拠があるわけではなく、また諸氏の同意を得られているわけではありません。この方が実態に合っているんじゃないだろうかという私なりの感覚的結論です。

言うまでもなく、この純とか準とかの文字は条件としての純粋性を表す以上の意味はなく、作品の価値が個々の作品で判断されるのはもちろんのことです。

実はこの他に評価上の基準として、

- (イ) 象形や線対称点対称など、形に配慮があるかどうか。
- (ロ) 手順が完全限定であるかどうか。
- (ハ) 手数が長い（最低7手は欲しい）かどうか。
- (ニ) 手順が美しいかどうか。新しさがあるか、意外な一手が含まれているか。

などがあります。他にももっとあるかもしれません。

次に本稿収録の基準を書きます。

- (1) 純四銀図式、純四金図式（上記定義による）
- (2) (1) 以外の盤面一色四銀図式、盤面一色四金図式
- (3) 二銀、三銀、二金、三金については持駒なしのもののみとする。
- (4) 上記以外のものも若干取り上げる。
- (5) 上記の基準を満たしていれば不完全作もすべて取り上げる。

不完全作の範囲

過去の慣例としては、最終手の非限定は不問。途中の非限定は程度に応じて余詰になったり、非限定とされたりする。本稿では基本的に（結果）発表時の判定に従った。また、左右対称形では左右2通りの手順が成立する場合が多いが、これは余詰でないのはもちろん、非限定の扱いもされないようです。

なお蛇足ながら、本稿はすべて私が勝手に選局、解説したもので、オフィシャルな傑作集とか言う性格のものではありません。誤解されませんように。解説批評についてはなるべく書きすぎないように努めました。「下手な解説休むに似たり」とか、「百害あって一利なし」とか言いますし。もし書きすぎたところがあれば、お許し下さい。私自身としては、読み物風なのが好きなんですけど。

また、いつもの通り、不完全作も取り上げてしまいます。作者にとっては不本意かもしれませんが。お気を悪くされた方がいたら勘弁してください。普通、不完全作と知って図式集に載せることは稀です。しかし本稿の性格上これは重要な点なので、以前の通り完全収録の方針を堅持しました。

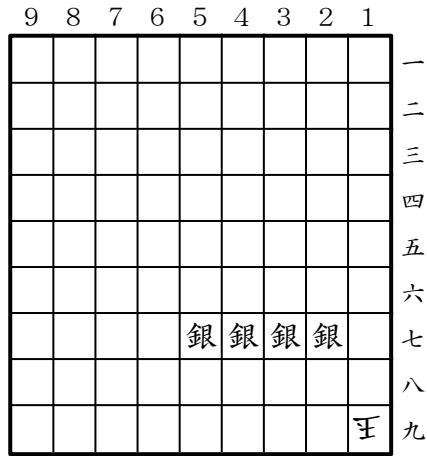
実は本家の詰将棋の世界でもこう言う例外がないこともないのです。昔熱中して読んだ全詰連の「煙」や「裸玉総まくり」なんかがそうですね。

例によって発表年度は以下のように記している。

【72-5】は1972年5月号の意味です。発表誌はすべて詰将棋パラダイスです。それでは参ります。

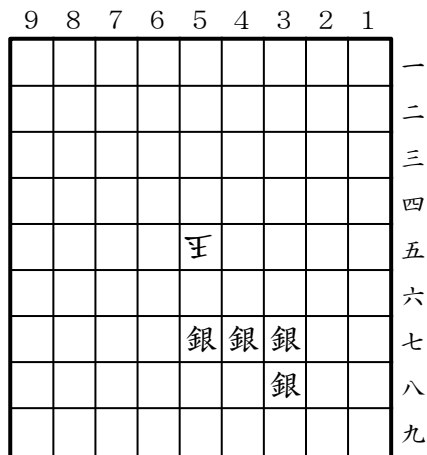
《四銀図式の部》

#1 【72-5】 中出慶一 9手詰



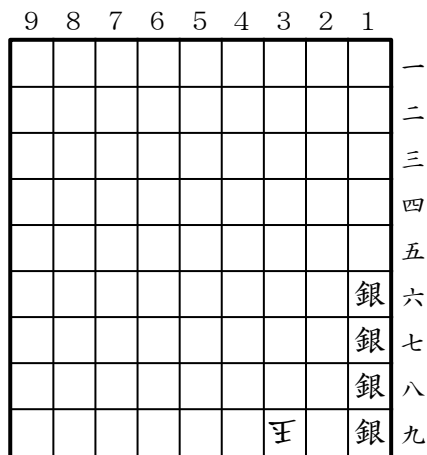
持駒 なし

#2 【73-10】 中出慶一 7手詰 (余詰)



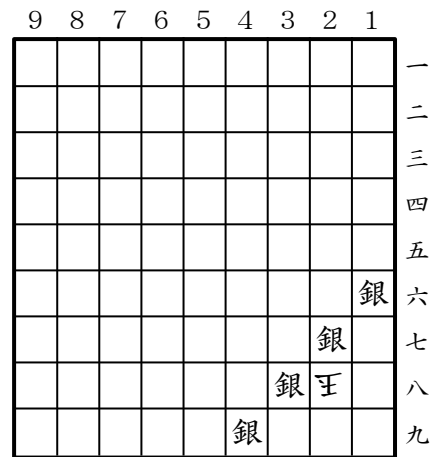
持駒 なし

#3 【77-9】 有吉弘敏 7手詰



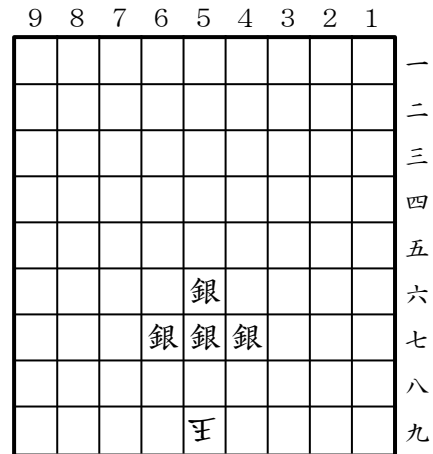
持駒 なし

#4 【78-10】 左真樹 11手詰 (余詰)



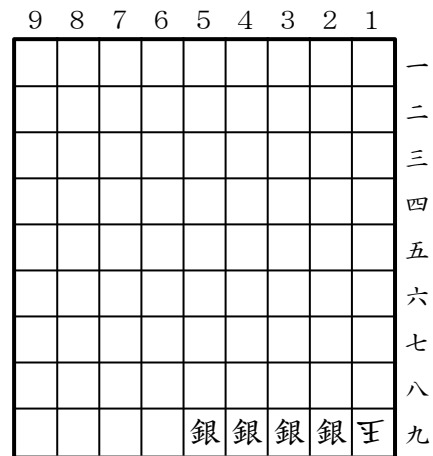
持駒 なし

#5 【78-12】 左真樹 11手詰



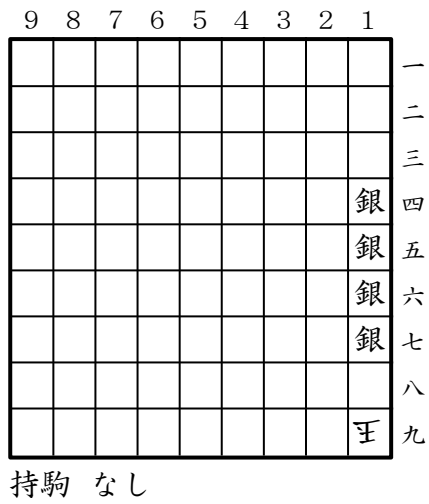
持駒 なし

#6 【79-1】 左真樹 7手詰

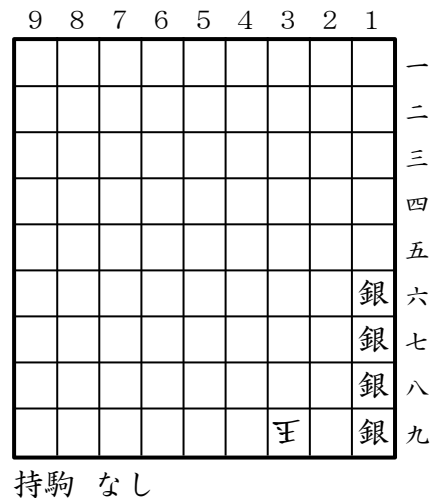


持駒 なし

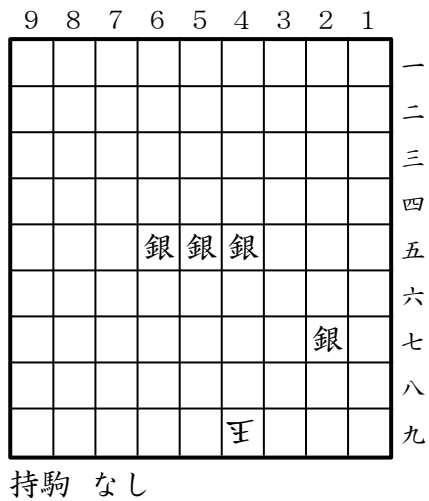
#7 【79-1】 左真樹 11手詰 (余詰)



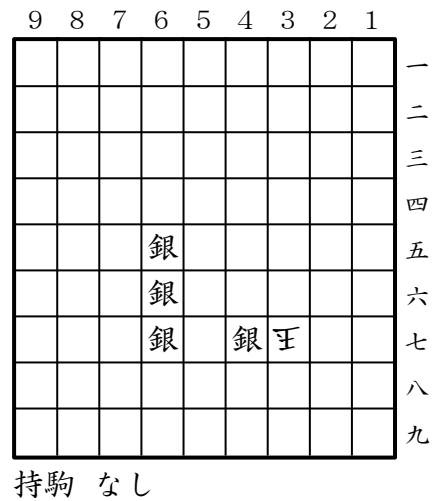
#10 【81-4】 中出慶一 7手詰 (=#3)



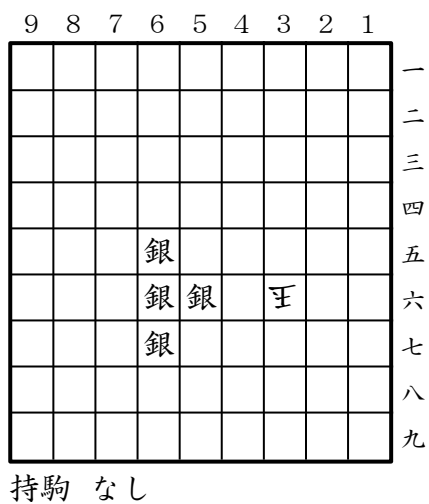
#8 【80-1】 工藤悟志 9手詰



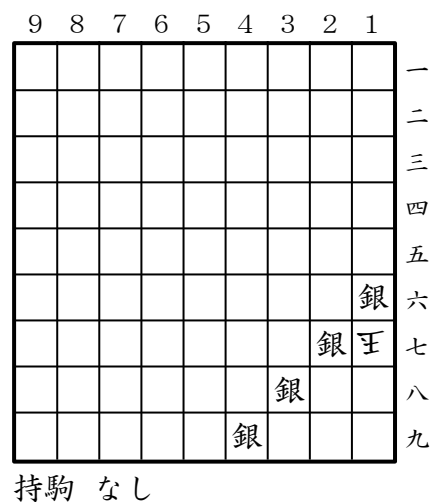
#11 【82-5】 原田清実 7手詰



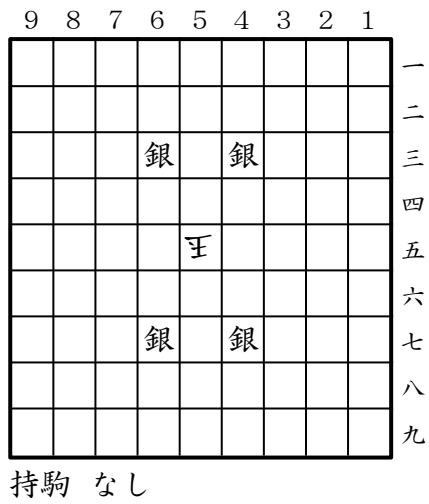
#9 【81-1】 詰魔仙 5手詰



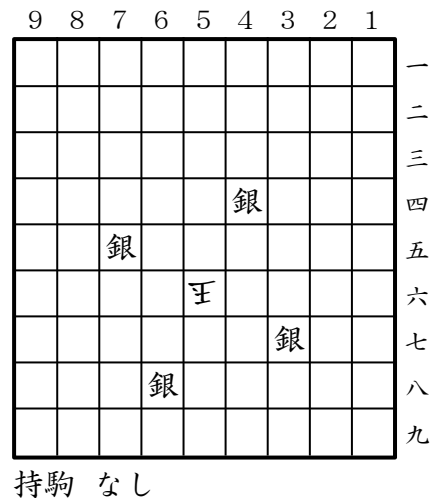
#12 【82-6】 飯島士朗 7手詰 (余詰)



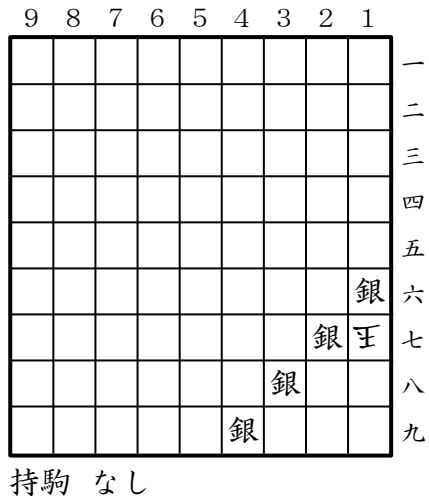
#13 【83-4】 徳武幸治 7手詰 (余詰)



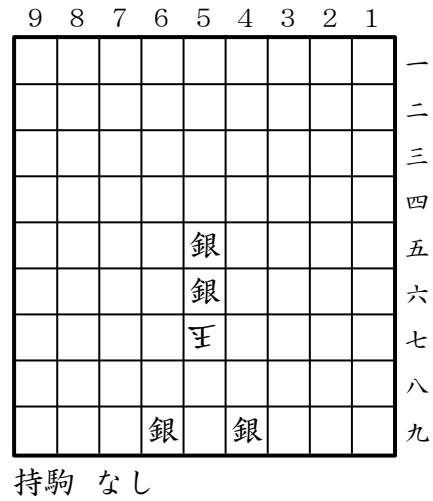
#16 【89-7】 安永玲 9手詰



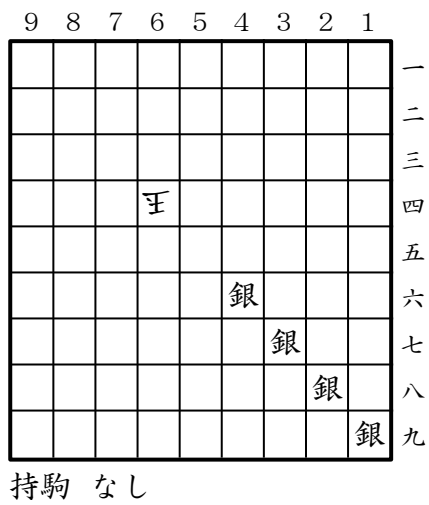
#14 【86-10】 原亜津夫 7手詰 (= #12)



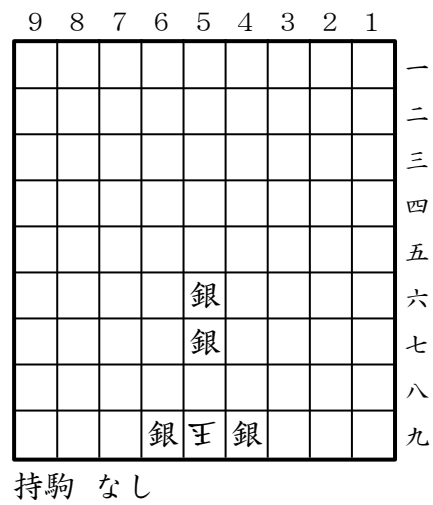
#17 【89-8】 安永玲 9手詰



#15 【88-1】 左真樹 11手詰



#18 【90-5】 小原井葉子 11手詰



解：

#1 中出慶一 第1号局。

28銀 29玉 38銀右 18玉 27銀直 28玉 29銀 37玉 38銀左迄9手詰。

・第1号局が完全作とはめでたい。形も良く第1号にしては出来過ぎ？

#2 中出慶一 第2号局。

作意：66銀 45玉 56銀 35玉 A26銀 46玉 47銀上迄7手詰。

余詰：Aより、36銀 46玉 47銀引迄

担当者一実にユニークな形であり、イヤ味がない。

手順も極めて洗練されており、かなり難しかったと見えて、かなりの誤答者があった。一つの成功作。

・当時は手数表示なしで、出題されていたんですね。都玉の純正品だが、余詰作だった。これは逆算式作図ではないだろうか。

#3 有吉弘敏 第3号局。

作意：28銀上 38玉 27銀右上 29玉 38銀 18玉 27銀引迄7手詰。

担当者一形が美しく一つの発見と言えるだろう。

しかし、手順は一本道だった。

磯田征一—よくぞ見つけたり。

切敷芳朗—玉を包囲網に入れる。構図よし。

・ばか詰史上最高の手筋派短編作家有吉氏の作。もっと手数が欲しい気もする。

#4 左真樹 第4号局。

作意：37銀！ 29玉 38銀引 18玉 27銀引 17玉 26銀左 28玉 37銀引 39玉 48銀直迄11手詰。

余詰：29銀 37玉 A38銀引 26玉 37銀 17玉 28銀上 18玉 27銀引 29玉 38銀上迄。

・四角固めの詰上り。

またAより、26銀 36玉 27銀引 47玉 38銀左上 48玉 37銀引 39玉 28銀直迄。

・これも四角固めだが、一旦広い方に逃がす。

・大作家左氏のデビューの頃の作。四銀図式初の11手詰作。一旦17まで追ってから、引き戻すのが面白い。ただ余詰が色々あり残念。

#5 左真樹 第5号局。

48銀 68玉 59銀 77玉 66銀 76玉 65銀直！ 66玉 55銀 57玉 58銀引迄11手詰。

担当者一問題は本局なりき。66玉とそっぽに逃げる手が発見しにくく 68銀 48玉 57銀 49玉 58銀右 38玉 49銀 39玉 48銀上 38玉 47銀引 49玉 58銀左迄13手のような見事な紛れ筋もあって、解答者21名中正解者はただの3人という大

惨事になった。誤答者はほとんどが13手解を答えてきたもので、誤答者にも好評だった！！作者は勝手に駒を並べておいてこの詰め方を見つけたのに違いなく、作者と競争してもらうつもりで手数ヒントをばかしたのだが、意外の結果となり申し訳ない。

阿部昭男—心理的にやり難い手があり、かなりの難解作。A

佐々木光正—13手詰が幾通りもあったので助かった。嫌味なヒント。A

・第五回前衛賞短編賞受賞作。ちなみにこの時の長編賞は同氏の天竺煙詰でした。結果発表で正解者3名とあるが、上記の2名ともう一人は作者自身だった。珍形難解作。これで1解に絞れる（完全限定）というのだから恐れ入る。今回これを書くためにいざ詰めようとしてまた汗をかいてしまった。しかし本局の本当の恐ろしさは同形の四金図式（#20）とペアをなすことで、幸運もさることながら左氏の努力は賞賛されるべき。

#6 左真樹 第6号局。

28銀直 18玉 19銀 29玉 38銀直 39玉 48銀左迄7手詰。

・形はこれが最高？。手順はもちろん完全限定。素晴らしいものだ。

#7 左真樹 第7号局。

作意：28銀 18玉 A27銀引 29玉 38銀 18玉 27銀直 17玉 26銀直 16玉 25銀引迄11手詰。

余詰：Aより、27銀直 29玉 38銀 18玉 27銀引以下作意に戻る。

・これも珍形で余詰は惜しい。詰上りは#6の縦横を変換したものになっている。

#6と#7は、懸賞ではなく解付きで発表された。懸賞になるかどうかは、その時の他作との関係などもあり担当者の胸先三寸と言える。

#8 工藤悟志 第8号局。

38銀 58玉 47銀 57玉 46銀引 66玉 57銀 55玉 56銀右上迄9手詰。

・導入がやや一本道の感があるが、詰上りTの字（エジプト十字架！）のあぶり出しとは驚き。都詰の四銀詰としても第1号。作図としては、収束5手からの逆算ではないか。

#9 詰魔仙 第9号局。

45銀 46玉 57銀 55玉 56銀左上迄5手詰。

・#8があるので、ほとんど存在価値がない？

#10 中出慶一 第10号局。

・第3号局と同一図。

#11 原田清実 第11号局。

46銀 36玉 45銀 46玉 57銀 55玉 56銀左上迄7手詰。

・#8、#9の中間的存在。

#12 飯島士朗 第12号局。

作意：26銀 18玉 27銀引 28玉 37銀引 39玉 48銀直迄7手詰。

余詰：18銀、26玉 15銀 25玉 26銀 16玉 17銀上(27銀)迄。

・第4号局の姉妹作として作られたらしい。本局も姉と同様余詰があった。形もすっきり、手順もすっきりとはなかなかいきません。「ばか詰ばかにならず。」

#13 徳武幸治 第13号局。

作意：54銀左成 45玉 44全 35玉 34全 45玉 56銀左迄7手詰。

井上順——これは美しい立体曲詰。手順も気付きにくい。

堀江裕——相当に苦しんだ後で、しばらく間をおきふたたび考えたらすぐ解けました。この手の問題はヒラメキがいりますね。形は抜群。

余詰：66銀 44玉 54銀左成 35玉 34銀成 45玉 44全迄。

飯島士朗——ひねくれた手順で面白い。(余詰解)

・四銀図式でも銀が成れる位置にあると大分味が異なる。作意も詰めにくいが余詰順も詰めにくい味がある。異色の作である。

#14 原亜津夫 第14号局。

・第12号局と同一図。

#15 左真樹 第15号局。

55銀 65玉 54銀 56玉 45銀 47玉 36銀引 38玉 27銀引 29玉 18銀直迄11手詰。

・さりげなく発表されたため、あまり知られていないかも。同氏の前衛賞受賞作(#5)と比べても難解性はあまり無いが、形手順とも完璧で、これが完全作とは全く恐ろしい作者である。脱帽。

#16 安永玲 第16号局。

67銀！ 45玉 46銀 36玉！ 45銀 46玉 35銀 55玉 56銀上迄9手詰。

某氏——詰みませんでした。スミマセンデシタ。奮闘努力の甲斐もなく....

新井健——眠れぬ夏の夜の四銀詰。あたまがどーか

なりそうになってしまった。A

駒井信久——美しいバラにはトゲがある。玉がそばにいく手は発見しにくく、パズルとして素晴らしい。A

・作った後、既発表作との衝突を避けるため、四銀図式のリストを作成した。これが本稿の母体。線対称ではない点対称配置としては第1号。

#17 安永玲 第17号局。

46銀 66玉 57銀 77玉 68銀直 78玉 67銀引 69玉 58銀上迄9手詰。

菊田裕司——先月に続きすごい発見！A

佐々木寛次郎——...、しかし客寄せ用なら完全な失敗作。

・懸賞問題の1番は、やはり5手のばか詰が欲しいところ。

#18 小原井葉子 第18号局。

48銀直 49玉 58銀 38玉 47銀直 27玉！ 36銀 37玉 48銀 46玉 47銀左上迄11手詰。

堀内真——これは只者ではない。四銀詰の中でも1、2位を争う作。A

SMAP——4手目まで絶対で、その後も前例のある筋。

C

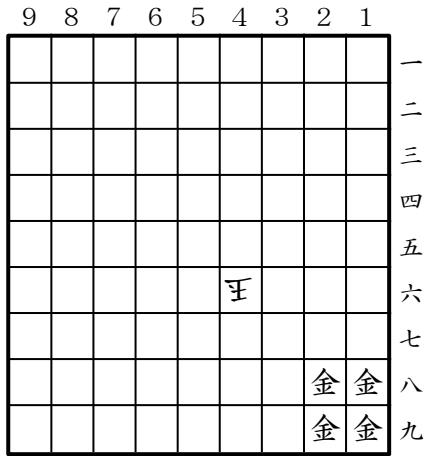
岩本修——詰め上り場所が意外。こんな作品をお払い箱にしたら怒りますよ。

・ペンネームはオハライバコと読むらしい。さて、本作は序盤が絶連の上収束が#8、#9、#11と同じという弱点がある。しかし、逆に見れば11手まで引き延ばし、なお対称形にまとめたという意味でこの収束形の決定版と言っていいと思う。

なお蛇足ながら、以上はあくまで作品についての評価で、作者が前3局を知っていてそれをこまで逆算して仕上げたと言っているわけではない。投稿図によると本作は#17から発想したらしい。これは頷ける。私が言いたいのは、作図の過程がどうであれ、本作はこの収束の(現時点での)決定版であるということだ。

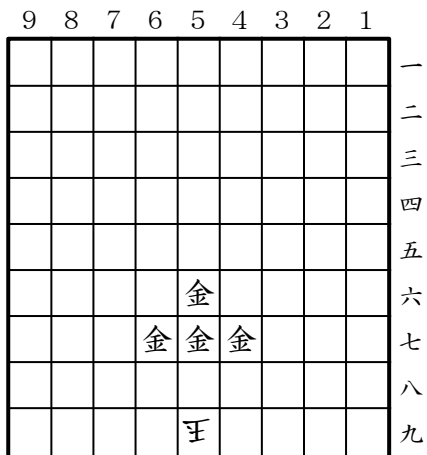
《四金図式の部》

#19 【79-3】 左真樹 9手詰



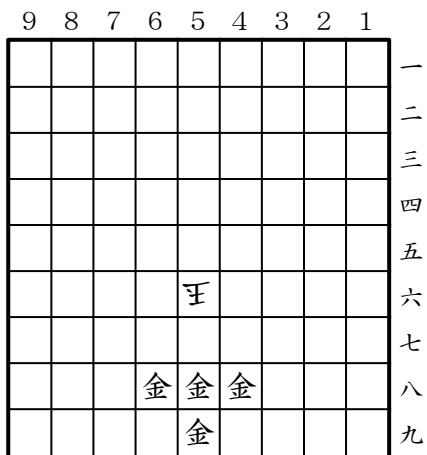
持駒 なし

#20 【79-6】 左真樹 11手詰



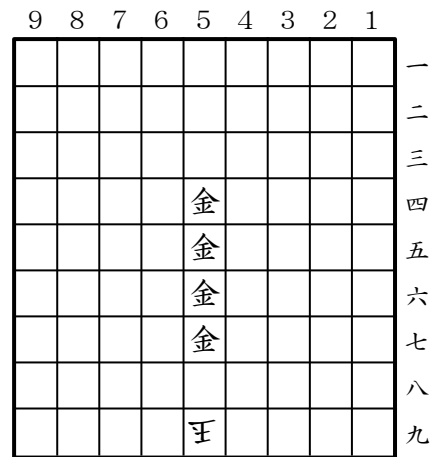
持駒 なし

#21 【79-9】 左真樹 11手詰



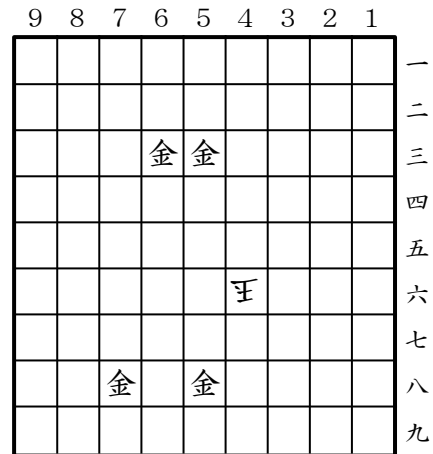
持駒 なし

#22 【80-3】 左真樹 17手詰



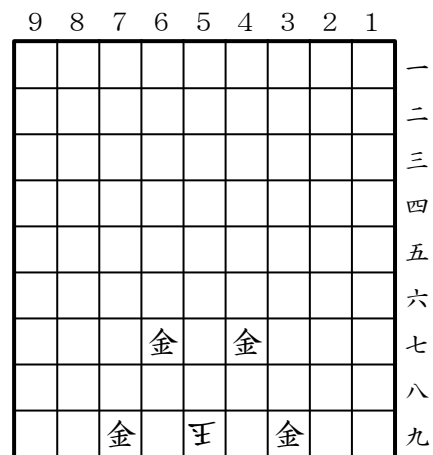
持駒 なし

#23 【82-9】 佐藤伸夫 9手詰



持駒 なし

#24 【82-11】 中出慶一 11手詰



持駒 なし

#25 【85-6】 佐々木康司 9手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王		金			五
						金			六
				金	金				七
									八
									九

持駒 なし

#26 【88-1】 平正利 9手詰

「アプリドール」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				金					二
			金		金				三
				王					四
									五
									六
									七
				金					八
									九

持駒 なし

解：

#19 左真樹 第1号局。

37金 同玉！ 28金寄！ 48玉 38金上 49玉 48金 39玉 38金右迄9手詰。

・左氏の作は常に最高の形に仕上げられているのがよく分かります。乏しい作図経験で言うのですが、四銀図式より四金図式の方が作るのが難しいと感じました。類型手順に陥りやすいことと、手順の限定が難しいことです。

さて、初手は絶対ですがあっさり同玉はちょっと勇気がいる。そして3手目は分かっちゃいるけど、28金斜と行きたくなるんだよね。手順はもちろん完全限定。傑作。

#20 左真樹 第2号局。

58金 49玉 59金！ 38玉 37金 28玉 27金 38玉 49金 47玉 57金（引／寄）迄11手詰。

井上順——最短手数を探す問題はあまり好きではないが、この手順は見事。

ドン草井——6回金を動かして出来る詰み型を考えてやっと解決。A

担当者——...手順も手が狭いわりに難しく、37～27金は盲点。端で詰めようとする、どうしても13手かかる。

・最終手は寄と引のどちらでも良い。四銀図式の#5とペアをなす作。単独作としても見事だし、その上ペアなんだからね。素晴らしい。

#21 左真樹 第3号局。

67金直 46玉 57金右 37玉 47金寄 38玉 48金上 39玉 38金 49玉 48金引迄11手詰。

ドン草井——前衛賞の四銀問題を思わせる好形好手順。手数ヒントがなかったら多分やられていたでしょう。A

嶋紀幸——大げさでなく数百回駒を動かしてやっと見つけました。A

担当者——この作者の一連の四金・四銀詰をみると、いずれも好形でありながら難解なのに驚く。本局も11手で詰めるのはかなり難しく、しかも手順は完全限定。

・この収束の決定版と言える。私も一局作ろうと色々いじってみたが、結局これに似てきてしまって困った。作者は多分正算式で作ったはずで、発表作の数倍の没アイデアがあったらと思います。

#22 左真樹 第4号局。

58金 49玉 59金 38玉 49金 47玉 46金 37玉 36金 47玉 37金 57玉 58金 66玉 65金 56玉 55金引迄17手詰。

・本作は懸賞でなく解付きで発表されたのだが、難し過ぎるからなのか。四金図式中最長手数作の上、しかも非限定が皆無とあっては、啞然とするしかない。唯一の欠点は解図欲が湧きにくいこと？

#23 佐藤伸夫 第5号局。

47金 45玉 36金 56玉 67金 65玉 64金 55玉 54金引迄9手詰。

瀬山士郎——3手目が指しづらかったが 比較的スラスラと解けた。

竹内敏巳——詰め上りが想定しにくい。

・#22の収束形を知っていればすぐ解けるでしょうが、初めてだと苦戦しそうですね。

#24 中出慶一 第6号局。

49金 同玉 48金 39玉 38金 49玉 39金 58玉 68金引 59玉 69金（引／寄）迄11手詰。

亀井陽東——好形がセールスポイント。

大西宏明—あっけない。

担当者—一手が限られていて易しいが仲々良い作品
 と思います。それにしても中出氏は息の長い作
 家で敬服します。

・左右対称の美形に還元玉の詰上りだが、如何せん
 絶連の感。

#25 佐々木康司 第7号局。

46金直 65玉 56金寄 75玉 66金寄 64玉 75金
 55玉 45金 (寄／上) 迄9手詰。

担当者—シリーズ。

・詰上りを想定すれば金の遠回りに気がつくが、
 仲々愉快な手順です。

*余詰：66金 54玉 45金寄 43玉 54金 34玉 25金
 45玉 55金 (引／上) 迄。

#26 平正利 第8号局。

53金引 65玉 64金 56玉 57金 45玉 44金 55玉
 54金引迄9手詰。

飯島—対称形から始まり、玉がクルッと回って対
 称形で詰上がる。

駒井—パズルとしての妙味は乏しいが、綺麗な作
 品。

作者—命名の"a prix d'or"はフランス語で"with a lot
 of gold"の意。四枚とも動くのが気に入っていま
 す。

《参考作品の部》

#27 【72-6】 古閑三雄 15手詰 (余詰)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
			銀	銀	銀				六
									七
			王						八
									九

持駒 なし

#28 【72-11】 宇野敏満 17手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
						金	金		八
								王	九

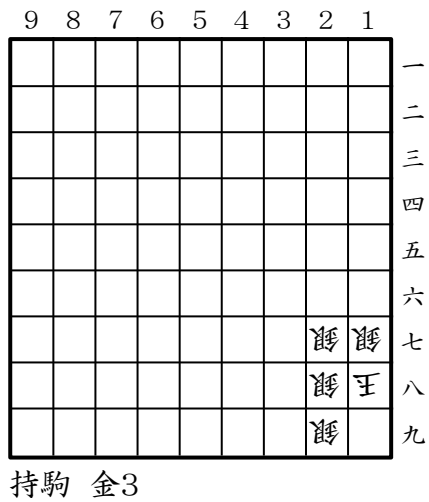
持駒 なし

#29 【75-8】 有吉弘敏 11手詰 (非限定)

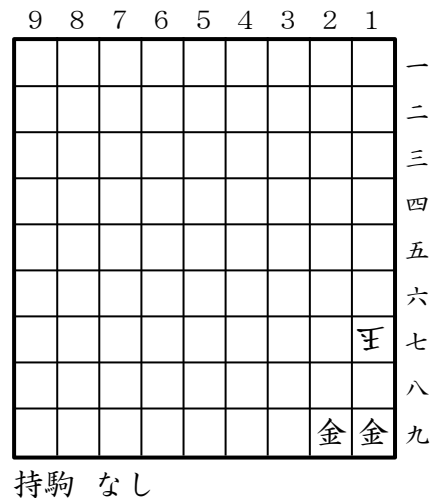
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王	王	七
							王	王	八
							王		九

持駒 銀3

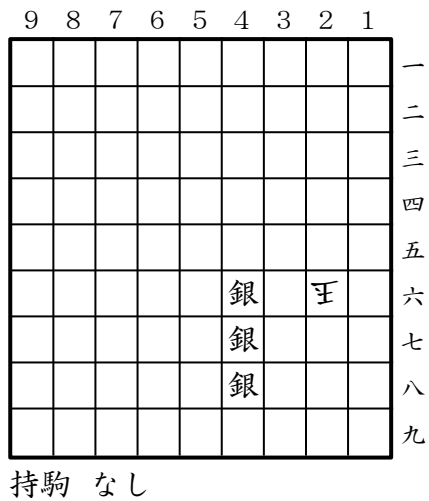
#30 【75-8】 有吉弘敏 11手詰



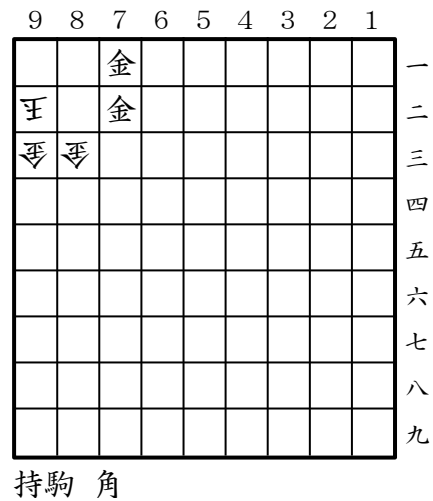
#33 【77-3】 三輪勝明 二金図式 15手詰



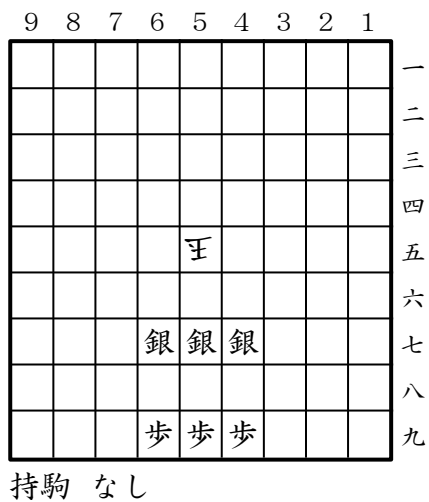
#31 【76-2】 有吉弘敏 9手詰



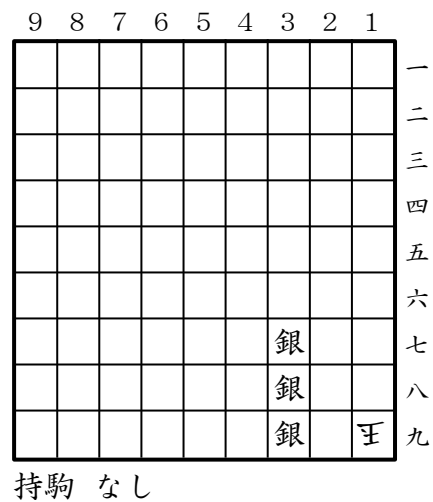
#34 【77-3】 西沢重男 二金図式 5手詰



#32 【76-10】 中出慶一 三銀+三歩 7手詰



#35 【78-12】 中出慶一 三銀図式 11手詰



#36 【79-8】 左真樹 二金図式 17手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
					王		金	金	九

持駒 なし

#37 【80-1】 有吉弘敏 5手詰

[illegible]

持駒 香

#38 【80-7】 磯田征一 二銀図式 5手詰

[illegible]

持駒 なし

#39【81-3】尾崎真倉 持駒あり無防備でない四銀図式 7手詰

[illegible]

持駒 桂

#40 【81-9】 山下洋一郎 5手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
				王				三
				銀				四
		銀						五
								六
			銀	銀				七
								八
								九

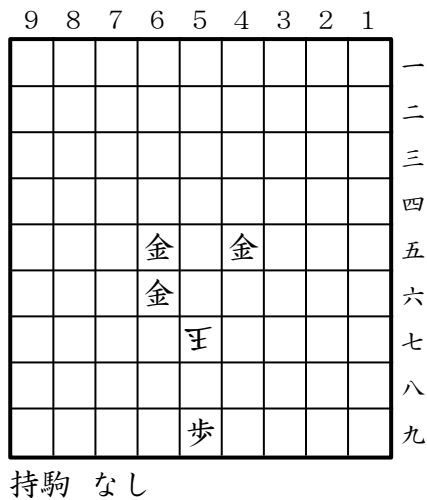
持駒 なし

#41 【84-8】 左真樹 三金+三步 13手詰

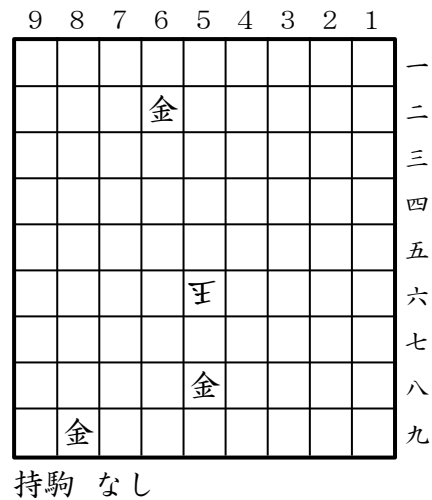
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
			金	金	金				七
									八
			歩	歩	歩				九

持駒 なし

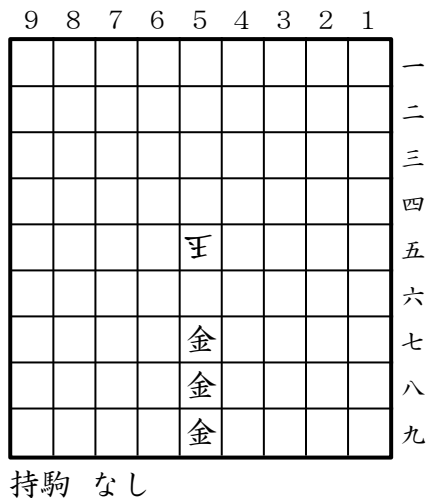
#42 【84-8】 佐々木康司 三金+歩 17手詰



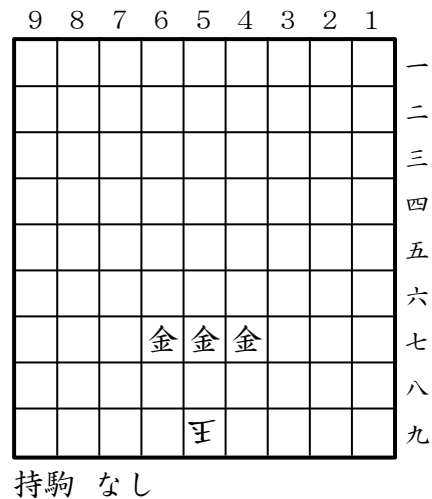
#45 【85-10】 佐々木康司 三金図式 9手詰(不詰?)



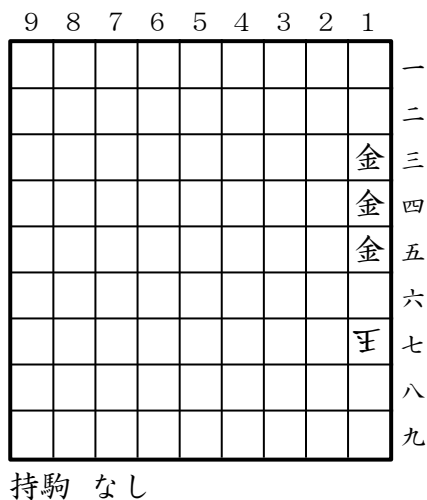
#43 【85-7】 佐々木康司 三金図式 13手詰



#46 【85-10】 佐々木康司 三金図式 13手詰



#44 【85-7】 佐々木康司 三金図式 9手詰



解:

#27 古関三雄 三銀図式 15手詰

57銀右 78玉 67銀 79玉 68銀 88玉 79銀 87玉
76銀 86玉 77銀 96玉 87銀 97玉 88銀迄15手詰。

・非限定が色々ある。昔のことだから無理もないが、
現在では余詰とされるでしょう。

#28 宇野敏満 二金図式 17手詰

18金 29玉 28金左 39玉 29金 48玉 39金 37玉
28金寄 26玉 37金 17玉 27金 18玉 28金引 19玉
29金 (寄/引) 迄17手詰。

・まずは常識的な作。

#29 有吉弘敏 持駒ありの無仕掛四金図式 11手詰

19銀 同金寄 29銀 同玉 A18銀 38玉 27銀 B29玉
38銀 39玉 49金迄11手詰。

・Aより38銀 18玉以下作意通りの中別れがある。
作者はこれを承知の上とのことだ。とは言え次局

とのコンビは素晴らしい。

*Bで49玉もある。残念ながら合せ技で余詰。

#30 有吉弘敏 持駒ありの無仕掛四銀図式 13手詰
19金 同銀 28金 同玉 18金！ 37玉 27金 38玉
37金 28玉 38金 18玉 27銀迄13手詰。

担当者一前局と手順まで対照的なのが面白い。チェスではこう言うのをツイン (双生児) と称して珍重するのである。

*2手目成生非限定。

#31 有吉弘敏 三銀図式 9手詰

37銀上 25玉 36銀左 24玉 35銀左 14玉 25銀
15玉 26銀 (引／上) 迄9手詰。

・前半の3銀上りは趣向的で面白い。

#32 中出慶一 三銀+三步 7手詰

66銀右 45玉 56銀右 46玉 55銀左 57玉 58歩迄7手詰。

・形が面白く、手順もいける。手数ノーヒントで誤解者が続出したらしい。この形で突歩詰とは想像の他？

#33 三輪勝明 二金図式 15手詰

作意：18金左 26玉 17金 37玉 27金 38玉 28金上
39玉 38金 29玉 39金 18玉 28金引 19玉 29金 (寄／引) 迄15手詰。

余詰：28金 (18金右／左) 26玉 17金 37玉 28金
48玉 38金 49玉 48金 39玉 38金 29玉 28金 19玉
18金引迄。

・ちょっと作り物の妙味に欠ける？

#34 西沢重男 持駒ありで無防備でない四金図式
5手詰

81角 91玉 92角成 同金 81金 (上／寄) 迄5手詰。

・左氏の四金図式1号局より早かったが、残念持駒ありだし、無防備でもない。本稿の定義によれば準四金図式ということになってしまう。作者にしてみれば大きなお世話な話でしょうけど。手順はばか詰のエッセンスあり。

#35 中出慶一 三銀図式 11手詰

作意：28銀 (引／上) 18玉 19銀 17玉 28銀左
26玉 37銀 16玉 27銀 17玉 28銀 (引／上) 迄11手詰。

余詰：28銀引 18玉 27銀直 17玉 18銀 26玉 37銀
16玉 27銀 17玉 28銀 (引／上) 迄。

#36 左真樹 二金図式 17手詰

39金 58玉 49金 47玉 58金 37玉 28金 26玉 17金

37玉 48金 28玉 38金 29玉 28金 19玉 18金引迄
17手詰。

・17金を据えるのがミソ。

#37 有吉弘敏 持駒ありの四銀図式+1の字 5手詰

46銀 56玉 57銀 55玉 56香迄5手詰。

・1月号に1の字の立体曲詰。

#38 磯田征一 二銀図式 5手詰

41銀生 42玉 53銀生 51玉 52銀上成迄5手詰。

・成生非限定があり、2手目以降全部で6通りの解がある。

#39 尾崎真倉 持駒あり無防備でない四銀図式 7手詰

56銀 54玉 66桂 同銀右 65銀 55玉 56銀打迄7手詰。

・桂捨で退路を封鎖するのはばか詰ではかえって盲点？好作と思う。

#40 山下洋一郎 無防備でない四銀図式 5手詰

64銀 44玉 53銀生 55玉 56銀左迄5手詰。

・詰上り1の字。

#41 左真樹 三金+三步 13手詰

66金右 45玉！ 56金右 54玉 65金右 45玉 55金寄
46玉 56金左上 47玉 46金 57玉 56金引迄13手詰。

・#32からの発想ということだが、この13手詰も相当なもの。ところで、3枚の歩を59金で置き換えると純正四金図式となるが、さすがに余詰んでしまうようだ。

#42 佐々木康司 三金+歩 17手詰

作意：58歩 47玉 46金 48玉 47金 49玉 48金 59玉
49金 A69玉 59金 78玉 69金 77玉 76金 67玉
66金引迄17手詰。

余詰：Aで68玉 59金 77玉 76金 78玉 69金 67玉
66金引迄。

・余詰は手順前後のよう。歩を生かした詰形を考えれば解くのはそれほど難しくなさそうだが、実際に解くとそうはいかないんでしょうね。玉が一回転するのは面白い。

#43 佐々木康司 三金図式 13手詰

46金 65玉 (66玉) 56金 76玉 66金 77玉 67金引
78玉 68金上 79玉 78金 69玉 68金引迄13手詰。

小林美人—58金を動かさないことに気づいてようやく解けた。

作者—【84-8】の左真樹氏の作 (#41) からヒントを得て、12作作ったら8作つぶれ。

#44 佐々木康司 三金図式 9手詰

16金 27玉 17金 36玉 27金 25玉 24金 15玉
14金引迄9手詰。

・絶連。

#45 佐々木康司 三金図式 ?

・#44～#46の三作は、懸賞出題された#43の結果発表の時に、次のように文字だけで発表された。

1、17玉、13金14金15金 9手

2、56玉、62金58金89金 9手

3、59玉、47金57金67金 13手

1が#44、2が#45、3が#46となる。#44と#46は無事に(?)詰んだが、#45は謎の配置。9手ではとても詰むとは思えない。誤植か?

＊ここに名探偵登場。神無太郎「62金は29金の誤植ではないか。」

それが正しいとすると、次のようなきれいな左右対称形になる。そしてこれが9手詰の完全作となるのだ。おー！そうに違いない。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				王					六
									七
				金					八
	金						金		九

持駒 なし

手順：47金 67玉 78金 58玉 68金 59玉 58金 49玉
48金引迄9手詰。

#46 佐々木康司 三金図式 13手詰

作意：58金 49玉 48金寄 39玉 38金 49玉 39金
58玉 A57金右 69玉 68金 59玉 58金引迄13手詰。

余詰：Aより、48金引 69玉 68金 59玉 58金右迄。

・左氏の四金図式(#20)と比較していただきたい。
あっちの作(11手詰)ではちゃんと56金の顔が立っている。



付録A 関連記事

カピタン誌に掲載された「幻想詰将棋型録」関連記事の再録。

(神無太郎)

「第1章について」磯田征一

(カピタン18号)

泰永氏の幻想詰将棋型録は「待ってました！」そろそろ全体を通観・整理する人が出てもいい頃と思っていました。これからが楽しみです。

第1章「ばか詰教室」以前が17号で終わりとすると、触れておいた方がいいのではないかという作品が二、三あります。

私もフェアリーだけを集中的に調べた訳ではなく、たまたま眼についたものです。

① 飛を詰ます問題

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
								金	四
						歩		歩	五
						歩		飛	六
							歩	金	七
								金	八
									九

持駒 飛 金 香

② センチ詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	歩	龍							一
王			金						二
	歩								三
			王						四
銀									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 香2

③ 安南詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	王	歩							三
									四
歩									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金2 銀 桂

④ 安南詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					歩				一
						歩		王	二
								桂	三
				歩			銀		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

⑤ 安南詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	歩		一
						銀		王	二
							王	桂	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 金

① 53号【60-5】鴨藤弘・飛を詰ます問題・26金、同飛、23飛、25合、28香、同金、17金迄7手

② 70号【61-11】かにえ・よしなが・センチ詰め・94香、93桂、同香成、同玉、85桂、92玉、72龍以下27手駒余り（早詰あり）

- ③ 119号【65-12】原岡望・朝鮮将棋応用の詰棋・74金、72玉、64桂、62玉、52金、71玉、72銀以下15手
- ④ 162号【69-7】田宮克哉・安南詰将棋・23飛、11玉、14飛成、21玉、23龍以下11手・2手目24桂で不詰
- ⑤ 同上・余詰・180号【71-1】・修正図・23飛、同金、15金、12玉、23桂成、同香、22金以下15手

「幻想詰将棋型録2について」 出口信男
(カピタン19号)

- ・ #32 6手目27玉としたら詰むでしょうか。又、8手目同玉以下不詰と思う。
- ・ #40 56銀、同玉、16飛、67玉、58角、同と迄余詰
- ・ #49 37飛、26玉、16金、同と、35銀迄余詰。誤植? ★発表図の通り
- ・ #54 初手より、86竜、74玉、75竜、83玉、84竜、72玉、82竜、61玉、62歩、52玉、53角右成、41玉、71竜、A61金合、42歩、B52玉、41歩成、同玉、61竜、51歩合、42歩、31玉、32歩、21玉、22歩、11玉、21歩成、同玉、51竜、41歩合、22歩、11玉、21歩成、同玉、41竜、31歩合、11金、同玉、31竜、21金合、22銀生、12玉、21竜、23玉、11銀生、C13玉、24竜、12玉、14竜、21玉、12金、32玉、22金、33玉、13竜、23歩合、同金、34玉、24竜、45玉、35竜、56玉、46竜、67玉、56竜、同玉迄早詰
A51金は42歩... B31玉は32歩...
C34玉は35金、33玉、34金、同玉、24竜、以下最後、先手方は持駒が歩しかなく、二歩で打てないので詰み。
- ・ 「第1章について」の⑤ 12飛、同玉、22桂成、13玉、15香、同金、24金まで早詰

☆拙稿カタログに対する磯田・出口両氏の手紙は有難いものです。①～③は未見でした。出口氏の余詰指摘で検討能力の低さを暴露。まあこんなものですので諸氏の睨みを期待するのみ。
(泰永)

「不完全指摘 (幻想型録3)」 出口信男
(カピタン20号)

- ・ #63 (自殺煙) 3手目より、86角、同金、88と右、76玉、86と、同玉、97と直、76玉、66と、同玉、65馬、57玉、68と、48玉、49金、37玉、38龍、26玉、35龍、27玉、26金、同桂、18飛成、同桂成まで早詰
また95手目83馬の手で、72金、51玉、62飛成、41玉、74馬、52合、同馬、32玉、22と、同金、42馬、21玉、22香成、同玉、33馬以下早詰
- ・ #73 48銀、36玉、54角、46玉、36飛まで早詰
- ・ #76 53銀成、32飛、42金、33飛、32金、23飛、22全、33飛、32全、23飛、24歩、13飛、23歩成、11飛、22金まで余詰
- ・ #77 39歩、26歩、54歩、36歩、38金迄余詰

「幻想詰将棋型録3について」 三猫子
(カピタン20号)

幻想詰将棋型録、毎号楽しみにして居りますが、今号 (19号) を拝見して少々疑問を持ちましたので...

#56ですが、最初、63桂、42玉、34桂、31玉、42桂成、同歩、43桂、41玉、51桂左成まで9手と読み、持駒は桂3の間違いと思いました。ところが解答の部分には桂4を使用し、余詰とあります。バカ詰の場合、持駒は、指定されたものを全部使用しなければならないのですか?

持駒桂3なら余詰もなく(?) (3手目54桂もあり) 完全作だと思いますので...

★使わなくてもかまいません。余詰ですね。作品としては、作意順で駒が余るのは不完全なので、完全作ならば余らないはず。

「ガーナだより」 泰永三二郎
(カピタン21号)

早いものでガーナに来てもう3月たちました。心配していたマラリアにもまだかからず、元気に暮しています。

当地のボード・ゲームですが、出発前に丸尾氏より教えて頂いたマンカラ系のゲーム [ガーナで

は“ワリ”という名前と呼ぶ]は確かに存在しますが、ガーナ人が実際にプレイしているのを見たことがありません。単純すぎて妙味に乏しいことがその原因と思われ、結局木彫りの民芸品といった扱いのようです。

そのかわり頻繁に見かけるのはチェッカーです。これはちょうど日本の縁台将棋という感じで、昼間から道端でやっています。名称は英国式にドラフツ (draughts) といい10×10の大型のボードを使用します。ルールはまだ詳しく知りませんが、いわゆるチェッカーとは少し違うみたい。

小生は日本から、将棋・囲碁・チェスを持ってきたのですが、あまり興味を感じてくれないのでガッカリ。

「幻想詰将棋型録」は当地でも書き続けるつもりですが、資料が当然のことながら完備しているわけではないのが不安の種、お助け〜。

(55・10・30)

「幻想詰将棋型録について」 出口信男

(カピタン21号)

・#75 駒ばか詰 (角) 10手目41馬の手で、84馬、85歩、83馬、84歩、73馬、83歩成、74馬、84と、64馬、74と、65馬、75と、A32馬、31桂成、22馬、23歩、33馬、32圭、11馬、22圭まで同手数で別詰あり。

またAより、83馬、84と、82馬、83歩、92馬、93と、91馬、82とまでもある。

・#87 45金、同香、44角成、46玉、55馬、35玉、45馬、26玉、28香、17玉、27馬まで余詰。

・#92 5手目より、36銀、46玉、47銀左まで非限定のキズーというより余詰か。

・#93の2手目は13玉が正しい。

・#94 13銀生、23玉、12銀生、13玉、24銀成、22玉、33全、13玉、23銀成まで

これはやはり余詰でしょうね。

「幻想型録休載」 泰永三二郎

(カピタン25号)

フェアリー詰将棋の到達点と未到の分野を照らすという雄大な(?)意図で書き始めた拙稿“幻想詰将棋型録”は通算58ページで中止とします。

見当はずれなことも好きかってに書かせてくれ

た加藤編集長並びに執筆中いろいろと御教示を受けた方々に感謝します。

特に大量の不完全作指摘をして下さった出口氏には驚くほかありません。残念ながら執筆期間が79年の暮から80年の2月にかけてだったので、氏の貴重な指摘を反映させることができませんでした。いつかもっとましなものに書き直したいと思っていますが...

今年の日本の夏はいかがでしょうか?すくなくも当地よりは暑いでしょう。今は寒いぐらいの季節でガーナ人の中には毛糸のカーディガンをはおっている者もチラホラみかけます。

詰棋は少しずつ作っていますが検討が大変です。自殺詰等、誰か検討を協力してくれる奇特な人はいないでしょうか?

★幻想型録中止は残念。帰国後の復活を待っています。(K)

「帰国しました」 泰永三二郎

(カピタン30号)

帰国しました。日本は何でもあるし食べ物も美味くていいですね。拙作自殺詰は余詰作の連発で全く恥ずかしい。ストックはまだありますが、これでは当分発表できそうもありません。

◇無事帰国されたとのこと、お喜び申し上げます。ガーナの2年間はいかがでしたか?チョコレートをおみやげにいただきましたので、30号詰コの作者・解答者から抽選で8名の方にさしあげます。(K)

付録B 検討結果

本編（第1章～第4章）に収録されている作品の現時点での検討結果を以下に示す。詳細な検討結果がOnsite Fairy Mateの「資料」のページ (<http://k7ro.sakura.ne.jp/data.html>) に掲載されているものに関しては、▼Onsite Fairy Mateと付記しているので参照されたい。

(神無太郎)

収録作品	検討結果	▼Onsite Fairy Mate
#1 S・おぎの 67号【61-8】	早詰：7手	
#2 S・おぎの 67号【61-8】	早詰：15手	
#3 S・おぎの 67号【61-8】	余詰	
#4 S・おぎの 67号【61-8】	早詰：15手	
#5 S・おぎの 67号【61-8】	余詰	
#6 凡骨生 72号【62-1】	完全	
#7 久塚郷行 75号【62-4】	完全	
#8 板橋あさゑ 85号【63-2】	完全：非限定	
#9 中出慶一 169号【70-2】	早詰：15手	
#10 中出慶一 169号【70-2】	早詰：7手	
#11 中出慶一 169号【70-2】	早詰：37手	
#12 中出慶一 169号【70-2】	早詰：45手	
#13 中出慶一 169号【70-2】	早詰：55手	
#14 中出慶一 169号【70-2】	早詰：11手	
#15 花沢正純 173号【70-6】	完全：非限定	
#16 花沢正純 173号【70-6】	余詰	
#17 加藤徹 173号【70-6】	早詰：101手	▼Onsite Fairy Mate
#18 加藤徹 176号【70-9】	余詰	
#19 加藤徹 176号【70-9】	完全	
#20 加藤徹 183号【71-4】	完全：非限定 (2解)	▼Onsite Fairy Mate
#21 加藤徹 183号【71-4】	完全：非限定	▼Onsite Fairy Mate
#22 門脇芳桂 181号【71-2】	余詰	
#23 門脇芳桂 181号【71-2】	早詰	
#24 自殺詰 加藤徹 188号【71-9】	完全	▼Onsite Fairy Mate
ad1 91飛を詰める 駒詰 蟹江悦蔵 旧パラ【52-3】	余詰	
ad2 安南詰 津金貞男 新パラ【54-10】	完全	
#25 花沢正純 191号【71-12】	完全	
#26 花沢正純 192号【72-1】	完全	
#27 井上賢一 192号【72-1】	完全	
#28 花沢正純 193号【72-2】	完全	
#29 花沢正純 193号【72-2】	完全	
#30 金成憲雄 193号【72-2】	完全	
#31 花沢正純 193号【72-2】	完全	
#32 自殺詰 原敏彦 195号【72-4】	不詰	▼Onsite Fairy Mate
#33 25桂を詰める 原敏彦 192号【72-1】 サロン	余詰	
#34 中出慶一 194号【72-3】	完全：非限定	
#35 花沢正純 195号【72-4】	余詰	
#36 花沢正純 195号【72-4】	完全	
#37 中出慶一 194号【72-3】	完全：非限定	

収録作品	検討結果	▼Onsite Fairy Mate
#38 大和敏雄 195号【72-4】	完全	
#39 金成憲雄 195号【72-4】	完全	
#40 ばか自殺詰 原敏彦 195号【72-4】 サロン	余詰	
#41 花沢正純 196号【72-5】	完全	
#42 中村裕行 196号【72-5】	完全	
#43 中出慶一 196号【72-5】	完全	
#44 花沢正純 196号【72-5】	余詰	
#45 久米良昭 197号【72-6】	完全	
#46 阿部昭男 197号【72-6】	完全	
#47 加藤徹 197号【72-6】	完全：非限定	
#48 非連続王手ばか詰 宇野敏満 198号【72-7】	余詰	
#49 花沢正純 198号【72-7】	余詰	
#50 西尾行広 198号【72-7】	余詰	
#51 中村裕行 198号【72-7】	完全	
#52 中村裕行 198号【72-7】	完全	
#53 大橋雅道 199号【72-8】	完全	
#54 自殺詰 深井一伸 199号【72-8】	早詰：26手	▼Onsite Fairy Mate
#55 石川雅夫 200号【72-9】	完全	
#56 大橋雅道 200号【72-9】	余詰	
#57 宇野敏満 202号【72-11】	完全：非限定	
#58 堀口・中村裕行合作 201号【72-10】	完全：すかし詰	
#59 中村裕行 202号【72-11】	完全：すかし詰	
#60 鮎川哲朗 200号【72-9】	完全：非限定	
#61 鮎川哲朗 207号【73-4】	完全：非限定	▼Onsite Fairy Mate
#62 自殺詰 花沢正純 202号【72-11】	完全：非限定	▼Onsite Fairy Mate
#63 自殺詰 花沢正純 203号【72-12】	早詰：26手	▼Onsite Fairy Mate
#64 森茂 203号【72-12】	完全：非限定 (2解)	▼Onsite Fairy Mate
#65 大橋雅道 203号【72-12】	完全	
#66 中村裕行 203号【72-12】	完全	
#67 加藤徹 203号【72-12】	完全：非限定	
#68 森茂 204号【73-1】	完全：非限定 (2解)	▼Onsite Fairy Mate
#69 森茂 204号【73-1】	完全	
#70 非連続王手ばか詰 宇野敏満 205号【73-2】	完全	
#71 阿部昭男 207号【73-4】	完全	
#72 阿部昭男 208号【73-5】	完全	
#73 阿部昭男 205号【73-2】	余詰	
#74 阿部昭男 206号【73-3】	完全	
#75 11角を詰める 阿部昭男 207号【73-4】	完全：非限定多数 (500解)	
#76 42飛を詰める 阿部昭男 208号【73-5】	余詰：修正図でも余詰	
#77 非連続王手ばか詰 宇野敏満 206号【73-3】	余詰	
#78 中出慶一 208号【73-5】	完全	
#79 中村裕行 206号【73-3】	完全	
#80 森茂 207号【73-4】	完全：非限定 (2解)	▼Onsite Fairy Mate
#81 橋本大 209号【73-6】	完全	
#82 太田啓好 210号【73-7】	完全	
#83 八尋無段 211号【73-8】	完全	
#84 新田道雄 209号【73-6】	完全：非限定	
#85 阿部昭男 212号【73-9】	余詰	

収録作品	検討結果	▼Onsite Fairy Mate
#86 阿部昭男 221号【74-6】	完全	
#87 阿部昭男 211号【73-8】	余詰	
#88 46龍を詰める 小林看空 210号【73-7】	余詰	
#89 森茂 210号【73-7】	完全	▼Onsite Fairy Mate
#90 森茂 211号【73-8】	早詰：355手	▼Onsite Fairy Mate
#91 森茂 212号【73-9】	完全	▼Onsite Fairy Mate
#92 中出慶一 213号【73-10】	完全：非限定	
#93 八尋無段 214号【73-11】	完全	
#94 花沢正純 214号【73-11】	完全：非限定	
#95 八尋無段 213号【73-10】	余詰	
#96 八尋無段 215号【73-12】	完全	
#97 花沢正純 215号【73-12】	完全：非限定	
#98 鮎川哲朗 213号【73-10】	早詰：1323手	▼Onsite Fairy Mate
#99 自殺詰 花沢正純 213号【73-10】	完全：最終手非限定	▼Onsite Fairy Mate
#100 自殺詰 花沢正純 213号【73-10】	早詰：44手	▼Onsite Fairy Mate
#101 自殺詰 花沢正純 213号【73-10】	早詰：36手	▼Onsite Fairy Mate
#102 ばか詰 古関三雄 216号【74-1】	完全	
#103 ばか詰 山本善章 216号【74-1】	完全：透かし詰	
#104 ばか詰 柳田明 219号【74-4】	余詰	
#105 ばか詰 中出慶一 215号【73-12】	余詰	▼Onsite Fairy Mate
#106 非連続王手ばか詰 太田啓好 218号【74-3】	完全？	
#107 非連続王手ばか詰 太田啓好 219号【74-4】	完全？：作意非限定	
#108 ばか詰 新田道雄 219号【74-4】	完全：透かし詰	
#109 51角を詰める 八尋無段 217号【74-2】	完全：非限定	
#110 ばか詰 加藤徹 216号【74-1】	完全	▼Onsite Fairy Mate
#111 ばか詰 加藤徹 218号【74-3】	完全：非限定	▼Onsite Fairy Mate
#112 ばか詰 加藤徹 219号【74-4】	完全：非限定	▼Onsite Fairy Mate
#113 ばか詰 鮎川哲朗 217号【74-2】	早詰：3425手	▼Onsite Fairy Mate
#114 マキシ詰 若島正 219号【74-4】	余詰	
#115 マキシ詰 若島正 219号【74-4】	完全：非限定	
#116 マキシ詰 若島正 219号【74-4】	完全：非限定	
#117 マキシ詰 若島正 219号【74-4】	余詰	
#118 マキシ詰 若島正 219号【74-4】	余詰	
#119 マキシ詰 若島正 219号【74-4】	余詰	
#120 ばか詰 八尋無段 219号【74-4】	完全	
#121 ばか詰 中出慶一 220号【74-5】	完全	
#122 ばか詰 八尋無段 222号【74-7】	完全	
#123 ばか詰 太田啓好 220号【74-5】	完全	
#124 ばか詰 太田啓好 220号【74-5】	完全	
#125 ばか詰 太田啓好 220号【74-5】	完全	
#126 ばか詰 中出慶一 221号【74-6】	完全：手順前後	
#127 ばか詰 森茂 220号【74-5】	早詰：2133手	▼Onsite Fairy Mate
#128 ばか詰 79手詰 加藤徹 221号【74-6】	完全：非限定	▼Onsite Fairy Mate
#129 ばか詰 331手詰 加藤徹 222号【74-7】	完全：非限定	▼Onsite Fairy Mate
#130 ばか詰 101手詰 森茂 222号【74-7】	早詰：67手	
#131 ばか詰 5349手詰 加藤徹 244号【76-5】	早詰：5329手	▼Onsite Fairy Mate
#132 ばか詰 八尋無段 224号【74-9】	余詰	
#133 ばか詰 加藤徹 224号【74-9】	早詰：131手	

幻想詰将棋型録 (新装版)

収録作品	検討結果	▼Onsite Fairy Mate
#134 ばか詰 加藤徹 225号 【74-10】	早詰：43手	
#135 ばか詰 浦壁和彦 225号 【74-10】	完全：手順前後	
#136 ばか詰 八尋無段 225号 【74-10】	早詰：59手	
#137 駒ばか詰 加藤徹 228号 【75-1】	完全：非限定 (2解)	



幻想詰将棋型録

泰永三朗